

宵 振

43号 2025年 2月

福岡歯科大学

福岡歯科大学同窓会

《巻頭フォト》

『New Era: Bridging Legacy and Progress』

撮影者：川口智弘（29期）

撮影日：令和6年11月13日

カメラ：Sony α7C

レンズ：Sony Vario-Tessar T* FE 24-70mm F4 ZA OSS

設定：F8、露出時間 1/500 秒、ISO100



「表紙題字：故 松本洋一名誉学長 書」

目 次

巻頭言	「多様性と友好性」	福岡歯科大学同窓会長	吉 永 修	1
挨拶	「ご挨拶」	福岡学園理事長	水 田 祥 代	2
〃	「ご挨拶」	福岡歯科大学学長	高 橋 裕	3
〃	「ご挨拶」	参議院議員	比嘉奈津美	4
退職挨拶	「22年間、有難うございました」	病院長・歯周病学分野 教授	坂 上 竜 資	5
〃	「退職のご挨拶」	口腔インプラント学分野 教授	城 戸 寛 史	6
〃	「定年退職のご挨拶」	口腔外科学分野 教授	池 邊 哲 郎	7
〃	「定年退職を迎えて」	内科学分野 教授	大 星 博 明	8
留学（本部同窓会学術振興事業）「国内留学を経て」		口腔インプラント学分野	新 藤 美 湖	10
留学（本部同窓会学術振興事業）「第13回アジア小児歯科学会での発表」		成育小児歯科学分野	姫 野 涼 香	13
私の臨床	「前歯部欠損における審美補綴処置の選択基準」～インプラントはファーストチョイスか？～		小 坪 義 博	14
スペシャルコーナー	福岡歯科大学本館の現在			33
学会報告	「令和6年度公益社団法人日本補綴歯科学会九州支部学術大会を主管して」	冠橋義歯学分野教授	松 浦 尚 志	38
〃	「第69回公益社団法人日本口腔外科学会・学術大会の報告と御礼」			
		口腔腫瘍学分野 准教授	橋 本 憲 一 郎	39
府県同窓会だより	福岡県東「福岡県東同窓会会長就任のご挨拶」	福岡県東同窓会会長	安 河 内 真 司	40
〃	福岡県南「福岡県南同窓会会長就任のご挨拶」	福岡県南同窓会会長	山 下 良 太	41
〃	福岡県北「十年一昔 次の10年へ」	福岡県北同窓会会長	静 岡 佳 克	42
〃	京都・滋賀「ご挨拶」	京都・滋賀同窓会会長	桜 井 孝 徳	43
〃	沖縄県「福岡歯科大学同窓会懇親会 in 沖縄」	沖縄県同窓会会長	松 島 一 夫	44
学内振興事業	「これまでの活動報告と今後の展望」	歯科保存学分野	松 本 和 磨	45
〃	「これまでの研究報告と今後の展望」	機能構造学分野	林 慶 和	46
OB会だより	「福岡歯科大学ヨット部創部50周年記念祝賀会」	ヨット部 OB 会	林 英 佑	48
〃	「部活動の本質と守るべきもの」	剣道部 OB 会	森 永 健 三	50
親子で頑張る同窓生	「父、息子共にバレーボール部」		時 任 高 秀／高 聖	51
〃	「得意淡然 失意泰然」		神 田 恭 宏／恭 佑	52
〃	「親子進歩」		本 多 拓 也／孝 近	53
〃	「新しい歯科医師人生のスタート」		石 井 啓 一／歩	54
学園通信	「福岡学園はいま」		学園企画課	55
学生だより	健康まるごと福岡学園「第47回田の歯科祭」を終えて	実行委員長	梁 瀬 拓 斗	63
昇格者・学位取得者紹介				65
本部会務報告	令和5年度定時評議員会・総会報告		江 藤 ゆ かり	67
〃	第71回全国歯科大学同窓・校友会懇話会		黒 木 康 夫	68
〃	12校会議報告		江 藤 ゆ かり	68
〃	学術事業報告		松 永 興 昌	69
〃	・第36回学術講演会報告		荒 川 未 来	69
〃	・2024年度スキルアップセミナー	森 川 秀 典・	荒 川 未 来	69
〃	・第42回ハンズオンセミナー		田 中 宏	71
〃	・第43回ハンズオンセミナー		谷 口 友 一	71
〃	・第44回ハンズオンセミナー		永 井 千 晶	72
〃	・第40回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会		葛 西 秀 夫	72
〃	福祉厚生（災害対策）委員会報告		東 義 隆	73
〃	ご逝去のお知らせ			73
〃	「比嘉なつみ」後援会入会のご案内		松 島 一 夫	74
福岡歯科大学同窓会役員名簿				75
会務報告				77
会計報告				81
福岡歯科大学同窓会会則・諸規則				86
編集後記			要 光	101

《巻頭言》

「多様性と友好性」



福岡歯科大学同窓会
会長 吉永 修（4期）

同窓生の皆さん、日頃より同窓会運営に協力していただきありがとうございます。同窓会は役員を少しずつ若い先生方に移行し、新たな考えの下に組織改革を行いながら、同窓会50周年事業に向かって頑張っております。

卒業生も5千人に近付き、一期生は古希を迎えられました。幅広い世代になりジェネレーションギャップが生まれてきました。どの世代が正しいというのではなく、すべての世代の考えが正しいと思います。この多様性に満ちた考えを母校である福岡歯科大学というキーワードで一つにするのが同窓会という存在です。また同窓会を細分化すると、各支部ということになります。同窓会員でも地域によって考え方が異なるので、それぞれの地域にあった考え方をすることは重要です。その基本となるのは「個」を生かすことと私は考えます。誰一人として犠牲になることなく、謙譲の心をもって生きることにより、ベクトルが揃い大きく前進していけるのです。

同窓会は同窓生全員の幸せを後押しし、手助けするために存在し活動しています。そのため、本部の基本姿勢として可能な限り数多くの同窓生との触れ合いを第一に考えています。支部で集まりがあるときには、可能な限り私を筆頭に誰か本部から派遣するようにしています。また同窓生が一同に集まり、旧交を深めることを目指しています。その一つの試みとして九州で行われている九州地区連合歯科医師会（九地連）の同窓会懇親会を活用し、6月の総会時の懇親会と合わせて年二回の懇親会を昨年の宮崎大会から始めました。九州地区以外の先生方には馴染みがなく、違和感を覚えるかもしれませんが、同窓生が一同に集まる機会を増やし、膝を突き合わせて話す機会を創るという目的で始めました。次回は福岡で開催されます。持山会長をはじめ福岡西同窓

会の先生たちがすでに準備を開始されていますので多くの先生方の参加をお願いいたします。

今年は沖縄で開催され、松島会長をはじめ沖縄支部の先生方のご尽力により約180名の同窓生が集まり盛大に行われました。沖縄支部の先生方お疲れさまでした。ありがとうございます。このように同級生、クラブの先輩、後輩と話す機会が増えることにより、一体感が深まりベクトルを同じ方向に向けることができると考えます。

医療業界に限らず、現在いろいろと危機が訪れています。世界規模の災害（地震、集中豪雨、干ばつ、疫病など）、人口急増（80億人超）、戦争など。このような時代を生き抜くのに利己主義では生き抜くことはできないと思います。皆で助け合い、同窓生みんなが幸せになることを考えなくてはなりません。ここで「友好性」がキーワードになります。みんな仲良くすることです。先輩は後輩のことを思いやり、後輩は先輩のことを敬うことが重要です。

ここで幸田露伴の『努力論』で主張している三つの「福」幸福三説を紹介します。

「惜福」せきふく

たまたま自分に与えられた福を使い果たすことなくとっておく。そうすると、いつそう福が廻って来る。

「分福」ぶんふく

自分に来た福を独り占めしないで、人と分かち合うこと。これにより、よりいっそう大きな福がやって来る。

「植福」しょくふく

例えば農家の人が裏山に杉の苗木を植え、その杉の木がいずれ大きくなる。その頃、自分は死んでしまっても、その恩恵を被ることはないかもしれないが、子孫の役に立つこともあるだろう。そういうことで木を植えておく。

このような考え方を同窓会に根付かせたいと思います。今後ともご協力をお願いします。



「ご挨拶」



学校法人福岡学園
理事長 水田 祥代

福岡歯科大学同窓会の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃から格別のお引き立てをいただき、御礼申し上げます。本学も約5,000名の卒業生を輩出する大学となりました。2024年度（令和6年度）の入学選抜では、96名の入学定員をオーバーする新入生が入学してきました。これも偏に同窓会の皆様のご協力の賜物であると感謝いたしております。引き続き定員確保に向けて努力してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、2025年は新本館の完成の年となります。2024年2月、新キャンパス整備計画Ⅰ期工事として新本館（5階建て）の建設がはじまりました。「学園をつなぐ」、「地域をつなぐ」、「人をつなぐ」、「未来をつなぐ」という4つのコンセプトを掲げ、「口腔医学」の理念実現のために、学生の学修意欲や愛校心を向上させる学生ファーストのキャンパスづくりを念頭に計画してきました。敷地の中心にはパーク（広場）を設置し、学園全体がつながるような配置計画とし、病院と新本館を接続する一体的な外観づくりで、地域に対しても学園の存在をアピールしています。さらに、様々な省エネルギー対応で使用エネルギーを削減し、持続可能な社会の実現にも貢献できるようになっています。

今年7月に完成した後は、8月に引越し、9月から使用開始予定です。その後10月からは既存の本館の解体工事に掛かるとともに、併せて、体育館やアニマルセンターの新築移転工事を進めています。最終的に新キャンパス整備計画が終了するのは、2029年1月の予定で、次のステージを見据えた環境整備に注力していきます。

新本館の内部は、同じフロアに研究室などの「研究ゾーン」と講義室や実習室などの「教育ゾーン」を配置し、教員の動線上で学生の様子を日々見ることができるようになり、教員と学生の距離を縮め、より細かな支援を生み出すことができます。また、これまで校舎が離れていた福岡医療短期大学も新本館に移転するため、歯科大学と医療短期大学の学生同士の新たな交流が生まれ、活気溢れるキャンパスになることを期待しています。

その他本学では、研究活動にも力を入れており、若手を中心とした研究者の活躍も目覚ましいものがあり、3月には福岡歯科大学の学生が「日本小児歯科学会学部学生優秀賞」を受賞したほか、大学院生が各学会において優秀賞を受賞するなど、今後の更なる活躍が期待されます。本学は、研究施設である「口腔医学研究センター」を拠点として分野の垣根を越えた相互連携による研究活動を推奨しており、今後、学園3大学の研究基盤を強化し、独自の先駆的研究活動や国内外の研究機関との共同研究を推進するとともに、研究マインドを持つ学部学生、大学院生の育成の場としてさらに活用していくこととしています。

また、コロナ禍で中止を余儀なくされていた国際交流関係業務についても可能な限り再開したいと考えており、10月には米国サンフランシスコで開催されたACS Clinical Congress 2024に参加して各国からの参加者との意見交流を行ったほか、11月には英国リバプール大学に赴き、学生交流協定の再締結に調印してまいりました。このように口腔医学を通して欧米（英国リバプール大学、カナダブリティッシュコロンビア大学）やアジア（上海交通大学口腔医学院、中国医科大学口腔医学院、慶熙大歯科大学）の大学等との国際交流を再開し、進行するグローバル社会で活躍できる国際感覚と幅広い視野を備えた人材の養成にも尽力していきたいと考えております。

最後になりますが、2024年も教職員が一丸となっていろいろなことに対し、前向きに歩んでまいりましたが、同窓生の皆様にはご自愛の上、これからも温かく本学をご支援、ご鞭撻いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

「ご挨拶」



福岡歯科大学
学長 高橋 裕（3期）

同窓生の皆様には、いつも福岡歯科大学に対しまして、ご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

福岡歯科大学は「体心技」を建学時の精神とし、体心技一如の教育をして、「体」：健康な身体（心と体）、「心」：医療人としての心、「技」：歯学に関する専門の学問・技術、を有する歯科医師を育成することを教育理念として、1973年4月12日に開学しました。

歯科医師国家試験に関しては、知識のみを問う、実技のない、年1回の、29大学が出揃った現在のよう国試になったのは1985年度からで、その時、本学の国試成績は29番目でした。それから1989年度までは、本学は26～28番目に低迷していました。そこで本学は法人の指導の下、国試対策最優先の教育を行うことにしました。全国で初めて臨床実習を半年前倒しにして、6年生に1年間の国試対策授業を実施し、5年生には臨床実習期間中にも知識教育を行いました。その後、徐々に国試の順位は上っていき、1997年度の国試では私立17大学中で1位となり、2003年度までは私立17大学中で2～5位に位置していました。

2004年に学園の中期構想で、医学一般の基本的教育を受けた歯科医師を育成するという教育方針が打ち出され、その後、10年以上かけてカリキュラムを大幅に変更していきましました。国試対策中心の教育からは一変し、その結果、新卒の国試順位は大きく下降し、2010年度からは私立17大学中で下位1/3に位置しています。

さらに、2013年度国試からは、国の方針で合格者数が400人ちかく減らされ、2,000人前後となりました。私立歯学部にとってはこの400人減はかなりの痛手で、他大学は今まで以上に国試対策に力を入れていき、その結果、本学は他大学との差がさらに大きく開いていきました。

まず改善すべき課題として、開学時に立ち返り歯学を中心とした教育に方針を戻すことにしました。本学の教育理念に対応した教育目標を、国民のニーズに対応できる実践的臨床能力（知識・技能・態度）を有する歯科医師の養成とし、知識、技能、態度教育をバランスよく行うことにしました。特に知識教育に関しては、6年生1年間の授業だけでは他大学との差を埋めることは難しいため、1年生から勉強の習慣を付けさせて、6年一貫での新たな教育システムを構築することとしました。10年以上かけて変更したカリキュラムを一気に変えることは困難ですので、2019年から、できるところから徐々に改正を進めていき、それぞれの学年に適した教育システムを作り込みました。そして、それを繋げて調整をし、6年一貫の教育システムができました。

現状については今年度の入試結果は、他の私立歯学部が大幅に入学者を減らしている状況の中、本学は募集定員96人を6年ぶりに充足し、2人オーバーの98人が入学しました。

2023年度の本学の国試合格者数は85人でした。この6年間の国試合格者数を平均すると年77人で、それ以前の数年間が年平均58人でしたので、合格者数はかなり増えてきています。

開学から52年目、九州、中国・四国地方で唯一の私立歯科大学として歯科医師を育成するために、教職員一丸となって頑張っています。引き続きご支援をいただければ幸いです。

「ご挨拶」



参議院議員

比嘉奈津美（8期）

2023年の12月日本歯科医師連盟において次期参議院議員選挙の組織代表としての決定を受け全国行脚する中で、福岡歯科大学同窓会の先生方はじめ大学関係者の皆様にお力添え頂いていることに心から感謝申し上げます。また、全国の各歯科大学同窓会の集会等に参加される福歯大同窓役員の強力な私への御支援にも身の引き締まる思いであります。

令和6年10月12日、沖縄県にて「九州歯科医学大会」が開催されました。基調講演は、日本歯科大学東京短期大学の小林隆太郎学長が「生きること・食べる・話す・老いる」というタイトルで全身の健康保持のため歯科医療職と他職種との良好な連携構築などのお話をいただきました。

また特別公演では、現在世界200ヶ国以上で親しまれ、沖縄が発祥地で伝統文化でもある空手の2020年東京オリンピック男子形金メダリストの喜友名諒氏に武道家として、身体や精神の強靱化についてお尋ねし、対談で多くのエピソードや現在も指導者として沖縄を認識しながら毎日稽古を続けているとお話頂きました。空手の技も披露してもらい世界一の

実演に大きな感動で会場で拍手があふれました。

夕刻には、それぞれの大学の同窓会で懇親会が行われましたが、私は各大学の懇親会場をまわり挨拶を終えて福歯大の会場入りしましたが、他大学より参加人数も多く沖縄の宴の最後に行われる皆で踊る「カチャーシー」で盛り上がっているところでありました。約180人近く同窓生が心を1つにしていました。

2日目は、厚生行事が行われ、野球・剣道・テニス・ゴルフ・ボウリング会場を米須沖縄県歯会長と激励にまわりましたが、学生時代から継続してその道を極めている先輩、同級生、後輩の以前と変わらぬ姿に強く心を打たれ応援にも熱が入ってしまいました。

前日より沖縄入りし、ゴルフや観光、食で沖縄の自然を満喫したという先生方の言葉から、我々人間も自然の一部であり、自然から力をもらう存在なのだ気づかせてくれる我がふるさとを誇りに思い、太古の昔から変わっていない水の流れや木の葉の音、そして火を使い食する唯一の生命体とし改めて食のありがたさに感謝しながら「素敵な食生活」のためにも歯科医療に尽力して参りましょう。

この九州歯科医学大会、宴をはじめとする「おもてなし」の背景には、沖縄県同窓会の仲間が、早い時期から何度も何度も打ち合わせし、来沖される皆様の喜ばせたいという並々な想いと愛があったことをお伝えしておきます。そして、実際その愛を受けて、宴での最後に「カチャーシー」を楽しく踊る皆様。福岡歯科大学ならではのチームワークを感じ、私はたくさんの力をいただきながら、同窓の魅力を再認識し、心から感謝申し上げます。

「福岡歯科大学を愛して止まない」



「22年間、 有難うございました」



福岡歯科大学
医科歯科総合病院長
口腔治療学講座
歯周病学分野

教授 坂上 竜資

同窓会の皆様には長きにわたって大変お世話になりましたが、本年3月をもちまして大学を定年退職することとなりました。これまでのご厚情を深く感謝いたします。2003年1月に札幌から着任以降、皆様にはとにかく暖かく迎えていただき、あっという間の22年間でした。

今では、当時の医局員のお子様たちが、福岡歯科大学の学生となっています。同窓生のご子弟が同じ道を進まれるのは、いつも微笑ましく、羨ましく感じています。とくに学生の志望理由がご両親への厚い信頼であったり、歯科医療への評価と期待であったりすると嬉しいものです。先日行った私の最終講義では、元医局員の子供が学生として出席してくれたこともあり、2世代にわたっての指導ができたことは感無量でした。

大学では歯周病学分野の主任教授としての職務のみでなく、学生部次長、部門長、情報図書館長、病院長などをさせていただきました。とくに最後の3年間は、病院長として携われたことが貴重な経験となりました。福岡歯科大学医科歯科総合病院は、質の高い安心・安全な医療を提供するとともに、患者サービスの向上に努めています。2020年に開院した新病院は、24の医科診療科と12の歯科診療科を備え、全国的にも珍しい医科と歯科の総合病院となっています。地域に信頼される2次医療機関としてのみではなく、歯科大学・看護大学・医療短大の教育機関としても機能しています。同窓の皆様におかれましても、患者の紹介やご相談など是非ともご活用下さい。

歯周病の治療と予防は、近年ますます大事になってきています。私が所属する日本歯周病学会においては、認定医委員会、専門医委員会、歯科衛生士関連委員会などの委員長をさせていただき知識の普及と後進の指導に努めました。歯周病が全身の健康に影響を及ぼすことは、今や多くの人に知られるようになっていますが、歯周病の蔓延はまだまだ収束に向っていません。この対策としては、歯科医院における生活習慣の改善指導を含めた、親身で地道な歯周病治療のサポートが欠かせません。このような考え方や体制作りは、福岡歯科大学が提唱する「口腔の健康から全身の健康へ」というスローガンの重要な基盤になると信じています。

学生への直接的な指導においては、サッカー部、柔道部、ゴルフ部の部長を担当しました。2020年からの4年間は新型コロナウイルスの蔓延によって、ほぼすべてのクラブ活動が停滞しましたが、昨年からはようやくもとに戻ってきました。10年前に比べると、学生が必要な勉強量も増え歯科医師国家試験も難しくなっています。福岡歯科大学の講義は分かりやすいとの定評がありますので、学生には講義に集中して効率よく時間を使って欲しいものです。そうすれば、クラブ活動もアルバイトも思う存分に楽しめると思います。一度きりの大事な青春ですから、福岡歯科大学で良い出会いと思い出をたくさん作ってくれることを願っています。

本年7月には新校舎も完成し、新しいキャンパスで学生が勉強に励める日ももうすぐです。新キャンパスに新たな歴史を刻む学生は、とても幸せです。同窓の皆様には大学への更なるご支援をお願いするとともに、皆様のご健勝と福岡歯科大学の明るい未来を祈念しつつご挨拶とさせていただきます。

「退職のご挨拶」



福岡歯科大学
咬合修復学講座
口腔インプラント学分野
教授 城戸 寛史（6期）

2025年3月末をもちまして、口腔インプラント学分野教授を退職致します。私は1984年に本学を卒業し、九州歯科大学歯科補綴第1講座（有床義歯学）に助手として入局し、当時の豊田静夫教授に師事致しました。九州歯科大学からの派遣で、東京医科歯科大学の部分床義歯の教室で研修する機会を頂き、アタッチメント義歯を学ぶつもりでしたが、藍稔教授から、IMZ インプラントで著名な Dr. Kirsch の講演の案内を頂き、それがインプラントを始めるきっかけとなりました。その後、アメリカのロマリンド大学でインプラントに関する研修の機会に恵まれ、1996年に帰国後、インプラントの臨床を開始しました。

1998年に母校に口腔インプラント科が開設され、鶴見大学の口腔外科から着任されたばかりの松浦正郎教授にお会いすることができ、「そんなにインプラントがやりたいなら、一緒にやろう」と声をかけていただき、1999年の4月から、母校の口腔インプラント科に入局することができました。当時、大学病院で独立したインプラント科としては、日本で最初に開設された施設でした。当初たった4名でスタートした診療科でしたが、その後、大学組織の改組にともない、咬合修復学講座口腔インプラント学分野となり、大学院生も加わって、今では約25名の大所帯です。

初代教授の松浦正郎教授のご指導は、本当にすばらしく、補綴出身の私は外科に関して素人同然でしたが、一からご指導頂き、全身麻酔下での腸骨移植の症例なども多く経験させて頂きました。松浦教授

のご指導のおかげで、福岡歯科大学の口腔インプラント学分野は伝統的に外科のスキルが高い施設となっています。また、学外の研究生が年々増えて、最も多いときは60～70名の研究生が所属しています。

2012年の1月に、口腔インプラント学分野の教授に昇任してからも、医局員に恵まれ、とても楽しく充実した活動を行うことができました。普段の教室の雰囲気は、少し緩めなムードですが、インプラントの埋入本数は、九州の大学の中で常にトップで、全国的にも上位をキープしました。また、独立したインプラント施設としては、比較的大きな外科処置を伴うインプラント治療を得意とし、デジタル機器の導入も早くから取り組みました。ガイドドサージェリーやダイナミックナビゲーションを応用したインプラント手術も、全国に先駆けて導入し、現在はすべての症例に適応しています。

近々の5年間では、2019年9月の第49回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会、2023年11月の第34回一般社団法人日本スポーツ歯科医学会学術大会、2024年11月の第28回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会学術大会などを主催し、成功裡に開催することができました。全国大会の主催は大変な仕事ですが、いつも医局員の努力で完遂することができました。また、2024年12月の福岡歯科大学学会の運営も、当番ではありませんでしたが、私が大会長であったため教室員が運営にあたってくれました。

口腔インプラント学分野が開設されて以来、素晴らしいご指導を頂いた松浦正郎教授、教室を支えて頂いた歴代の教室員、研究生の皆様、すべての皆様に深甚なる感謝を申し上げます。



教室員

「定年退職のご挨拶」



福岡歯科大学
口腔・顎顔面外科学講座
口腔外科学分野

教授 池邊 哲郎

平成17年（2005年）11月に熊本大学から赴任し、本学にお世話になって19年になります。これまで皆様からお受けしたご厚情に対してここに謹んで感謝を申し上げます。

19年前の夏に教授選考の意見発表会のため、熊本駅から賀茂駅に降り立ち、福岡歯科大学への道のりが、8月の痛いような炎天下（この道には日陰がありません）、ひどく暑くて、そこに白亜の大学建物が見えるにもかかわらずなかなか到着しないのが辛かったのを今でも覚えています。赴任後はバス通勤で昭和新町のバス停から歩いて、サンシャイン脇の舗道でふと顔を上げると朝日に輝く飯盛山が視野に入り、何となく福岡歯科大学の教授になった実感が湧いたことも思い出します。

福岡歯科大学では理事長として田中健藏先生、水田祥代先生に仕え、学長として本田武司先生、北村憲司先生、石川博之先生、高橋 裕先生に仕えました。これら諸先生のご指導の下、教授就任当初から数多くの経験をさせていただきました（熊本時代はほぼ臨床業務でした）。恩師の一人が昔、『教授になっても良いことはあまりないが、教授になると異なる人脈ができ、組織の仕組みがわかってくる』、といった意味の言葉を聞いたことがありますが、振り返りますと納得すること多々あります。大学が会議を開かざるを得ない理由、その理由の背後には我が国教育政策の官僚体制があるように思われます。共用試験のCBTとOSCEの両方の機構委員と歯科医師国家試験の出題委員を経験させていただき、病院機能評価にも携わりましたが、なぜこのような手間のかかることに膨大な予算を使うのか、その背景に気がつくのも教授になったお陰でしょうか。

2015年から2019年までの4年間、病院長を務めました。病院長としての使命は言うまでもなく収益と安全であります。私の病院長時代は古き良き昭和の

匂いがする旧病院で、新病院の設計が始まった時でした。病院長は医療安全管理委員長を兼ねますが、これは辛いものでした。なぜならインシデント発生件数は口腔外科がその診療の性格上最も多くなる訳で、医療事故調査委員会では弁護士と検察官と裁判長を同時にやっているような立場でした。また、柄の悪い御仁が病院長を出せと言って怒鳴り込んできて対応したこともありました。患者さんの苦情対応もよく行いました。弁護士や保険会社ともよくお会いしました。頭を何度下げたか数え切れません。深刻な事態もあります。舌癌の手術後に気道閉塞が生じ、数か月後に息を引き取られた患者様を経験しました。決して忘れることができないでしょう。Covid-19パンデミックとの遭遇は危機意識を世界と共有しながら臨床家として貴重な経験でした。しかしこのような辛い事も含めて臨床家なのだと自分に言い聞かせていました。医科歯科総合病院口腔外科のメインは顎変形症と口腔癌の手術で、病院収益の律速段階がその収益にあるためプレッシャーも多かったですが、一方で医療安全上冷や冷やすることも多く、その意味で口腔外科を共に支えていただいた大関 悟前教授と平木昭光教授はいわば戦友のような気分であり改めて感謝申し上げる次第です。

赴任して早々バスケットボール部の顧問となり、辞めた後も部員とは交流が続いています。講義の際には無気力な学生がバスケの試合になると見違えるように生き生きとする姿、その落差に感動すら覚えたものでした。教育においては、私が担当した講義コマ数は学内でもトップクラスだと自負しています。1日4コマぶっ続けで講義をしたこともありました。私の講義は4学年の口腔外科学の講義が中心ですが、1学年の医口腔医学概論と課題解決演習（ディベート演習）の評価責任者をずっとやりました（2学年の基礎免疫学も講義をずっと担当しました）。5学年、6学年の試験問題作成数もトップクラスだと思います。そのお陰で大学研究者としての意識から教育者としての意識へと自己変革できたかもしれません。学生が自分を頼って質問に来るのは、患者さんから感謝されるのと同じくらいの嬉しさがあるものでした。入試業務もほぼフル出場で、高校訪問も常連で、愛媛県以外は九州中国四国全県を制覇しています。

とりとめのないご挨拶で申し訳ありません。この19年間、福岡歯科大学の先輩、同僚、後輩、同窓、事務職員、病院スタッフ、そして何よりも口腔外科医局員のお陰で何とか勤めてくることができました。心から感謝申し上げます。

「定年退職を迎えて」



福岡歯科大学
総合医学講座
内科学分野
教授 大星 博明

2009年4月に九州大学 腎・高血圧・脳血管内科より福岡歯科大学の総合医学講座内科学分野に教授として着任し、はや16年が経ち、このたび無事に任期を満了することとなりました。母教室である九州大学第二内科（現病態機能内科）で教育された「専門分野で信頼されるだけでなく、全身を general に診療できる内科医」であることをモットーとして、福岡歯科大学附属の医科歯科総合病院での診療では、患者さんに優しい医療を内科全体で行うことを心掛けて参りました。また、病院では、口腔外科を初めとした歯科の入院外来患者さんの合併症の評価や診療のバックアップのみならず、近隣の患者さんを中心とした地域医療に貢献すべく幅広い内科疾患の診療を行うとともに、本学に併設する老人保健施設サンシャインシティや関連施設である2箇所の特別養護老人ホーム（サンシャインプラザ、サンシャインセンター）の入所患者さんの急性期ならびに慢性期疾患に対応してきました。母教室の専門領域は脳血管障害、糖尿病、腎臓病、高血圧症、消化器病、内分泌疾患ですが、本学での診療・教育・研究活動に母教室からも理解を頂き、研究室主任や医局長を担当することになる優秀なスタッフを母教室から継続的に派遣してもらえたこともあって、医科歯科総合病院での内科診療の質を向上できたのではないかと考えています。

2020年秋には新しい医科歯科総合病院が完成しましたが、医療情報室の初代室長として、新病院の新規 Hospital Information System の構築に苦労したことも良い思い出です。限られた予算と各診療科の

要望のバランスが取れるように皆さんと討議を重ねて、水田祥代理事長が建設された素晴らしいデザインの新病院に適したシステムが導入できたと思っています。また、新病院に移って間もなく起こった世界的な COVID-19 の流行に際して、医科歯科総合病院における同疾患の成人診療を内科が担当しましたが、治療法の確立していない流行初期の診療スタッフの不安を克服し、安全な発熱外来の構築やワクチン接種体制を病院関係者と一丸となって確立・推進できたことは、大変印象深い経験でした。幸いスタッフの診療関連感染者はこれまでに2名（ともに軽症）にとどまっており、治療法が確立された2021年および2022年には、かかりつけに限局せずに発熱患者さんに対応した労苦が報われる形で内科の診療報酬がそれまでの2倍近くに増加し、病院経営にも貢献できたかと思います。なお、財務省がこのような増収時期のデータを元に通常の診療報酬を減額することを提言したことは大変遺憾であり、特例措置の終了に伴って本院での関連診療報酬もピーク時より漸減していますが、直近の診療科収入推移の見栄えが悪くなったことには閉口しています。

本学での研究活動としては、九州大学時代より脳循環研究室で脳虚血の病態生理についての研究を行い、米国アイオワ大学留学中から開始している脳血管障害の遺伝子治療の研究から、さらに脳梗塞における炎症・免疫反応の研究を発展させることで、Nature Medicine 誌に2009年、2012年、2017年の3回に渡ってその成果を報告できました。2023年にNature Review Neuroscience 誌にこれらのまとめを発表し、第66回日本脳循環代謝学会の大会長として学術集会を同年11月に福岡市で開催（写真）できましたことは、私の academic career としての集大成になりました。

教育面では、福岡歯科大学の学部学生および大学院生を対象とする内科学の講義・実習を担当しましたが、5年生の実習では病棟患者の、大学院生には外来患者の病歴聴取や診察を行ってもらい、田中健藏前理事長が提唱・推進された「口腔医学」教育の実施に寄与できたのではないかと思います。特に尾崎正雄前小児歯科学教授が開発した実習用ロボット

を用いた simulation 実習では開発企画段階から協力し、通常の医学部にもない、診療中の急変対応を学ぶことができるロボット実習を内科が共同担当し、本学教育の特色として open campus 等でも好評を得ています。私の着任の時期と一致して本学で開始された「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」という文部科学省の戦略的大学連携支援事業は、本学を代表校として北海道医療大学・岩手医科大学・昭和大学・神奈川歯科大学・鶴見大学・九州歯科大学・福岡大学との8大学連携事業でしたが、リモート回線を使用した連携 TV 授業の企画と実施、口腔医学カリキュラムの作成、連携校との毎年のシンポジウムなどに推進メンバーとしてたずさわって、本学の「口腔医学」のブランド作りに貢献できたのではないかと思います。

同窓会の方々とは、COVID-19流行前に福岡市、北九州市、大分市、熊本市での父兄懇談会や招待頂いた講演会などでの交流が懐かしい思い出ですが、出身の別府鶴見丘高校のある地元大分では特に楽しい時間を過ごさせて頂きました。また、OB でもないサーフィンの同好会顧問を副病院長を拝命する前後で担当させてもらい、「Big Wednesday」などのサーフィン文化を観て育った世代としては、OBの方々との交流や日向市での大会も貴重な経験となりました。

最後に改めて16年間の教員生活での同窓会の皆様のご支援に感謝申し上げます。引き続き福岡での内科診療や関連する勉強会・講演会などでお世話になるかと思いますが、今後とも宜しくお願い申し上げます。



教室および内科学分野のメンバーと

本部同窓会学術振興事業 「国内留学を経て」



福岡歯科大学
咬合修復学講座
口腔インプラント学分野
新藤 美湖（43期）

この度、私は岩手医科大学歯学部解剖学講座 発生生物・再生医学分野 原田英光教授のご指導のもと、歯の発生過程のメカニズムに基づく研究に従事するため、2023年4月1日から2024年9月30日までの1年半の間、国内留学をさせていただきました。この場をお借りして、留学中に学び、経験したことをご報告させていただきます。

岩手県は広大な自然と豊かな歴史を誇り、北海道に次ぐ広さを持つ県です。観光名所としては、世界

遺産に登録された中尊寺や重要文化財である岩手銀行赤レンガ館が挙げられます。また、毎年開催される盛岡さんさ踊りには多くの人々が訪れます。岩手医科大学矢巾キャンパスのある内陸部は冬季に雪が多く、山口や福岡でしか生活したことのない私にとって、寒冷な気候は心配の種でした。また、日々伝えられる熊の目撃情報に戦々恐々としながら、岩手での生活が始まりました。

岩手医科大学歯学部 解剖学講座 発生生物・再生医学分野では、歯科再生医療を目指した細胞培養技術の開発、歯と歯周組織の発生機構の解明および再生への応用、メッセル軟骨の機能発生の解明、そして器官培養系を用いた歯胚の形態形成メカニズムの解明をテーマに、将来的な臨床応用を見据えた研究が行われています。私の研究テーマは、歯根発生のメカニズムに着目したものでした。ヘルトビッチ上皮鞘（HERS）は、歯根象牙質の形成を誘導した後に断裂し、その後歯小囊細胞が遊走して象牙質表面にセメント質を形成します。しかし、歯小囊細胞が象牙質表面でセメント質に分化するメカニズムは明



岩手医科大学矢巾キャンパス



矢巾キャンパス正門にて



岩手銀行赤レンガ館

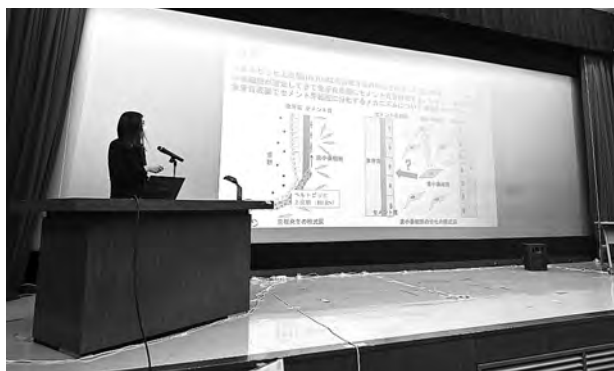


毎年開催される盛岡さんさ踊り

らかになっていません。そこで、HERS が歯小嚢細胞の分化運命決定にどのように関与しているかを検討し、「HERS が分泌する成分が歯小嚢細胞の象牙質への初期接着や石灰化誘導に関与している」との仮説を立てました。



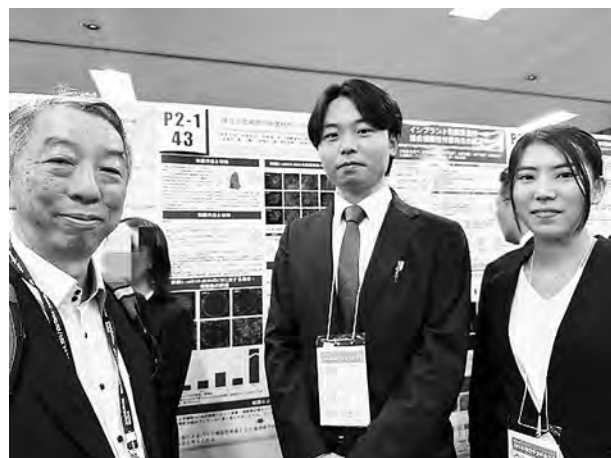
歯の発生の会の皆さんと



岩手医科大学歯学会での一般口演発表の様子

この1年半の間、原田英光教授、大津圭史特任教授、池崎晶二郎先生、教室の皆様には多くのご指導をいただきました。研究の基礎だけでなく、研究に取り組む姿勢も学ばせていただきました。教室では先生方が日々活発にディスカッションされ、一見研究内容と無関係に見える話題からアイデアを引き出し、それを研究に応用される様子を目の当たりにしました。これにより、堅苦しく難解だと思っていた「研究」のイメージが大きく変わりました。この経験を活かし、研究者また臨床家としても、福岡歯科大学に貢献していきたいと思います。

また、法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野 熊谷章子特任教授のご厚意で、岩手県総合防災訓練（八幡平市）に参加させていただきました。この訓



歯科基礎学会にてポスター発表



口腔内所見を記載している様子



警察の方とカルテの照合を確認している様子

練は岩手山火山噴火による降灰および大雨による土石流を想定し、その中で歯科医師による身元確認訓練が行われました。ご遺体役の方や人形の口腔内写真・所見、レントゲン撮影を基に、生前のカルテと照合して身元確認を行いました。東日本大震災時に現場で実際に身元確認作業をされた歯科医師の先生から当時の状況をお聞きすることもでき、大規模災害時の身元確認体制や統一の重要性について学ぶ貴重な経験となりました。

留学にあたり、岩手医科大学 解剖学講座 発生生

物・再生医学分野 原田英光教授と教室の皆様、福岡歯科大学 理事長 水田祥代先生ならびに学長 高橋裕先生に深く感謝申し上げます。また、咬合修復学講座 口腔インプラント学分野 城戸寛史教授をはじめとする教室の皆様の心強いご支援にも、心より御礼申し上げます。

最後に、同窓会学術振興事業制度のご援助により、この国内留学を経験する貴重な機会をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。



インプラント科の皆さんとわんこそば



BBQ での交流（原田教授、城戸教授と）



発生生物・再生医学分野の皆さんと

本部同窓会学術振興事業 「第13回アジア小児歯科学会 での発表」



福岡歯科大学
成長発達歯学講座
成育小児歯科学分野
姫野 涼香 (44期)

成長発達歯学講座 成育小児歯科学分野に医員として所属しています、姫野涼香です。

この度、2024年10月29日から11月3日までタイのバンコクで開催された「第13回アジア小児歯科学会」に参加し、「Two cases of anterior cross-bite improved by surgical intervention of Lingual frenectomy for ankyloglossia」という演題でポスター発表を行いました。この発表に際し、福岡歯科大学同窓会より温かいサポートを頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

私が症例報告として発表したのは、機能性と骨格性の要因が複雑に関係している乳歯列期反対咬合に対して、舌小帯強直や口蓋扁桃肥大といった軟組織の器質的問題に対する外科的な対応を行なったところ、矯正装置を用いた咬合誘導を必要とすることなく反対咬合が自然に改善し正常咬合を獲得した2症例です。この2症例は、乳歯列期の反対咬合において、低位舌や口蓋扁桃肥大による口呼吸等が引き起こす下顎の機能的前方位などが疑われる場合においては、機能的要因の改善を先行させることの重要性を示していると考えます。あらためて、咬合異常を診断する際には、舌・舌小帯・口蓋などの軟組織形態および呼吸を含めた口腔機能の評価がとても重要であること学ぶことができました。

舌小帯延長術の適応時期に関しては、哺乳障害や摂食・嚥下障害といった明らかな異常を認めない場合、構音機能の完成時期も鑑み、幼児期後半（5～6歳）に改善することが推奨されていますが、今回の症例を経験したことにより、咬合異常の有無も舌

小帯延長術の適応時期を決定するのに重要な要素であり、治療における優先順位の決定が大きく影響するようになるようになりました。

今回報告した2症例のうち6歳の男児では、筋機能療法が適応できる年齢であったため舌に対するトレーニング（MFT）を舌小帯延長術を行う前に開始しており、術後、スムーズな舌の可動や正常な舌位を獲得できたことも反対咬合の自然な改善に寄与したと思われます。MFT 開始時期や期間、トレーニング内容等の検討について、もっと知識を増やして、勉強していきたいと考えております。

今回、初めての国際学会ということもあり楽しみと不安の中での参加でしたが、多くの先生方にサポートして頂いて発表を終えることができました。様々な国の言語や文化に触れることができ、とても刺激的で診療や研究だけではなく語学勉強へのモチベーションにもつながりました。また国際学会に参加できるよう日々精進してまいります。改めて、ご支援いただいた福岡歯科大学同窓会に御礼申し上げます。ありがとうございました。



岡暁子教授と暁の寺



ポスター発表



ワットパクナム

「前歯部欠損における審美補綴処置の選択基準」

～インプラントはファーストチョイスか？～



福岡県久留米市・こつぽ歯科

小坪 義博（3期）

<http://www.kotsubo.jp/>

E-mail: kotsubo@kmd.biglobe.ne.jp

今回、福岡歯科大学同窓会会誌『背振43号』へ投稿させていただきます3期生の小坪義博です。私は1975年に入学致しました。

同級生との付き合いは、もう50年になります。在学中は友人とボウリング部を創設し、楽しい学生生活を送っていました。卒業後は開業医に勤務して臨床の勉強をさせて頂きました。自分なりに勉強はしていたつもりでしたが、ある先生のセミナーを受けて、私の歯科医師人生の方向が決まりました。いろいろなセミナーに参加していましたが、その先生のスライド（当時はパソコンではありませんでした）を最初に見たときの衝撃は今でも忘れられません。スライドに映る歯肉の綺麗さ、補綴物の素晴らしさ、何より全顎的な治療を緻密な精度で仕上げられている事に感動しました。その講師の先生は、本多正明先生でした。本多正明先生と出会えた事は一生の財産になりました。少しでも同じような治療を患者さんに提供したいと思い、現在も診療しています。私の診療スタイルは「審美」と「マグネットデンチャー」にほぼ集約しています。「マグネットデンチャー」については、2023年4月に29期生の、中島寛明先生と共著でクインテッセンス出版より『みんなにやさしいマグネットデンチャー』を上梓しました。ご一読いただければ幸いです。本稿では前歯部の審美修復について投稿させていただきます。「マグネットデンチャー」については拙書を読んで頂ければ有難いです。



KOTSUBOYOSHIHIRO

はじめに

昨今ではインターネットを始めとする情報ツールの発達により、患者自らさまざまな情報を入手することが可能となっている。それにより歯科治療における審美性に対する要求の度合いも増してきているように思われ、上顎6前歯の補綴症例（こと女性患者において）では特にその傾向が強くみられる。機能回復を主訴に来院された患者でも、それが達成された後に要望されるのは「見た目の改善」である。

このように、歯科補綴治療においては機能の回復が最重要課題ではあるが、前歯部においては審美性の獲得が次なる命題となってくる。歯牙が残っている場合には、正確な支台歯形成を心がけることで十

分なクオリティの補綴装置を装着できると思われるが、何らかの理由で歯牙の欠損を伴っていれば、補綴処置は難しくなる。

欠損補綴への対応としては、大別して3つの選択肢が考えられる。患者が固定性補綴装置を希望するのであればブリッジかインプラントが選択され、可撤性補綴装置で問題がなければ義歯を選択することも可能である。

近年では（前歯部）欠損補綴に対してインプラント治療がファーストチョイスとされるケースを多々見聞きするが、インプラント治療をすべての症例に応用できるわけではない。患者の経済的な事情や全身および局所状態の問題から、インプラント治療よ

りも他の補綴治療を選択するほうが良い場合もあるし、適切な処置をとることでブリッジ補綴や義歯補綴でも前歯部の十分な審美性を確保することは可能である。

そこで本稿では、前歯部欠損症例においてインプラントを選択することなくオベイトポンティック（別欄）による補綴処置によって機能と審美の回復を達成したケースに局限して、それらをアトラス形式にて供覧するとともに、各症例への考察を通じて“前歯部審美修復のファーストチョイス”について再考してみたい。なお症例提示に先立ち、筆者が臨床で実践している補綴処置選択時の診査事項を表1に示す。

表1 筆者の臨床における補綴処置選択時の診査事項

- ①欠損部位の診査
- ②欠損の長さおよび幅の診査
- ③支台歯（歯冠、歯根、動揺度、歯軸、位置、形態、色調）の診査
- ④支台歯の補綴治療の診査（生活歯、失活歯、破折の有無）
- ⑤歯周組織の診査
- ⑥顎骨および軟組織の診査
- ⑦咬合状態の診査
- ⑧審美性の診査
- ⑨全身的健康状態の診査
- ⑩本人の希望と経済性の診査

オベイトポンティックについて

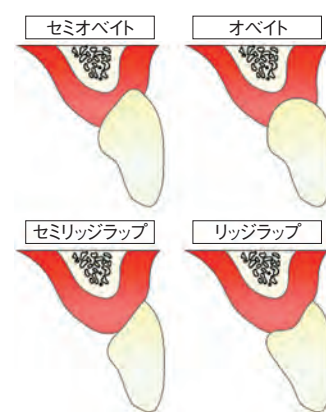
オベイトポンティックとは、ブリッジのポンティック基底面の形を卵型（ovate）にして欠損部歯槽堤に圧接・密着させる方法である。プラークコントロールを行いやすい、天然歯に近い形態とすることで自然な歯頸部形態が得られる、適度な圧迫による歯間乳頭の再生が期待できる、審美性や舌感に優れるという特徴があるが、顎堤条件の十分な診査が求められる。

プロビジョナルレストレーションがその成功の鍵を担う重要な役割を果たすことになる。



オベイトポンティックを用いない前歯部ブリッジの例（A～D）

- A 1の抜歯後2カ月経過時。歯槽堤は吸収しており、特に唇側は根尖側への退縮が著しい。
- B 唇舌的にも歯槽堤の吸収が進んでおり、1に比べ、1部は凹みが見られる。
- C ブリッジ装着時。歯頸線の不調和がみられる。機能的ではあるが、審美的ではない。
- D 1部唇側の歯槽堤は陥没しており、リップサポートにも影響を与える。



前歯部ポンティック形態の種類

CASE 1

1. 症例概要

患者は40代の女性。1の歯根破折による歯牙の動揺を主訴に来院した。口腔内所見として、長い金属コアが入っており、歯冠・歯根破折がみられた。唇側には歯槽骨がほとんど存在せず、薄い歯肉を通して歯根の変色が見られた。舌側には1 mm 弱の厚みの骨を認めた（図1-1～1-5）。表1の項目に当てはめてみると、失活支台歯の歯根は黒く変色しており、唇側の歯周組織が薄いために歯根の変色が透けて見え、審美障害をきたしている。なお2

には根尖病変が認められ、1にはコンポジットレジン（CR）による充填処置が施されていたが齲蝕が認められた。

2. 治療計画

1は保存不可能と判断して抜去し、補綴処置を行うこととした。21に対する治療も必要である。ここで1欠損部位にインプラント治療を選択する場合、唇側歯槽骨の厚みを踏まえると相当量の骨造成を必要とすることが予想される。埋入したうえで、骨造成処置と薄い軟組織のコントロールを行うことは非常に困難を伴う。このような症例では、インプラント治療を行うよりも、隣在歯の状態を考慮してブリッジによる補綴処置を行うほうが適切であると判断した。11は特に審美性が求められる部位であるので、オベイトポンティックを用いたブリッジによる補綴処置を選択した。

以下、治療経過を供覧する（図1-6～1-17）。



図1-1 初診時口腔内、正面観。
21に審美障害を認める。薄い歯肉を通して歯根の変色も確認できる。

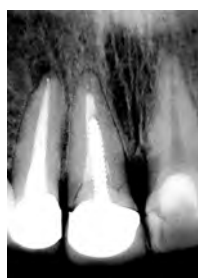


図1-2 同、患部デンタルX線写真。
1に歯冠・歯根の破折を認める。
2には根尖病変、1には齲蝕がみられる。

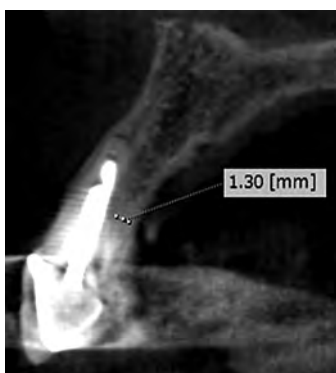


図1-3 同、患部CBCT像。
唇側歯冠側にはほとんど歯槽骨はみられず、舌側基底部にわずかに存在する。



図1-4 破折線はX線写真上では確認しづらく、見逃してしまう場合もある。

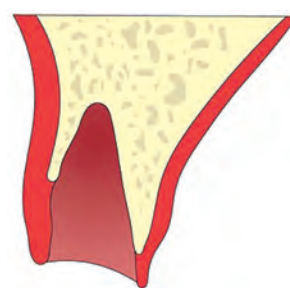


図1-5 唇側の歯槽骨は吸収しやすく、骨造成も難しい。なるべく早く保存することが重要である。



図1-6 1抜去後、抜歯窩に骨補填材（カルシタイト、白鵬。以下同）と粘膜治癒材（テルブラグ、オリンパステルモバイオマテリアル。以下同）を填入し、プロビジョナルレストレーションを用いて歯肉の形態を整える。



図1-7 最終プロビジョナルレストレーションにて歯肉の成熟と歯頸線の調和を図る。

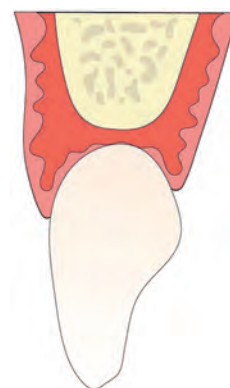


図1-8 ポンティックに密着した辺縁歯肉の獲得が重要である。



図1-9 歯肉の成熟後に支台歯形成を行いオベイトポンティックを用いたブリッジの印象採得を行う。

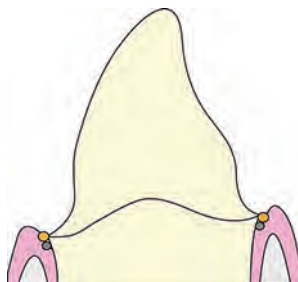


図1-10 マージンの精密印象採得が行えるように歯肉の圧排操作を的確に行う事が重要である。



図1-11 オベイトポンティック基底面も精密印象を心がける。

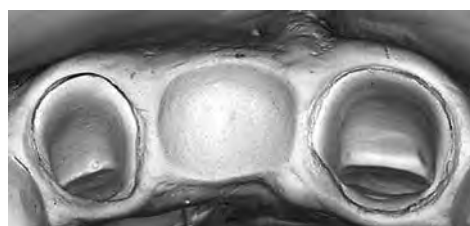


図1-12 模型上でポンティック基底面を仕上げ、理想的な形態に調整していく。



図1-13 オールセラミックにて最終補綴装置を製作する。ブラークコントロールのためにポンティック基底面は鏡面研磨にて仕上げる。

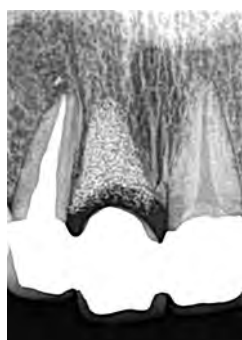


図1-14 最終補綴装置装着時のX線写真。骨補填材を填入することで抜歯窩の吸収を最小限に抑えられている。



図1-15 ポンティックの基底面の深さは1.0~1.5mm程度になるように設定している。



図1-16 最終補綴装置装着時のCBCT像。唇側に十分な骨補填材の存在が認められる。歯肉のサポートも良好である。



図1-17 最終補綴装置装着後3年経過時の口腔内正面観。補綴装置の安定が図られており、初診時にみられた歯肉の黒変も改善されている。

考察

本症例では1にインプラントを植立し、2の補綴治療と1のコンポジットレジンによる充填処置を行うという選択肢もあると考えられる。しかし、筆者は前述したように、抜歯予定の歯牙の両隣在歯に何らかの修復処置が施されている場合には、ブリッジでの補綴計画をファーストチョイスに考えている。特に本症例のように唇側の歯槽骨量が十分でないと推測できる症例では骨造成処置が必要となる場合が多く、手技の難易度の高さや治療期間の長期化が懸念される。ブリッジであれば、そのリスクを軽減させ、予知性が高い処置が行えとらえている（表2）。

表2 オベイトポンティックを成功させるために必要な事項（文献4）より

- ①ポンティックの深さは1.0～1.5 mm とし歯冠への移行部は天然歯に近似した歯頸部形態と立ち上がりを与与する
- ②ポンティックの周囲歯肉は強くエアーをかけても開かないティッシュサポートが必要である
- ③基底部歯肉の厚みは少なくとも1.5～2.0mm 程度が確保されることが望ましい
- ④基底面は滑沢な凸面とし粘膜面は凹面とする
- ⑤歯槽堤粘膜の幅と厚みが不足する場合は結合組織移植を行って歯肉の厚みを増やすケースもある
- ⑥粘膜と基底面は密着していて適度の機能圧があること

CASE 2

1. 症例概要

患者は50代の女性。1|1の動揺と咬合痛を主訴に来院した。口腔内所見ならびにX線所見として、歯槽骨の吸収が進行しており、1には排膿を認めた。正中部の歯槽骨が平坦化しており垂直的な骨造成は難しいと思われた。表1の項目にあてはめると欠損の長さは中切歯2本分となり、幅は抜歯後には歯槽堤の吸収が進み、狭小になると予測できる。すなわちインプラント治療を選択するには難易度が高いケースである（図2-1，2-2）。なお、患者は矮小歯である2|2の形態も気にしており、修復処置を望んだ。

2. 治療計画

本症例もCASE 1と同様に歯冠乳頭の保全が課題である。顎堤の吸収を最小限に防ぐために、抜歯直後に骨補填材を填入し、粘膜治癒材としてアテロコラーゲン製材（テルプラグ。以下同）を同時に使用した。補綴装置は審美性を考慮して、オールセラミックによるオベイトポンティックのブリッジを選択した（図2-3～2-17、表3）。



図2-1 初診時口腔内（正面観）1|1に動揺と排膿を認めた。正中離開も気になる。



図2-2 同患部X線写真。正中（1|1）歯根の周囲骨）の骨吸収が著しく、垂直的な骨造成は難しいと思われる。現在の歯肉のボリュームを可能な限り維持することが重要である。



図2-3 新鮮抜歯窩形態の保存のために1|1抜歯前に模型上でプロビジョナルレストレーションを製作しておく。



図2-4 模型上で1|1粘膜面を削合してオベイトタイプのポンティックを製作する。

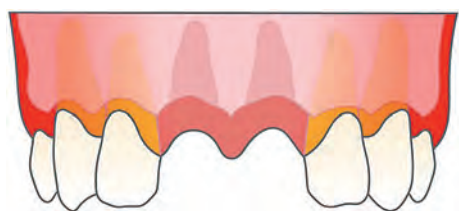


図2-5 隣在歯との間に歯槽骨が比較的残っている場合は歯間乳頭の保全の可能性は高いが、歯槽骨の吸収が進むほど保全が困難になる（文献5）より。

表3 新鮮抜歯窩において配慮すべき原則（文献1）より

- ①唇側は最低2 mm 後退すると予測する
- ②歯間乳頭（隣在歯の骨頂から遊離歯肉縁）は3～4 mm になると予測する
- ③唇側と隣接部の骨に触れてはいけない
- ④唇側と隣接部の組織をサポートする
- ⑤治癒期間は3カ月とする
- ⑥矯正治療および歯槽堤増大術のオプションを考慮する
- ⑦抜歯即時インプラントを考慮する



図2-6 周囲粘膜を可能な限り傷つけないように注意深く抜歯を行う。



図2-7 抜歯後の歯槽堤の凹面化を抑制するために、抜歯と同時に骨補填材を填入する。



図2-8 粘膜の治癒促進を促す為に、アテロコラーゲン製材を骨補填材の上に填入する。



図2-9 術前に製作していたプロビジョナルレストレーションを注意深く装着する。

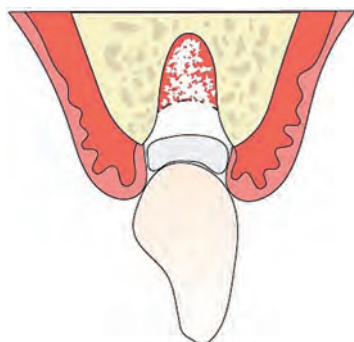


図2-10 このとき、ポンティックの周囲が抜歯窩周囲の歯肉と密接することが重要である。但し過度な圧迫は顎堤粘膜に為害性をもたらすため、行わない。

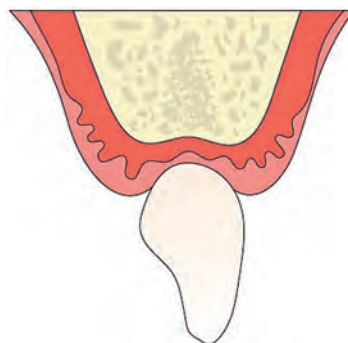


図2-11 歯肉と密接することで、ポンティック下粘膜が徐々に上皮化し、骨補填材は抜歯窩に取り込まれる。



図2-12 プロビジョナルレストレーションのポンティック基底面を調整しながら、最終的な歯肉形態を少しずつ作り上げていく。



図2-13 骨補填材と粘膜治癒材を用いることで歯槽堤の保全を図ることができた。



図2-14 最終補綴装置装着時の口腔内（正面観）
術前に比べ連続性のある歯頸線が得られ、歯間乳頭の保全も確保できた。



図2-15 同、X線写真。
抜歯後の歯槽骨の保全には骨補
填材の使用が、有効であると思
える。



図2-16 術後7年経過時。歯肉は健全であ
り、ポンティック部の歯肉への密着度がさ
らに増している。

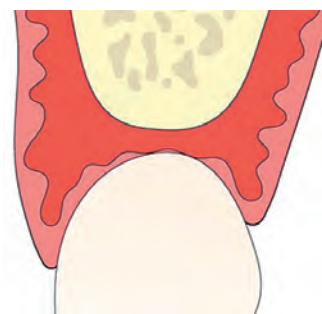


図2-17 ポンティックの基底
部と、歯槽骨までの粘膜は2
mm程度の厚みをもたせる。

考察

CASE 1と同様に歯槽骨の吸収が認められるが、本症例では1|1の唇側および口蓋側と近遠心的にも広範囲に吸収が認められる。もしインプラント治療を選択するのであれば、正中および2|2間の歯間乳頭部の骨造成処置が必要となってくるであろう。垂直的な骨造成は難易度が高く、成功率も決して高くはない。患者は2|2の矮小歯の形態も気にしていたので、筆者はオベイトポンティックを用いたブリッジの選択が賢明であると考えた。

CASE 3

1. 症例概要

患者は40代の女性。全顎的な咬合の崩壊がみられ、特に下顎臼歯部はバーティカルストップの欠如が危惧され咬合崩壊の進行が懸念された。臼歯部の欠損部位にはインプラント治療が効果的であると思われるが、表1の項目にあてはめると顎骨および軟組織の診査において、2欠損部位に関しては抜歯後かなりの期間が経過しており骨の唇舌的な吸収を認めた。Seibertの欠損歯槽堤形態の分類(2)におけるClass I(歯冠-歯根方向の欠損歯槽堤の高さが正常で頬舌的に組織が喪失している)に相当すると判断され、インプラント治療を行うには難易度が高い(図3-1～3-5)。当該部位にはブリッジがすでに装着されており、患者は同様の処置を希望した。ただし審美性を考慮すると、欠損部歯槽堤への

歯肉移植による歯肉のボリューム調整が必要であると思われた。

2. 治療計画

臼歯部では保存不可能な歯牙を抜去し、インプラントを埋入した。全顎的な補綴治療を行うことで咬合崩壊の進行を遅らせることを目指した。2欠損部位には結合組織移植を行い、審美性の獲得を図る。同部位の補綴装置にはオベイトポンティックを用いたブリッジを選択した(図3-6～3-9)。

考察

本症例では2は抜歯後10年以上が経過し、抜歯窩は陳旧化してる。

CBCT像をみると、歯槽骨の状態はインプラント埋入に適しているとは言い難い。患者は審美的な改善を望んでいるが、同部位へのインプラント植立を希望しているわけではなく、現状と同じ修復処置でも不満はない。このようなケースでは、歯槽堤の改善を行うことで補綴物を審美的に仕上げられると筆者は考える。歯槽堤のボリュームを改善することで、2のポンティックの歯軸方向を2と揃えることができる。さらにオベイトタイプのポンティックを用いることで、患者の求める審美性を確保できた。



図3-1 初診時口腔内。機能的、審美的に多くの問題を抱えている。



図3-2 同パノラマX線写真。
臼歯部にパーティカルストップの喪失がみられる。咬合高径確保のために臼歯部にインプラントを埋入することが有効であると判断された。

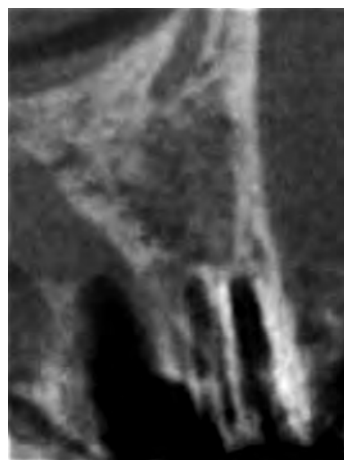


図3-3, 4 [2]欠損部デンタルX線写真ならびにCBCT像。[2]欠損部の歯槽骨の状態はインプラント治療に適しているとは言い難い。



図3-5 旧補綴装置撤去時（咬合観）
[2]欠損部の歯槽堤に吸収がみられる。
特に基底部で顕著である。



図3-6 口蓋より上皮付きの歯肉を
採取し歯槽堤に適合させる。



図3-7 結合組織移植治癒後の状態。粘膜面はプロ
ビジオナルレストレーションを用いてオベイトボン
ティックの形態に仕上げる。



図3-8 最終補綴装置装着後3年経過時（正面観）
|2欠損部位に軟組織移植を施すことで補綴装置の形態との調和と審美性が得られた。



図3-9 同パノラマX線写真。バーティカルスト
ップの確立と歯列の連続性が確保できた。

CASE 4

1. 症例概要

患者は30代の女性、前歯の動揺と咬合痛を主訴に来院した。|1に歯根破折を認め、動揺のため他院にて固定処置をされていた。唇側に瘻孔があり、排膿もみられた。唇側には歯槽骨がほとんど存在せず、歯肉の腫脹を伴っていた。|2|1は歯冠修復処置が施されており、|2の近心には齲蝕が認められた（図4-1，4-2）。

2. 治療計画

|1は歯間乳頭にダメージを与えないように注意深く抜去する。唇側歯肉の膨隆を保全するために、CASE 1、2と同様に骨補填材を填入すると同時に粘膜治癒材を用いて歯槽堤の吸収を可及的に抑える処置を行ったが、粘膜治癒後に唇側に凹面がみられたため、結合組織移植術を用いて歯槽堤の審美性の改善を図った。プロビジョナルレストレーションに

て調整後、オールセラミックでのオバイトポンティックブリッジを製作、装着した（図4-3～4-15）。

考察

前歯部の審美性の確保において重要なのは、歯間乳頭の保全である。保存不可能と思われる歯牙を抜歯する際には、極力ダメージを与えないように注意を払うことが肝要となる。また本症例のように唇側に瘻孔形成があるような症例では歯槽骨の吸収が進んでいる場合が多く、骨補填材を填入しても唇側の粘膜が凹んでしまうケースもみられる。そのような場合には、結合組織移植が有効であると筆者は考えている。本症例では|1の唇側転位による|1への突き上げもみられ、このことも|1の破折に関与していると思われる。以上の点を考慮して、補綴処置の選択はブリッジが適当であると判断し治療を行った。



図 4-1 初診時口腔内（正面観）前歯は、
暫間固定されている。1の唇側には炎症
があり、歯牙の動揺を認める。

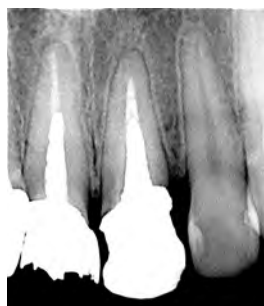


図 4-2 同患部デンタルX線写真。1 歯根
に垂直性の歯根破折があり、歯根膜腔の
拡大を認める。



図 4-3 1の歯間乳頭にダメージ
を与えないように抜歯後、骨補填
材と粘膜治癒材を填入する。



図 4-4 抜歯窩治癒後の状態。歯槽骨
の吸収はある程度抑えられたが、粘
膜の吸収が認められる。



図 4-5 1 欠損部の唇側歯肉のボ
リュームが反対側に比べて不足して
いる。



図 4-6 1の補綴装置の調和を
図るためには1 欠損部の唇側歯
肉のボリュームの改善が必要で
ある。



図 4-7 1 欠損部の唇側歯槽堤を、ラウ
ンド状メス（シャープポイント、東京歯材
社）を用いてパウチ状に切開していく。



図 4-8 口蓋側より結合組織を採
取りし、1 欠損部の唇側に填入す
る。



図 4-9 結合組織移植術によって「1」欠損部の歯槽堤を改善できた。



図 4-10 オベイトポンティックのプロビジョナルレストレーションにて歯肉形態の最終調整を行う。



図 4-11 「1」欠損部の唇側のボリュームを確認後、最終補綴装置のための印象採得を行う。



図 4-12 支台歯の歯肉圧排処置を行い、精密印象採得を行う。



図 4-13 最終補綴装置装着時（正面観）オールセラミックのオベイトポンティックブリッジを装着することで審美的に仕上げる事ができた。

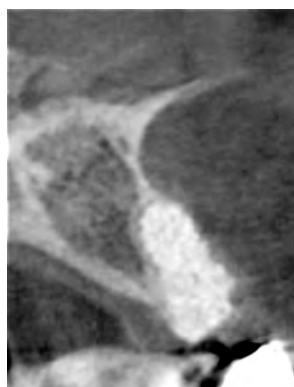
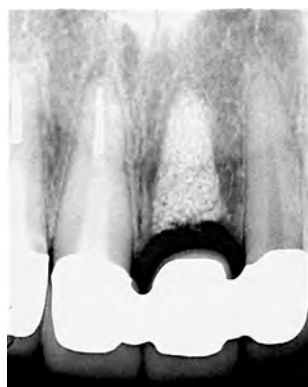


図 4-14, 15 術後11年経過時の患部デンタルX線写真ならびにCBCT像。骨補填材は安定している。

CASE 5

1. 症例概要

患者は30代の男性。1の位置異常と審美性の改善を主訴として来院した。患者は、幼少期にAが晩期残存して1がなかなか萌出してこなかったとのこと。同歯牙の近心に齲蝕があり歯髄は失活していた。唇側には歯槽骨がほとんど存在していなかった(図5-1～5-3)。表1の項目に当てはめると1の位置が非常に不適切であり、歯根も遠心に曲がっている。インプラント治療を選択するのであれば大掛かりな骨造成処置と全顎的な矯正治療が必要であろう。患者は全顎的な矯正治療に関しては希望しな

かった。

2. 治療計画

歯牙の位置異常改善のため、1を挺出した後に抜去すると同時に、歯槽堤の保全を目的として抜歯窩に骨補填材、粘膜治癒材を填入する。粘膜治癒後、さらに、唇側歯槽堤への結合組織移植を行い、審美性を確保する。プロビジョナルレストレーションにて歯肉のコントロールを行い、オベイトポンティックのブリッジによる最終補綴装置を製作することとした(図5-4～5-14)。



図5-1 初診時口腔内(正面観) 1が唇側に転位しており低位に位置する。1はやや舌側に傾斜している。



図5-2 同、患部デンタルX線写真。1の近心歯肉縁下に深い齲蝕を認める。歯髄は失活している。



図5-3 1は低位に位置しており、著しく審美性を損ねている。近遠心のスペースも不足している。



図5-4 暫間的な根管処置後、矯正の挺出により1を少しずつ挺出させていく。

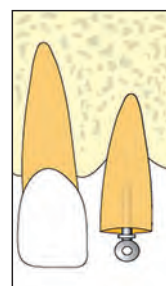


図5-5 適正な位置まで挺出した後、抜去すると同時に骨補填材を填入し、歯槽堤の保全を図る。



図5-6 粘膜治癒後の状態。1欠損部の唇側歯肉に凹面を認める。



図 5-7 歯肉のボリュームを改善
する為に結合組織移植術を行う。



図 5-8 11の補綴装置が調和する
ように歯肉形態を整える。



図 5-9 粘膜治癒後。11欠損部の唇側
歯肉形態のボリュームが確保できた。



図 5-10 最終補綴装置装着時（正
面観）補綴装置の調和を図るこ
うができた。



図 5-11 同、術後5年経過時。
11欠損部は唇側歯肉のボリューム
が維持されている。

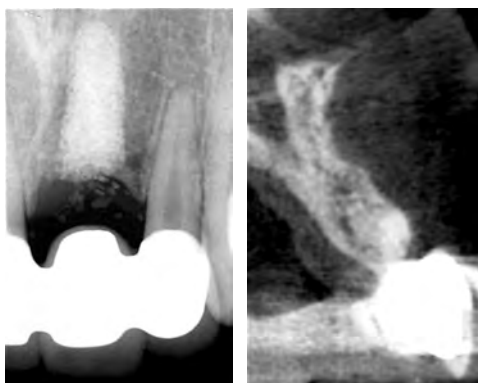


図 5-12, 13 同、患部デンタルX線写真ならびに CBCT
像。
歯牙の矯正の挺出と骨補填材、粘膜治癒材、結合組織移
植術を用いることで良好な結果が得られた。



図 5-14 同、口腔内正面観 オベイトボン
ティックのブリッジを装着することにより審
美性の改善を図ることができた。

考察

本来であれば矯正治療が第一選択肢になると思われる。ただし臨床では、矯正治療を望まない患者も多々存在する。患者の職業は美容師であり、見た目をとても気にしており、矯正装置の装着をかたくなに拒んだ。そこで、プロビジョナルレストレーションを用いて目立たないように1の牽引を行った後に抜歯を行い、さらに歯槽堤の改善のために結合組織移植術を行った。1は歯肉縁下の齶蝕が深く保存は困難と思われるが、もし患者が矯正治療を受け入れるのであれば、歯牙を挺出後に歯冠延長術を用いることで保存可能性も見いだせたが、患者は希望しなかった。治療計画として、12の天然歯の割合によるブリッジを提案し、患者と相談してオベイトボンティックを用いた補綴処置を選択した。

CASE 6

1. 症例概要

患者は30代の女性。2の痛みを主訴に来院した。

痛みを感じてから他院で1年ほど治療しているが、症状が緩解しないとのこと。根尖部に圧痛があり、かなり大きな透過像を認めた。歯牙の唇側と口蓋側には歯槽骨の存在がほとんど認められなかった。表1の項目にあてはめると、歯槽骨量の不足等などから本症例もインプラント治療を選択するには難しい症例だと思われる。患者は歯牙の位置異常も気にしており、抜歯を希望していた。1の変色と歯頸線の不一致も治したいとのこと。21の旧補綴装置の新製も希望した。33の咬耗も気になるとのことだった（図6-1～6-4）。

2. 治療計画

2根尖が破壊されているように見受けられたため、患者と相談のうえ、抜歯を選択した。1は歯頸線を揃えるため歯牙の矯正的挺出を行う。咬合の調和と審美性の回復のために、313はオールセラミック補綴にて対応することとした（図6-5～6-16）。



図6-1 初診時口腔内（正面観）審美的に多くの問題がみられる。
2は口蓋側に転位しており、11の歯頸線の不一致も認められる。



図6-2 同、患部デンタルX線写真。2の根尖には大きな、透過像がある。



図6-3 同、患部CBCT像からみる暫間的な根管充填処置の状態。根尖は破壊されているようにみえる。



図6-4 2は口蓋側に転位しており
プラークコントロールも不良である。



図6-5 2を抜去後、骨補填材と
粘膜治癒材を填入し歯槽堤の保
全を図る。



図6-6 プロビジョナルレストレー
ションにて歯肉の形態を整える。



図6-7 1の歯頸線の調和を図るために
歯牙の矯正的挺出を行う。



図6-8 プロビジョナルレストレーションを用
いて挺出させることで審美性の確保と同時に挺
出装置の構造の複雑化を避ける事が出来る。



図6-9 プロビジョナルレストレーションを調整して
歯肉の形態を整え最終補綴装置製作のための印象採
得を行う。



図6-10 最終補綴装置装着時（咬合面観）調
和のとれた歯肉の状態を確保出来た。



図6-11, 12 同、術前・術後の正面観2欠損部のボンティックをオベイト形態
にすることで自然感のある補綴装置を製作できた。



図6-13 術後3年経過時。歯牙のポジションと歯頸線との調和がとれた補綴処置が行えたと思われる。



図6-14, 15 術前後の歯牙と口唇の関係



図6-16, 17 術後3年経過時の患部デンタルX線写真及びCBCT像。
2の根尖病変が大きく深いために骨補填材の填入量も多くなった。
ポンティック部の唇側と口蓋側には、歯槽骨がほとんど存在せずインプラントを埋入して審美性を獲得するには、難しいケースだと思われる。

考察

審美性に最も関与するのは上顎中切歯であると筆者は考えているが、側切歯の位置もまた重要である。本症例では長引く歯内治療の影響もあって2の周囲骨に吸収がみられる。患者は同部位の位置異常も気にしており、抜歯を希望していた。治療計画として同部位へのインプラント埋入を考えると、歯

牙は口蓋側に位置しているので、補綴装置のポジションを反対側同名歯と合わせるためにはインプラントを唇側寄りに埋入する必要がある。抜歯即時埋入は極めて難しいと考えられ、骨造成処置と待時埋入が選択されるべきであろう。さらに、審美性を確保するうえでも高度な技術を要すると思われる。患者は21の補綴装置の新製と、11の歯頸線の不

揃いの改善も希望していた。諸条件を考慮したうえで、オベイトポンティックを用いたブリッジによる補綴処置を選択した。

CASE 7

1. 症例概要

患者は50代の女性。[3]の治療相談と全体的な修復処置を主訴に来院した。[3]に齲蝕による歯牙欠損と破折を認めた。歯肉縁下までの齲蝕と歯根の内部吸収が、みられた。唇側には瘻孔を形成しており、CBCT で確認すると唇側に歯槽骨は、ほとんど存

在しなかったため歯牙の保存は不可能と思われた(図7-1～7-3)。

犬歯はアンテリアガイダンスの keytooth なので、堅牢な補綴処置が行われることが望ましい。

2. 治療計画

上顎6前歯において欠損歯数が3歯以上ある場合、もしくは犬歯が欠損している場合には、ブリッジでの対応はかなり難しくなると思われる。可撤性補綴装置かインプラントが選択肢として相応しいと考えられ、特に犬歯の欠損であればアンテリアガイ



図7-1 初診時口腔内（正面観）
[3]の歯牙欠損が大きく、保存は困難と判断した。



図7-2 同、患部デンタルX線写真。深い歯肉縁下の齲蝕と歯根の内部吸収がみられる。

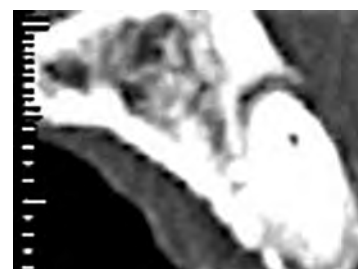


図7-3 同、患部 CBCT 像。
唇側には歯槽骨の存在を確認出来ない。

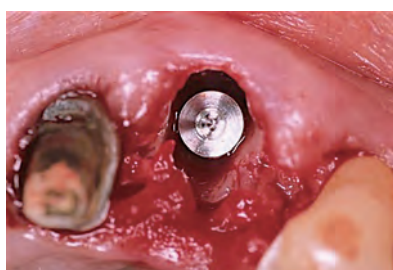


図7-4 [3]の抜歯と同時に、インプラント（直径3.7mm、長さ13mm）を口蓋側の歯槽骨内に埋入し、十分な初期固定を確保する。

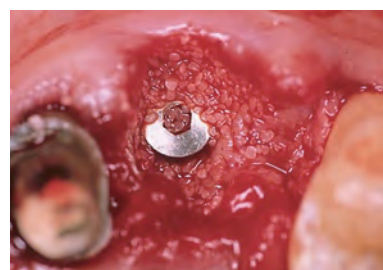


図7-5 インプラントと歯槽骨のスペースに骨補填材を緊密に填入し骨造成を行う。



図7-6 最終補綴装置装着時（正面観）機能と審美的、調和が図れた。



図7-7 同患部デンタルX線写真。抜歯即時埋入と同時に骨造成を行っている。



図7-8 術後7年経過の、患部 CBCT 像。唇側には十分な骨量が認められる。

ダンスに及ぼす影響が大きいと思われるので、可能であればインプラント治療を選択することが望ましい。ただし、骨造成等の処置を伴うことが多いため、慎重な診断と施術が必要であろう。本症例では[3]抜去と同時にインプラントを埋入し、唇側歯槽骨欠損部にはGBRを用いて骨造成を行った(図7-1~7-5)。

考察

前述したように、犬歯は6前歯のなかでも側方圧が最も加わる、アンテリアガイダンスにおいて重要な歯牙である。同部位が何らかの理由で欠損した場合の補綴処置の選択としては、他の部位と異なりでできるだけ堅牢であるほうが望ましいと思われる。ゆえに骨造成処置などのオプションを用いても、インプラント埋入による補綴処置が適切であろうと筆者は考える(図7-6~7-8)。

おわりに

本稿では前歯部欠損における審美補綴処置の選択基準について考察を述べた。前述したとおり、今般の欠損補綴処置の選択においてはインプラント治療がファーストチョイスとして提示されることが多いと思われる。インプラントによる補綴処置は非常に優れた治療法であるが、同時に難しさも伴う。欠損部位の環境が整っていれば問題に見舞われることは少ないが、歯槽骨や粘膜の状態、咬合関係、隣在歯の形態や修復処置の有無、抜去する歯牙があればその位置や周囲骨の状態等も加味して、総合的な診断のもとに治療を進めなければ思わぬトラブルに見舞われることとなる。また、術者の熟練度によっても治療結果に違いがでてくることが考えられる。

本稿で提示した症例のような、インプラント治療で対応するには難易度が高いと考えられる症例では、修復処置としての歴史の長いブリッジによる治療法を選択したほうが、患者にとっても術者にとっても負担が少ないように筆者は考える。もし何らかのトラブルが発生したとしても、先人らによって蓄積された知見をもとに対応すれば、対処しやすいはずである。ただしCASE 7のように咬合に深く関

わる犬歯部欠損の場合は、技術的な難しさはあるものの、インプラント治療が適切な選択肢になると思われる。今回は紙面の都合上、上顎欠損の症例に限局して考察したが、下顎欠損症例におけるインプラント治療はさらに難易度が増すと思われる。

インプラント治療が欠損補綴の選択肢に加わったことで、患者により適切な治療を提供することができるようになったことも事実である。症例ごとに適切な治療方法を選択することが、患者と術者にとって互いに満足のゆく結果をもたらすと筆者は考える。本稿がその治療法の判断に際して同窓生諸氏の一助となれば幸いである。

稿を終えるにあたり、資料作成に協力していただいた久留米セントラル歯科の中島寛明先生に感謝いたします。

文献

- (1) John C Kois. Altering Gingival Levels: The Restorative Connection Part I: Biologic Variables. JERD. 1994; 6(4): 3-7.
- (2) Seibert JS. Reconstruction of deformed, partially edentulous ridges, using full thickness onlay grafts. Part I. Technique and wound healing. Compend Contin Educ Dent. 1983; 4(5): 437-453.
- (3) 山崎長郎. 審美修復治療 複雑な補綴のマネージメント. クインテッセンス出版, 1999.
- (4) 山崎長郎 監修. 歯科臨床のエキスパートを目指して vol. I コンベンショナルレストレーション. 医歯薬出版, 2004.
- (5) 伊藤雄策. ザ・プロビジョナルレストレーションズ—補綴物の機能・審美性を追求して—. クインテッセンス出版, 2006.
- (6) 茂野啓示, 土屋 覚 編. 月刊 歯科技工別冊 / ボンティック. 医歯薬出版, 1998.
- (7) 土屋賢司, 中川孝男, 土屋和子. “審美補綴”をコントロールする健康な歯周組織 Part4 最近の歯肉形態改善法としてのオベイトボンティックテクニック. 補綴臨床. 1999; 32(3): 241-251.
- (8) 大河雅之, 瀬戸延泰, 北原信也, 土屋賢司. 歯冠修復治療のスタンダードを探る—診査・診断・治療の原則とその手技. 補綴臨床. 2003; 36(3): 298-315.
- (9) 小坪義博, 山下博文. 上顎前歯部欠損にオベイトボンティック, 下顎臼歯部欠損にインプラントを用いた症例. QDT. 2004; 29(4): 66-67.

福岡歯科大学本館 の現在

福岡歯科大学の本館は、1978年9月に竣工された9階建ての建物です。
50周年記念講堂ができる前には、講堂や学生食堂も併設されていました。
46年以上にわたり多くの学生たちに学びと交流の場として親しまれてきました。
(写真は令和6年11月に撮影されたものです。)
写真撮影：川口智弘（29期）



短大側から撮影した校舎



運動場側から撮影した校舎と建設中の新校舎



駐車場から撮影した校舎、50周年記念講堂、医科歯科総合病院



玄関前



1階 学生ロビー



1階 玄関ホール



3階 廊下



1階 材料売店



1階 学食跡



1階 エレベーターホール



5階 501教室



4階 402実習室



7階 701教室



5階 502教室



9階 情報図書館



9階 講堂

「令和6年度公益社団法人 日本補綴歯科学会九州支部 学術大会を主管して」



福岡歯科大学
咬合修復学講座
冠橋義歯学分野教授
日本補綴歯科学会九州支部
支部長 **松浦 尚志**

令和6年度日本補綴歯科学会九州支部学術大会を主管するにあたり、福岡歯科大学同窓会から多大なご支援をいただきました。同窓会の皆様におかれましては、日頃より多くのご厚情を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

本学会は熊本で開催され、同窓会長の吉永修先生には開催計画当初からご助言を賜り、いろいろと心配りをいただきました。また、熊本県歯科医師会との共催が実現いたしましたのも、同窓会の顧問で、熊本県歯科医師会会長でいらっしゃる伊藤明彦先生のご尽力のおかげとっております。お二人の先生には格別に感謝申し上げる次第です。

それでは簡単ではございますが、今回の日本補綴歯科学会九州支部学術大会について紹介させていただきます。令和6年9月21日（土）・22日（日）の2日間、熊本県歯科医師会館にて催されました。第1日目は専門医ケースプレゼンテーションとシンポジウム「口腔顔面痛—“咬合治療”の落とし穴」（講師：九州大学の築山能大先生、東京医科歯科大学の豊福明先生）が催されました。築山先生には難治性の顎関節症では最初に咬合を触ることがなぜいけないのか、豊福先生は咬合違和感症候群での対応の難しさなどについて、専門医の立場でご講演いただきました。普通の患者さんとこれらの症状を持っている患者さんを鑑別する重要性をお教えました。

第2日目は本来の九州支部の学術大会の内容を組ませていただきました。九州支部では一般のポスターセッションの応募はあるのですが、オーラル

セッションの応募はなく、代わりに九州5大学の補綴学教室の代表的な研究・臨床を発表いただく招待講演なるものがプログラムされています。今年は午前に冠橋義歯学分野の5教室からの講演を組ませていただき、それぞれ「モノリシックジルコニアレストレーションの臨床応用」（福岡歯科大学・高江洲雄先生）、「シングルリテーナーブリッジの有用性について考える」（九州歯科大学・宗政翔先生）、「咬合治療に接着充填剤を用いた症例に関する報告と考察」（鹿児島大学・村口浩一先生）、「活性酸素種を制御する生体材料の開発」（長崎大学・尾立哲郎先生）と題した講演がなされました。午後は本年3月に九州歯科大学をご退職なさった細川隆司先生に特別講演「補綴とは何か？」と題してご講演をいただきました。私はかつて同じ職場で細川先生とご一緒させていただき、仕事をした経験がございますが、先生はただただ抜けた才覚の持ち主であることを再確認し、この場で講演内容を要約できないくらいスバ抜けた業績を残されたんだなあと、感銘というよりもただただ驚きを感じながら拝聴させていただきました。大会を閉幕した後、すぐに恒例の生涯学習公開セミナー「クラウンブリッジにおける補綴歯科治療の勘所」と題して、大阪大学・峯篤史先生と明海大学・三浦賞子先生にご講演いただき、全てのプログラムを終了しました。

今大会期間中、大きなトラブルもなく、私が言うのも自画自賛なのですが、かなり充実した内容で大会を終了することができました。これもひとえに、日頃からの同窓会の先生方のご支援のおかげと深く感謝いたしております。今後も変わらぬ福岡歯科大学咬合修復学講座へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



学術大会終了後の記念撮影

「第69回公益社団法人 日本口腔外科学会・学術大会 の報告と御礼」



福岡歯科大学
口腔・顎顔面外科学講座
口腔腫瘍学分野
准教授 橋本憲一郎（23期）

2024年11月22日～24日、横浜市のパシフィコ横浜にて第69回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会が開催されました。今回は福岡歯科大学口腔・顎顔面外科学講座が運営主管を務め、同窓会からも多大なご厚情を賜り、誠にありがとうございました。本年は福岡ソフトバンクホークスが横浜ベイスターズに日本シリーズにて敗北しており、まさに敵地に乗り込むがごとく心構えで横浜の地を訪れました。

大会テーマは「口腔外科学の創造的進化へ向けて～Creative Evolution toward New Oral and Maxillofacial Surgery～」であり、AIなど新技術が台頭する中で口腔外科が進むべき道について、私達は意識や行動を常に進化させる必要があります。そこで今大会では皆様の内的進化を鼓舞するプログラムを多く企画しました。特別講演には世界初のエイズウイルス治療薬 AZT を発見し、毎年ノーベル賞候補に挙げられています国立国際医療研究センター研究所長の満屋裕明先生にご登壇いただきました。治療薬の発見は驚愕の手法で行われており、先生の想像力や行動力に圧倒されました。海外招聘講演では Radboud University Medical Centre の Thomas Maal 先生をお招きしました。AI を応用した口腔外科治療や手術の最前線について口演され、内的好奇心を大いに刺激されました。AI は特別な技術ではなく、今まさに手元にあるものであり、日常臨床にも早急に応用できるのではないかとワクワクしました。5 演題用意した教育講演には認定 NPO 法人ロシナンテスの川原尚行先生にもご講演いただきまし

た。先生は医師ですが感奮興起されスーダンでの医療援助活動をされており、命をかけた医療人としての心構えには大きく心を揺さぶられました。特別報告では今年元日に起きた能登半島地震で支援活動にあたられた能登総合病院歯科口腔外科の長谷剛志先生に、被災地で口腔外科に求められることについてご講演いただきました。他にも多くのシンポジウム、一般口演、ポスター発表、ビデオレクチャー等があり、施設や年代を超えた多くの人との議論、親睦、情報交換がなされ、無事に閉会を迎えることができました。最終的には6,000名を超える参加者があり（過去最高数のようです）、演者の先生方、関係者各位、協賛企業様には深謝を申し上げる次第です。敵地と思っていた横浜が大好きになりました。

一方、口腔外科にも大きな課題があります。それは、口腔外科のイメージ「歯学会の4K（きつい、汚い、危険、帰れない）」による口腔外科を目指す若手の減少があります。若手にも口腔外科の魅力が伝わるよう日本口腔外科学会では若手口腔外科医交流会を年に一度開催しております（2025年度は広島で開催）。興味のある先生方、ぜひご参加いただくと幸いです。

最後に、本大会にて福岡歯科大学口腔・顎顔面外科学講座をアピールできたのは、今回ご支援いただいた同窓会の皆様のご支援によるということはいまでもありません。ありがとうございました。



大会終了後、会場前でのスタッフ集合写真

福岡県東

「福岡県東同窓会会長
就任のご挨拶」



福岡県東同窓会
会長 安河内真司 (18期)

この度、令和6年4月1日より福岡県東同窓会の会長をさせていただく事になりました18期の安河内真司です。どうぞ宜しくお願いします。正直自分自身、なんでわたしが？会長に？と驚いています。まさか会長になるとは思ってもいなかったので、右も左も分からないまま未だに戸惑っています。

さて、私事です、昨年1月に父がコロナと肺炎で他界し、現在96歳の母も、痴呆が進み、腰も悪く

介護の毎日です。上下、すでに無菌顎で総義歯の母ですが、総義歯の清掃、歯がないとはいえ口腔内の清掃、それに加え、着替えなど介護とはほんとに大変で、過酷なものだと痛感しております。

食事に関しても、食材を食べやすく小さくし、ご飯も柔らかめと……食事ひとつにしても考えさせられます。痴呆といえ、会話にしても、ほぼ毎日同じ内容の話を繰り返し、こちらもめげず、繰り返しの対応の連続です。夜は熟睡しているのかと思いきや、何度も起きて、その度に呼ばれ対応しております。

自分の親とはいえ、介護は本当に過酷だと思いました。とにかく目が離せない毎日です。

個人的な話で申し訳ありませんでした。私の出来る範囲で、同窓会会長をさせていただきたいと思えます。

最後になりますが、同窓生の皆様のご健康でご活躍される事を祈念致しまして私のご挨拶とさせていただきます。

広報からのご案内

広報委員会では次年度同窓会誌『背振44号』に向けて企画中です。

つきましては、下記の通り募集しています。自薦他薦は問いませんので、是非ご一報下さい。

1. **学位取得者** 今まで取得された先生で、会誌に掲載されていない方、本学以外で取得された方等。
お知らせ頂きたい内容は下記の通りです。

①学位論文題目 ②取得年月日 ③学位専攻(所属・取得校) ④学位番号(甲・乙別) ⑤顔写真1枚

2. **巻頭フォト募集** 表紙の写真を募集しています。風景・植物・動物・抽象的な物、感動した物など何でも結構です。尚、その写真のコメントも一言お書き添え下さい。

3. **原稿募集** トーク、支部報告、OB会、個人の趣味・近況・旅行等、学会報告、結婚報告、開業報告等、何でも結構です。また、その原稿に因んだスナップ写真等も同封して頂ければ幸いです。

どしどしご応募下さい。(最後尾の原稿用紙をご利用下さい。)

※お送り頂いた写真はお返し致します。

連絡先 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学同窓会事務局まで

TEL/092-863-2966 FAX/092-863-2967 E-mail: dousoukai@fdcnet.ac.jp

福岡県南

「福岡県南同窓会

会長就任のご挨拶」



福岡県南同窓会

会長 山下 良太 (18期)

令和6年(2024)6月に行われた福岡歯科大学福岡県南同窓会総会にて福岡県南同窓会会長に就任しました山下良太です。福岡県南同窓会は福岡県南地区の浮羽支部、大牟田支部、広川八女支部、朝倉支部、柳川支部、小郡甘木支部、大川三潞支部、久留米支部の8支部で構成されています。福岡県は同窓生が一番多く地区も4地区に分かれています(北、南、西、東)。

まだ就任して間もないのでまだ勝手がわからない部分もありますが、多くの先輩の先生方に助言をいただきながら微力ではありますが、同窓会の仕事を少しずつですがこなせるようになってきています。今一番勉強になっているのは、月1度行われているWebによる福岡歯科大学同窓会会長会議です。ここで福岡歯科大学同窓会 吉永 修会長を中心に同窓会事業の報告、連絡、議題の協議、学術事業等について話し合いを行っています。最近の議題の中心は同窓会に若い先生たちが入会していただき、同窓会に参加していただける環境作りについて協議しています。更に、大学と同窓会との関係強化を進めていき、在学生が進級、卒業、歯科医師国家試験合格を勝ち取れるように、どのようなサポートをしていく

のいいかを話し合い取り組んでいます。まだまだ課題は山積していますが、コツコツと同窓生で力を合わせていけば必ずよりよい同窓会になると信じて頑張っています。

九地連開催時に行われる福岡歯科大学同窓会にも昨年の宮崎から私も参加させていただき、今年は10月12日に沖縄県那覇市で盛大に行われました。同窓会では、なつかしい先輩、同級生、後輩と会え、なつかしい話で盛り上がることができました。参加して初めてこんなに同窓会が楽しいのかと知ることができました。参加しないとわからないことがあるので、今後多くの同窓生の先生方が参加していただけるように尽力していかないと改めて思われました。

また、2025年10月25日(土)は九地連が福岡で開催されるため福岡歯科大学同窓会も同日グランドハイアットにて開催が決定しました。多くの同窓生が参加していただけるように、福岡県同窓会が一体となり準備しています。2025年福岡歯科大学同窓会でお会いできるのを楽しみにしています。

会長就任に際して、前会長岡先生はじめ多くの先生にはお世話になりました。また、会長就任後も多くの先生にサポートしていただき感謝しかありません。今後ともお力添えをいただけたら幸いです。



創作エイサー団体 煌紅 (KIRAKU)



福岡歯科大学同窓会懇親会 (ノボテル沖縄那覇)



福岡歯科大学同窓会二次会 (比嘉奈津美先生)

福岡県北

「十年一昔 次の10年へ」



福岡県北同窓会
会長 静岡 佳克 (14期)

今年度、福岡県北同窓会会長を拝命いたしました。しばらく同窓会の役員は担当していなかったので久しぶりの復帰です。福岡県北同窓会と名称を変更した後2010年の会員数は140名ほど、2024年の会員数も140名を維持していますが少子高齢化は進行中であり、現在は5割70名ほどが還暦を過ぎています。私もあと数年で還暦を迎えます。25期生以下の会員は13名で1割に満たない状況、女性会員も全体で12名と1割に満たない状況です。入会のタイミングは開業時が多いようですが、開業年齢が高くなり更に女性の卒業生も増えているため、開業に関わらず入会しやすくなる様に努めて行きたいと思っています。

また、福岡大同窓生は他の大学卒業生と比べ人間力が優れていると感じています。技術や知識は卒業してからでも得られますが、医療者として根本にある人間力は学生生活の中で培われていきます。本学に対しての協力も必要と感じております。

今年度の九州歯科医学大会は沖縄県開催で同窓会懇親会は沖縄らしく心地よかったです。いつ始まったか分からないほど流れるように懇親会が始まり、流れるように終わっていく、途中で吉永会長がうるさいと喝を入れるほど盛り上がりました。設営にあたってくださった沖縄県同窓会の先生方ありがとうございました。残念だったのは首里城が見られなかった事。学生の時、沖縄に初めて行った際の首里城はまだ復元されて無かったのですが今回の訪問時も首里城は焼失後でまた見る事が出来ませんでした。

た。令和の復元後は今度こそと思っています。それにしても沖縄県のオーバーツーリズムは凄い。コロナ禍前2019年に旅行した時は空港もごった返して、計画通りに動く事が困難な状態でした。しかし今はチェックインもバゲージも機械からセルフで出来るようになっておりスムーズに搭乗することが出来ました。

2012年に北欧に行った際、アムステルダムスキポール空港ではチェックインもバゲージも無人で駅も無人化されていました。キャッシュレス化も進んで現金が使えなかったり、薬局でもマイナンバーを読み取るだけで全ての情報が共有出来たり、社会全体が合理化されており感動したものです。最近日本も少し世界に追いついてきたと感じますが、奇しくもコロナ禍になったために対策が進んだ恩恵と言えなくもないです。

現在はネットで検索すれば大量の情報が得られ相談しなくても答えが出てくるしSNSも浸透している。また、アルコールを飲まない人も増えており懇親会に対する価値観も変化してきていると感じます。直接人に会わなくても何とかなるという現状。しかし総会後の懇親会においては情報の交換だけではなく同窓会同窓生の価値観を共有し絆を紡ぐための大切な一大行事だと理解しております。微調整をしつつ北同窓会の運営に努めていく所存です。

最後に、令和7年度の九州歯科医学大会は福岡県です。福岡県地区会の4地区が協力し同窓会懇親会を企画しておりますので、ご協力ご参加のほどよろしくお願い致します。

京都・滋賀

「ご挨拶」



京都・滋賀同窓会
会長 桜井 孝徳（2期）

福岡歯科大学同窓の先生方には、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

2期生で京都・滋賀同窓会の桜井孝徳です。出身は福岡ですが昭和58年に滋賀県彦根市で開業して41年が経過しました。平成18年から県歯の理事や常務理事に令和元年からは現在も専務理事の職にあたっています。県歯科医師会の業務また近畿北陸地区歯科医師会や日歯等への出張もあり、同窓会の業務は、あまり関わらず他の先生方にはご迷惑をかけています。

さて、令和6年1月1日に発生した能登半島地震に際してはJ-DATとして滋賀県歯科医師会からも4回（1チーム4名）に分けて災害支援活動を派遣し、当方も第1陣として1月25日から4日間、石川県能登町に災害歯科支援に参加してきました。

当時現地では宿泊施設が機能していないため、金沢市を拠点に数日間早朝より往復という日程で行いました。現地は道路事情も最悪で崩落している所もあり、更に自衛隊や救急車両等で渋滞もあり、片道3時間ほどかかり帰路は夕暮れ前には出発しないと危険なところも多くあり移動で時間がかかります。

現地では医師会等D-MATや他の都道府県の行政からも支援に来ていますが、支援をコーディネートする担当者も不慣れなこともあり当初は困惑しました。

我々は石川県歯科医師会から紹介で現地の会員歯科医師の誘導で避難所や施設での支援活動を実施しましたが、現地では電気や上水道等のライフラインが滞り中でも一番困るのが下水道やごみ処理事情で

した。

現在の詳細な状況は把握していませんが、もっと国が支援すべきだと思います。

この先、南海トラフ地震や首都直下型地震さらには富士山の大噴火等々、多くの大規模災害発生が予測されています、今のうちに対応や対策について行政や各大学の本部および同窓会組織等との連携を検討すべきと考えます。

なお福岡歯科大学の京都府・滋賀県の同窓会は少人数のこともあり、どうしても集まりが少ないのですが、現在のところ令和7年2月には近畿ブロック同窓会を開催予定なので特に若い先生方には参加よろしくお願い致します。

最後に私事ですが、本年春に叙勲（旭日双光章）を受章し、5月10日には皇居での天皇陛下拝謁式に行き参りました、多くの先生方の力添えやご支援のお陰だと衷心より感謝申し上げます。

沖縄県

「福岡歯科大学同窓会
懇親会 in 沖縄」



沖縄県同窓会
会長 松島 一夫（8期）

福岡歯科大学同窓会懇親会が沖縄県同窓会の主催で令和6年10月12日（土）「ノボテル沖縄那覇」で開催されました。従来は九州歯科医学大会に伴う懇親会のため、九州の同窓生への案内でしたが、昨年の宮崎県に於ける懇親会より全国の同窓会支部へも案内をしております。今年は全国から173名の同窓生にご出席をいただき大盛會な懇親会となりました。

オープニングは沖縄の伝統芸能エイサーを、創作エイサー団体「KIRAKU」に飾っていただき、沖縄気分になったところで沖縄県同窓会の城間吉弘専務理事の開会の辞でスタート。私から、全国からたくさんの同窓生にご出席をいただき、懇親会を開催出来たことに対する感謝と歓迎の挨拶をさせていただきました。

今回は公務のため水田祥代理事長はご欠席でしたが、吉永修同窓会会長、高橋裕学長のご祝辞に続き、熊本県歯科医師会会長の伊藤明彦先生に乾杯のご挨拶をいただきました。

オリオンビール、泡盛、泡盛会社が造ったウイスキー、宮崎県同窓会から寄贈いただいた焼酎等々お酒もすすみ、会場の盛り上がりは最高潮。沖縄県同窓会の伝説の空手部コンビ、タケちゃん、カカちゃんによるお楽しみ抽選会でも盛り上げていただきました。

次期開催県の福岡県同窓会を代表して、福岡西同窓会会長の持山達郎先生を中心に福岡県の先生方で来年の懇親会の案内があり、フィナーレは沖縄の定番カチャーシーを全員で踊って締めくくりとなりました。

閉会間際になりましたが、各同窓会巡りを終えた比嘉奈津美先生が駆けつけてくれ、懇親会参加者の人数と盛り上がりで圧倒されたとの挨拶がありました。

その後、大半の先生方は2次会会場へバスで移動。深夜遅くまで沖縄を楽しんでいただけたと思います。

最後に、遠路懇親会にご出席いただいた同窓会の先生方はもとより、準備や当日の運営に協力いただいた沖縄県同窓会のすべての先生方へ「ありがとうございました」。



学内振興事業

「これまでの活動報告と
今後の展望」

福岡歯科大学
口腔治療学講座
歯科保存学分野

助教 松本 和磨 (36期)

私は、平成26年3月に福岡歯科大学を卒業し、研修期間を経た後に福岡歯科大学口腔治療学講座歯科保存学分野に入局し医員として5年間、専攻生として5年間在籍していました。令和6年2月に学位を取得し令和6年3月から同分野の助教として在籍しています。今回、同窓会の学術振興事業制度・研究助成金の援助をいただきましたので、これまでの活動内容と今後の研究について、この場をお借りしてご報告させていただきます。

学位取得までに主に3次元解析を応用した2つの研究等の活動を行いました。1つ目は「新規Ni-Ti ロータリーファイルの切削特性と切削能に関する三次元的解析」についてです。研究背景ですが、過去に根管の85%は根尖側に彎曲が存在していたとの報告もあります。根管拡大は根管に追従した形成が理想的ですが、ステンレススチールファイルを用いた場合では彎曲度が強いと追従しにくく、不適切な形成になる傾向があると言われています。Gorni らの報告では不適切な形成が施された症例の再根管治療の成功率は低下することが示唆されています。Ni-Ti ロータリーファイルを用いた彎曲根管の根管拡大は追従性が高いとされていますが、過去の報告の多くは2次元画像を用いて評価されています。本研究ではCBCTを応用した3次元的な評価法を考案し、ファイルの切削特性を解析することで、2次元評価では評価出来なかった部分の追従性を含めた拡大形成の特徴を評価することを可能としています。考案した3次元的な評価法を応用することでファイルの切削特性を詳細に解析することが可能であることから、この評価法を応用することで使用ファイル選択の一助や、理想的な切削能を有するファイル開発などに寄与すると考えています。

2つ目は「複雑な根管形態を有する歯牙に対して

3Dプリンタによる患歯模型作製を応用した根管治療」についてです。これまでに歯種ごとに様々な根管形態が出現することが報告されています。出現率は高くはない特徴的な根管形態もありますが、その種類は数多く存在します。CBCT撮影のみで3次元的な情報を取得出来ませんが、複雑で稀な根管形態を有する歯牙は馴染みが少なく3次元画像を実際の患者の歯牙に照らし合わせてイメージすることが困難となる場合もあります。自験症例においてCBCT撮影により約1%しか存在しない2根性口蓋根を有する4根性上顎第二大臼歯を認め、データを元に3Dプリンタにより患歯模型を作製しました。術前に詳細に形態を模型上で把握することで精密な根管治療が可能となり治療に導くことが出来ました。この様に臨床への応用として3次元データから模型を作製し視覚的に患歯の状態を把握しやすくすることで、より精密な治療の実施へと繋げる試みを行っています。

またS1PR1作動薬の由来である冬虫夏草の成分コルジセピンによる抗炎症作用に着目し、歯髄保存療法における新規覆髄剤の開発を目的とする研究を現在行っています。この実験では動物モデルにおける歯髄創傷治療をマイクロCTを使用し3次元的な評価もしていく予定としています。

今回頂いた助成金をこれまでの研究に必要な備品の購入や学会活動等に充てさせていただけたことで、このような成果を出す事が出来たと考えております。

最後になりましたが、日頃から親身にご指導いただいております松崎英津子教授をはじめとする口腔治療学講座歯科保存学分野の先生方、同窓会学術振興事業制度によりご支援いただきました福岡歯科大学同窓会に心より御礼申し上げます。



学会写真

学内振興事業

「これまでの研究報告と 今後の展望」



福岡歯科大学
生体構造学講座
機能構造学分野
講師 林 慶和

私は、平成29年3月に大学院を修了した後、博士研究員として3年間熊本大学国際先端医学研究機構で研究活動に従事し、令和2年4月より福岡歯科大学生体構造学講座機能構造学分野に所属しております。現在は同分野の講師として、歯学部生の肉眼解剖学の講義ならびに解剖実習を担当しています。令和5年度の学内同窓会学術振興事業制度における研究助成金に採択していただき、心より御礼申し上げます。簡単ではございますが、この場をお借りして、これまでの研究内容と今後の展望についてご紹介させていただきます。

私は大学院生時代に現在福岡歯科大学口腔医学研究センター長を務めていらっしゃる平田雅人客員教授の研究室（当時：九州大学歯学研究院口腔細胞工学分野）に入局し、学位を取得いたしました。当時の研究テーマは骨基質タンパク質である“オステオカルシン”についてがんとの関連を解析することであり、オステオカルシンががんの増殖を制御することを明らかにいたしました。

学位取得後は、熊本大学国際医学研究機構幹細胞ストレス研究室に所属し、博士研究員として、腸管炎症時における造血応答（どのようにして血液がつくられ供給されるのか）について研究を行いました。造血幹細胞は自己複製能と多分化能を持つ体性幹細胞の1つであり、骨髓において造血前駆細胞に分化し、最終的に特定の血球細胞（白血球、赤血球、血小板など）に成熟します。そのため、定常状態では骨髓に存在する造血幹細胞・造血前駆細胞が

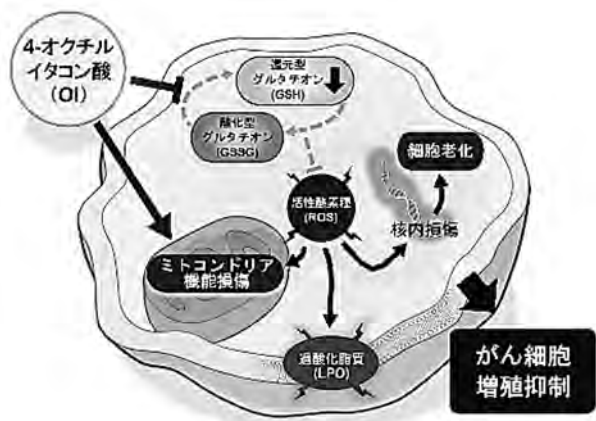
血液供給を担っていますが、腸管炎症下では2次リンパ器官の1つである腸間膜リンパ節に存在する造血前駆細胞（定常状態ではほとんど存在しません）が細胞増殖し、さらに顆粒球へと分化していくことで組織修復の役割を担うことを報告いたしました。

令和2年4月に福岡歯科大学に着任してからは“イタコン酸”というクエン酸回路の中間代謝物についての研究に取り組んでいます。クエン酸回路という名前は昔、学生時代に聞いたことがあるという先生方もいらっしゃると思いますが、イタコン酸という名前を聞いたことがある先生方はほとんどいらっしゃらないかと思います。実はクエン酸回路（クレブス博士によって発見されたためクレブス回路ともいいます）が発見された1937年の時点でクレブス博士はイタコン酸の存在を認識していたようですが、イタコン酸が何をしているのかについては分からなかったため、その後長い間表舞台に出てくることのなかった物質です。しかし、近年、哺乳類においてイタコン酸が炎症を制御する物質であるということが報告されて以来、複数の報告があり、最近認知され始めた物質となります。私はイタコン酸に近い構造を持つ4-オクチルイタコン酸が皮膚がんの1つである悪性黒色腫の細胞増殖を顕著に抑制することを発見し、その分子機序を明らかにしましたので、ご紹介いたします。

がん細胞は、強い抗酸化システムを持ち、抗がん剤などのストレスに抵抗性を示すことが知られています。悪性黒色腫細胞に4-オクチルイタコン酸を添加したところ、抗酸化物質として知られる還元型グルタチオンの量が減少し、それに伴い、がん細胞内に活性酸素種が蓄積してDNA損傷や細胞老化を引き起こし、顕著な細胞増殖抑制を発揮することが確認されました。

今後、4-オクチルイタコン酸を標的とした新規がん治療薬の開発につながる事が期待されます。

本研究を遂行するにあたり、学内同窓会学術振興事業制度によりご支援をいただきました福岡歯科大学同窓会に心より御礼申し上げます。



(Hayashi, et al. Antioxidants & Redox Signaling. in press)



2024年11月に長崎大学で行われました第66回歯科基礎医学会学術大会のシンポジウムで口演発表を行いました。

福岡歯科大学学内同窓会・学術振興事業の実施について

本事業は、福岡歯科大学学内同窓会に属する正会員、準会員を対象とする学術および研究活動を支援するものです。同窓会年会費を滞りなく納めている者が対象です。4つの事業により成り立っており、同窓会特別委員会により管理運営されています。本事業の申請については、同窓会本部事務局へお尋ね下さい。

対象項目

- 1) 研究助成金（学内同窓会正会員の研究を対象とする）
- 2) 研究奨励賞（学内同窓会正会員の論文を対象とする）
- 3) 旅費援助金（国内外で開催される国際学会の発表に対する旅費の援助）
- 4) 留学援助金（外国・国内留学への援助金）

福岡歯科大学同窓会・学術振興事業内訳

事業名	対象者	金額	申請書類	備考
研究助成金	同窓会学内支部に属する正会員	50万円を上限とする。	様式1、様式2 推薦状	大学経理、推薦者を経て、申請者の研究費となる。
研究奨励賞	同窓会学内支部に属する正会員	3万円	様式1、様式3 推薦状、別刷2部	本賞金は同窓会総会等において同窓会長が賞状と共に授与し、2名を限度とする。
旅費援助金	同窓会学内支部に属する正会員、準会員	正会員 国内 5万円 海外 10万円 準会員 国内 3万円 海外 5万円 を上限とする。	様式1、様式4 発表演題の受領を証明する書類を添付	国際学会を対象とし、原則として正規の旅費以内で援助限度額以内とする。
留学援助金	同窓会学内支部に属する正会員	国内 10万円 海外 30万円	様式1、様式5 留学先の受け入れを証明する書類を添付	

*平成28年1月1日より施行する。

「福岡歯科大学ヨット部 創部50周年記念祝賀会」



ヨット部 OB 会
林 英佑 (37期)

私たち福岡歯科大学ヨット部 OB 会は、去る2024年11月16日、ソラリア西鉄ホテル福岡におきまして、創部50周年記念祝賀会を執り行いました。当日は福岡県セーリング連盟 相談役 秋山雄治 様、福岡県セーリング連盟 会長 そして福岡歯科大学ヨット部 名誉顧問であられる岡部幸司 先生をはじめ、多くの方々にご臨席賜り盛会のうちに終えることができました。今回は本祝賀会のレポートだけでなく、福岡歯科大学ヨット部のこれまでもご紹介させていただきます。

1975年、修猷館高校ヨット部出身で3期生の浅田英文先生によりヨット愛好会として発足されました。発足当初は艇も無い状態でしたが、歯科矯正学講座 助教授 山田 勲 先生のご協力によりスナイプクラスのヨットを購入し、本格的に活動を始めていきました。それから50年、部員数が少なくオールデントルにもギリギリ参加できた厳しい時代もありましたが、4度福岡の小戸ヨットハーバーでの主管校も経験し、近年ではこれまで4回総合優勝することができました。

祝賀会では、福岡県セーリング連盟関係者様やヨット部名誉顧問にもご臨席賜り、OBそして現役生総勢54名の盛会となりました。お言葉をいただきましたご来賓の方々からは懐かしいエピソードもお話ししてくださり、会場ではOBそれぞれの現役生時代の話や現役生の紹介など、当時を懐かしみつつも次の世代へ繋げる意義深い祝賀会となりました。

祝賀会を終え、これまで50年間福岡歯科大学ヨット部が存続できたのも、福岡学園 福岡歯科大学の

皆様及び福岡県セーリング連盟関係者様や福岡で活躍されるセーラーの方々にご支援していただいた賜物だと実感しております。

来年の夏には、再び福岡市小戸ヨットハーバーにて福岡歯科大学ヨット部が主管校として開催する予定となっております。近年は他大学も部員不足に苦勞しており、参加校も減少傾向となっておりますが、有意義な大会を目指し現役生 OB 会共に一丸となって全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

・沿革

- 1973年 福岡歯科大学 開学
- 1975年 浅田英文 先生（3期）によりヨット愛好会として発足
- 同 年 歯科矯正学講座 助教授 山田 勲 先生（当時）顧問就任
- 1977年 OB 会発足
- 1981年 歯科矯正学講座 助教授 木山恭一 先生（当時）顧問就任
- 1982年 第14回全国歯科学学生総合体育大会
福岡市小戸ヨットハーバーにて開催
総合3位
- 1983年 ヨット愛好会からヨット部に移行
- 1986年 歯科補綴学第一講座 教授 羽生哲也 先生（当時）顧問就任
- 1993年 第25回全国歯科学学生総合体育大会
総合2位
- 2002年 細胞生理学分野 教授 岡部幸司 先生（当時）顧問就任
- 2005年 福岡歯科大学よりスナイプ級ヨット1艇
贈呈
- 同 年 第37回全国歯科学学生総合体育大会
福岡市小戸ヨットハーバーにて開催
- 2009年 歯科保存学分野 准教授 泉 利雄 先生（当時）顧問就任
- 2012年 第44回全国歯科学学生総合体育大会
福岡市小戸ヨットハーバーにて開催
総合3位
- 2014年 第46回全国歯科学学生総合体育大会

総合優勝

2016年 第48回全国歯科学学生総合体育大会
総合3位

2017年 第49回全国歯科学学生総合体育大会
総合2位

2018年 第50回全国歯科学学生総合体育大会
福岡市小戸ヨットハーバーにて開催

総合優勝

2019年 有床義歯学分野 教授 都築 尊 先生
現顧問就任

同 年 第51回全国歯科学学生総合体育大会
総合優勝

2024年 Tokyo Marine Regatta 2024 総合優勝



福岡歯科大学ヨット部 創部50周年記念祝賀会
於 ソラリア西鉄ホテル福岡



Tokyo Marine Regatta 2024 総合優勝
東京都 若洲ヨットハーバー

剣道部 OB 会

「部活動の本質と守るべきもの」



剣道部 OB 会
大阪歯科大学歯学部
口腔インプラント学講座
森永 健三（26期）

福岡歯科大学剣道部 OB 会は、1 期から41期までの70名を超える会員数となりました。1 期生の千原先生、中嶋先生を中心とした黄金時代に始まり、多くのレジェンドの先生方が剣道部の歴史を築かれてきました。今では26期の小生も気付けば OB 会の中堅となり、先輩 OB のご子息、ご令嬢が現役の剣道部員として活躍してくれており、時の流れを感じて感慨深い思いです。先日も令和6年度の OB 会総会が開催され、1 期生から現役の学部生まで幅広い世代で交流を深めることが出来ました。剣道部というひとつのコミュニティを通して、これだけ多くのメンバーが長期にわたって結束力を維持できる素晴らしいさを改めて体感し、部活動の本質を見た思いです。

時代の変遷とともに徐々に部活動を取り巻く環境は変化し、剣道部の有り様にも変化が求められてきました。現在では部員の数や活動内容は、部の発足当時とは大きく変化しましたが、剣道のもつ武道特有の“礼節を重んじる精神”は現在でも変わらず現役の部員に受け継がれており、改めて剣道の素晴らしさを痛感しています。これまで、新郷先生（4期）、芳川先生（6期）が代々会長として OB 会の運営および現役剣道部員の活動をサポートしてこられました。昨年より太田先生（16期）が OB 会会長に就任され、太田先生を中心として OB 会が一丸と



OB 会総会での集合写真

なって様々な直面する課題に取り組んでいくと士気が高まっており、今後が楽しみです。

近年は、コロナ禍に加えて、歯科医師国家試験の難度上昇に伴い勉学の大変さが増し、学部生にとって部活動に没頭する時間が得られにくくなっています。さらに、最近では新キャンパスの建築に伴い、武道場および部室は取り壊され、部員が活動するのが非常に困難な状態が続いています。そのような中でも、現役の部員の中には自身で近隣の道場に練習の場を求めて日々研鑽を積んでいる者もあり、非常に心強く感じるとともに、このような部員に対して OB 会として全力でサポートして守っていく事が大切だと考えます。周知のように、部活動はコミュニティの中で人間関係や組織運営を学ぶ重要な機会であると同時に、貴重な繋がりを獲得できる場です。今後は学生が部活動に安心して邁進し充実した学生生活が送れるよう大学、OB 会でサポートする環境が良くなることを期待しています。

小生は現在、大阪歯科大学歯学部口腔インプラント学講座で教鞭をとっています。生活の拠点は大阪ですが、福岡歯科大学剣道部の OB として、引き続き OB 会および剣道部の発展のために微力ながら精一杯尽力いたします。現役で剣道を頑張られている OB の先生方を見習い、素振りから始めようと思います。



今でも現役バリバリの先生方



2次会ではざっくばらんに

「父、息子共にバレーボール部」

時任 高秀（1期）

同窓生の皆様元気にお過ごしでしょうか。一期生の時任です。

現在は、宮崎県都城市に開業しまして43年目を迎えております。私も今年70歳、古希になりました。中身は学生時代のままで相変わらずですが、身体は正直で偶に段差につまずいています。妻と二人で診療していますが、毎日感謝しかありません。お陰様で二人の息子に恵まれて、歯科医師、医師となり、孫も三人おり溺愛する爺バカです。

学生時代は、バレーボール同好会から始まり、当時講師の谷口教授の指導を受けました。体育館が無く、病院棟周りの僅かな芝生で練習していたのを懐かしく覚えています。

故 白木教授の班で卒業後も40年毎年同窓会を続けて同級生と親睦を図り、またお互いの無事を確認（笑）しています。

35期生の長男が9月から帰省して一緒に診療する事になりほっと一息入れる感じですね。しかしながら、現在の歯科界を考えますとどうなるのか視界不良と思います。これからの前途有望な歯科界になる様に、息子も含めた次世代の先生方に奮闘努力して貰う事を切に願っています。乱筆乱文の程ご容赦ください。皆様のご健勝と福岡歯科大学の益々の発展を祈念して筆を置きます。

時任 高聖（35期）

私は35期生として福岡歯科大学に入学しました。大学ではバレーボール部に入部し、素晴らしい先輩、後輩に恵まれました。6年間という長い大学生生活を退屈することなく過ごせたのは、勉学と部活動のメリハリがあったおかげだと思います。父が1期生のバレーボール部だったこともあり当時、病理学分野の谷口教授からお声かけいただき恐縮したのを覚えています。学生生活は学友にも恵まれ充実した学生生活を過ごしました。卒業後は有床義歯学分野、インプラント学分野にて専門知識の修練に励み、一般臨床は様々な開業医にて勤務することで勉強しました。歯科医師になり10年が過ぎ、実家の歯科医院のある宮崎に戻ってきました。臨床経験の豊富な父と母にはまだまだ敵いませんが、日々精進しています。福岡歯科大学での6年間は本当に楽しかった！の一言です。そんな大学に入学させてくれた両親への感謝の気持ちを忘れずこれからも親子二人三脚で日々の診療に励んでいこうと思います。



「得意淡然 失意泰然」

神田 恭宏（8期）

お久しぶりです。8期生の神田です。今春息子が無事に本学を卒業し、国家試験に合格しました。先生方のご指導本当にありがとうございました。思い起こせば、約45年前私も本学に入学し楽しい学生生活を過ごし、国家試験前は、それなりに一生懸命に勉強しました。息子は自宅から通っており、学生時代も私とは比べものにならないほど真面目に勉強していました。国家試験前は見ていて辛くなるほどでした。本当に無事合格できて良かったと思っています。

私の時代は研修医制度というものがなく、何の役に立つのか少し疑問に思うところがありますが、息子は今研修医として、日々頑張っています。今後は、歯科医師として壁にぶち当たったりいろいろな事があると思いますが、患者さんの身になって親身に対応して欲しいです。学生時代は頭を使う事が多いけど今からは、とにかく技術的な事、優しく対応する事など頭だけではなく、腕と心を磨いて欲しいです。とにかく今からどのような歯科医師を目指していくかしっかり考えて、研鑽してほしいと思います。今は、私たちの時代とは違うと思いますが、患者さんに対する対応、基礎は変わらないと思います。患者さんに優しい歯科医師になってくれると信じています。最後に同窓の皆様これからも健康に留意し、元気に頑張っていきましょう。

神田 恭佑（46期）

今春、本学を卒業し、無事国家試験に合格することができました。そして今現在は研修医として生活を送っています。

先生方をはじめ、家族、そして同期の友人や、先輩、後輩という多くの人の支えのおかげで充実した6年間の学生生活を送ることができました。楽しい思い出だけとはいきませんが、それでも今振り返ってみて良かったと思えるのは、このような方々の支えのおかげです。特に国試の直前期には家族に心配と迷惑をかけました。さらには夜遅くまで大学に残り勉強に付き合ってくれた友人、最近どう？などとすれ違っていると何気なく声をかけてくれる同期の存在など、自分1人の力だけでは絶対に乗り越えられなかったと思います。

今現在、研修医として生活するなかでも、周りの人たちの支えというものを痛感しています。歯科医師としての基本的な知識や技術的なこと、臨床の現場における治療や対応、手技などを教えていただいたり、また、今後のキャリア等々、身近に質問したり相談できる上司、先輩や友人などに恵まれています。

患者さんから、先生、と頼られてそれに恥じない歯科医師になれるように、そして、患者さんだけではなく、今まで支えてくれた人たちや現在進行形で支えてくれている人たちのためにも、今後とも日々精進していきます。



「親子進歩」

本多 拓也 (10期)

私は東区名島で開業し、かれこれ30年になります。卒業してから今までを振り返り、その間に世話になった全ての方々に心から感謝しています。

私の学生時代は弟も同じ大学ということもあり、酒ばかり飲み随分先生方にご迷惑をおかけしました。

最近は学生時代の講義中の教授の話や、登院での出来事を夢で見るようになり、つくづく歳を感じています。

学生時代が長かったため、ひとり息子はまだ26歳ですが、その息子が今年無事に国家試験に合格し、晴れて歯科医師になり、やっと肩の荷をおろすことが出来ました。

息子は留年こそしなかったものの、ギリギリの成績でした。それが6年になり親も感心するほど勉強するようになりました。息子は6年になり、ふと私の年齢を考えると一年も無駄に出来ないと思ったそうです。もう少し早くから頑張っていたら本人も楽だったと思いますが（笑）

これからの私は息子に引き継ぐまで何年かかるか分かりません、それまで健康に気を付け趣味のジョギングを続けて、地域のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っています。

本多 孝近 (46期)

私は今春、歯科医師国家試験に合格し、父と同じ歯科医師となり現在研修医として働いています。

私は学生時代部活、飲み会など遊ぶ事ばかりを優先してしまい成績はいつもぎりぎりに進級してきました。6年の最初の試験で成績がワースト2位という結果をもらい、さすがに焦った私は6月から飲み会などを控え、毎日夜中まで勉強し、友人、先輩方の助けもあり無事合格する事ができました。

現在は福岡歯科大学インプラント科に所属しており城戸教授のもと日々研鑽を積んでおります。私は病院を受け継いでも患者の事を第一に考え、患者に寄り添う事を忘れない父のような歯科医師になりたいと思っています。

最後に家族、友人、先輩方、先生方には感謝することを忘れずに恩返ししていきたいと思っています。



「新しい歯科医師人生のスタート」

石井 啓一（10期）

福岡歯科大学を卒業してはや36年、我が歯科医療人生も終盤に入りました。娘には今まで歯科医師になって欲しいなどとは望んでもいませんでしたし、話をしたこともありませんでした。しかしながら幸いいつの間にか福岡歯科大学にお世話になり臨床の道へと進み始めています（長男は在学中）。子供たちの学生生活をそばから見て感じるがあります。コロナ禍においては、先輩や同級生との交流が十分にできなく不便に感じました。歯科に対する概念が大きく変わったことにも驚きがあります。私たちの時代は、保存・補綴・外科を中心とする歯を見るということが歯科医療の柱でしたが、今の時代は歯から口腔、口腔から診た全身管理へと医学的な分野に大きく移行しています。自身の診療所においても、高齢化に伴い、あらゆる全身疾患を把握しなければなりません。我々の教育とでは大きな開きがあります。国家試験の勉強をそばから見ていても、患者さんに向き合う方向性が大きく違うことを感じています。今娘を見ていて、歯科医としての将来像を描くことはできませんが、日々研鑽し早く一人前になって欲しいものです。最後に娘を歯科医師になるまでサポートしていただいた大学関係者の方に感謝いたします。ありがとうございました。



石井 歩（46期）

私は無事歯科医師国家試験に合格し、現在は九州大学病院で研修医として日々の生活を送っています。

学生時代の6年間は決して楽な道のりではありませんでしたが、あっという間でかけがえのない時間でした。試験や課題に追われていた日々、部活動をしたり友人と旅行や趣味に時間を費やしたりと楽しい学生生活を送りました。

6年生の頃、学校で友人と勉強していた日々が、当時は不安で苦しい毎日だと思っていましたが、今となっては友人と助け合い、仲を深めることができた思い出となっています。

4月から研修医となり新しいスタートを切りましたが、様々な壁にぶつかる毎日です。

患者さんと接する中で、教科書には載っていない、「人と向き合うこと」の大切さや難しさを学び、歯科医療は患者さんの生活や心に寄り添う仕事でもあると強く感じました。また歯科医師としての責任感を強く感じるようになり、自分の技術や知識をさらに磨かなければと感じています。初めて経験することばかりですが、周りの同期の仲間や先生方に助けられながら少しずつ成長することができています。

これからも今ある環境に感謝しながら日々努力を続け、患者さんの健康と幸せを支える存在でありたいと思います。

福岡学園はいま

(令和5年11月～令和6年10月)

福岡学園は、教職員が一丸となって、厳しい倫理観、さらに目的意識を持ち、学生が意欲を持って勉学し、同窓生が誇れる母校を目指して参りたいと思います。福岡歯科大学同窓生の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以下、この一年間の学園の主なトピックスをご紹介します。

○福岡歯科大学長に高橋 裕氏を再任

福岡歯科大学長の任期が令和6年1月31日で満了となるに伴い、令和6年1月22日開催の第598回理事会の議を経て、高橋 裕氏の再任を決定いたしました。任期は令和6年2月1日から令和9年1月31日までとなります。

(略歴) 昭和56年に福岡歯科大学歯学部を卒業、平成元年に歯学博士を取得し、福岡歯科大学助手、講師、助教授を経て、平成15年3月に福岡歯科大学有床義歯学分野教授に就任。平成30年2月からは第11代福岡歯科大学長に就任し、現在に至る。福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長、福岡歯科大学学生部長、学校法人福岡学園(旧福岡歯科学園)評議員などを歴任。



高橋 裕 学長

○日本私立歯科大学協会歯科プレスセミナーで水田理事長が講演

令和5年10月31日、アルカディア市ヶ谷私学会館において日本私立歯科大学協会の第14回歯科プレスセミナーが開催され、水田 祥代理事長が「女性歯科医師のキャリア構築と現状」をテーマに講演しました。水田理事長は、自身の経験を基に「これから女性歯科医師を目指すリケジョ(理系女子)の皆さんには、キャリアアップを図り、積極的に意思決定の場にも参加して豊かな人生を送ってほしい」と話し、「来たれリケジョ!!」と歯科大学における女子学生の獲得を呼びかけました。

また、水田理事長は現役で活躍する女性歯科医師とのパネルトークでコーディネーターを務めました。パネルトークでは、女性歯科医師3名からそれぞれのキャリアパスとライフステージについてお話しいただき、働き方の実態やキャリア構築の方法、女性歯科医師がさらに働きやすくなるための環境整備などについてそれぞれの立場から意見を述べられました。



○福岡医療短期大学が厚生労働省補助事業「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業」の実施団体として選定

福岡医療短期大学が歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業の実施団体として厚生労働省から選定されました。

この事業は、歯科衛生士の人材確保を目的として、育児・介護等によって離職していた人材の復職支援や、免許取得直後の新人に対する基本的臨床実

実践能力の獲得と離職防止を推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響による臨地実習の経験不足を補うものです。

福岡医療短期大学では、「歯科衛生士研修支援センター」を立ち上げ、福岡歯科大学、医科歯科総合病院、歯科大学ならびに短期大学同窓会とも協力をしながら、福岡県・市歯科医師会および福岡県歯科衛生士会と連携して、臨床現場での体験学習型の研修等を実施し、歯科衛生士の人材育成に貢献していきます。



○令和6年能登半島地震被災地への医療支援活動に参加

福岡歯科大学は福岡県歯科医師会および福岡県災害福祉支援ネットワーク協議会の要請を受け、1月1日に発生した令和6年能登半島地震で大きな被害があった石川県内へ医療支援スタッフを派遣しました。

歯科医療支援：令和6年2月12日～

令和6年2月17日

派遣者：森田浩光教授（障害者歯科学分野）、
田崎園子講師（障害者歯科学分野）、
常岡由美子歯科衛生士、
本村安純歯科衛生士



理学療法士支援：令和6年3月8日～

令和6年3月13日

派遣者：白川心一朗理学療法士主任



○新キャンパス整備計画1期工事（新本館）起工式を挙行

令和6年2月3日、新キャンパス整備計画1期工事（新本館）に先立ち、起工式が執り行われ、水田理事長、田口常務理事、高橋福岡歯科大学長をはじめとする本学園関係者、設計および施工関係者が参列し、工事の無事を祈念しました。

新キャンパス整備計画は「大学、病院、老健施設、保育園などの福岡学園の資産を活かして、豊かな人間性をもつ医療人の育成環境をつくる」ことを整備方針とし、新病院に続いて、①学園をつなぐ、②地域とつながる、③人をつなぐ、④未来へとつながる「4つのつなぐ」を掲げて学生ファーストなキャンパスづくりを目指しています。令和7年7月の完成に向けて、工事が進んでいます。



○福岡市立高等学校を対象としたキャンパスツアーを開催

令和6年6月25日、26日、28日の3日間で福岡学園キャンパスツアーを開催し、福岡市立の福翔高等学校、福岡女子高等学校、福岡西陵高等学校から98名の生徒にご参加いただきました。

福岡歯科大学、福岡看護大学、福岡医療短期大学は令和5年度に福岡市立高等学校（4校）と高大連携協定を締結して以来、高校生が学園へ来学できる機会を定期的に提供しています。

今回のキャンパスツアーでは、50周年記念講堂内にあるレストラン TOMATO での昼食タイムののち、各大学や医科歯科総合病院などの見学をしたほか、福岡看護大学の3年生の講義に参加し、本学園の雰囲気や魅力を体感してもらいました。

参加した生徒からは「歯科医師や歯科衛生士の仕事の内容についても詳しく知ることができて、将来の具体的なイメージができたのでよかったです」、「看護大学の先輩に話を聞くことができたので今後の進路の選択肢に入れようと思います」、「教育環境がすごく整っていると思いました」、「夏休みにあるオープンキャンパスもぜひ行きたいと思います」などの声をいただきました。



○学校法人福岡学園 開学記念式典を挙

令和6年7月26日、50周年記念講堂において、学校法人福岡学園の開学記念式典が執り行われました。

式典には、学内外の関係者約190名が参加し、水

田理事長の挨拶に続き、名誉教授称号授与、永年勤続者表彰、福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学 最優秀教育改善賞表彰、福岡歯科大学 特待生表彰、福岡医療短期大学 特別奨学生表彰、研究優秀賞表彰、理事長特別賞表彰が行われました。

記念講演では、九州大学大学院医学研究院 二宮利治教授から「60年にわたる地域疫学研究の取組：久山町研究」と題して、久山町研究の歴史や主な成果などについてお話しいただきました。



○地域連携「健康まると福岡学園」を開催

令和6年10月19日、20日の両日、福岡学園にて「健康まると福岡学園」を開催しました。田の歯科祭・からだの科学展・歯科無料相談・講演会等の様々な催しが行われ、2日間で969名の地域住民の方などにご参加いただきました。



田の歯科祭



からだの科学展

◆福岡歯科大学◆

○福岡歯科大学学生研究支援プログラム リサーチ・スチューデントが決定

令和6年度の福岡歯科大学学生研究支援プログラムにおけるリサーチ・スチューデントが決定しました。

この制度は、普段の講義・実習の先にある「研究」に強い関心を持っている学生を支援するもので、リサーチ・スチューデントが行う研究活動には、研究指導を行う分野に対して1件あたり20万円を上限として支援金が交付され、充実した研究活動を行うことができます。

今年度は、6名の口腔歯学部生がリサーチ・スチューデントに採用され、研究課題に主体的に取り組み、物事の本質を見極める能力を磨いています。

【研究課題】

- 第5学年 新地 勇大「歯原性腫瘍・嚢胞の進展機構の解析」
- 第5学年 中村 龍生「DNA 損傷応答を制御するシグナル伝達機構の研究」
- 第4学年 川村 衣織「抗がん剤によるがん幹細胞化とその治療戦略に関する研究」
- 第4学年 得居 果乃「DNA 損傷が引き起こすアポトーシス誘導機構の研究」
- 第3学年 石川慎之助「歯周病の健康格差と環境要因に関する探索的研究」
- 第2学年 浦崎 奈緒「口腔感染症における生体防御機構の解析」



○国際交流

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本学から協定締結校への訪問は中止いたしました。

○第117回歯科医師国家試験

令和6年3月15日、厚生労働省から第117回歯科医師国家試験の結果が発表されました。全国の受験者は3,117名で、合格者は2,060名でした。福岡歯科大学からは新卒者74名、既卒者113名、計187名が受験し、新卒者49名、既卒者36名、計85名が合格しました。

○生涯研修の充実

福岡歯科大学では歯科医師等の資質の保持・向上に向けた研修を積極的に開催しています。

令和5年度は、「摂食嚥下リハビリテーションに役立つ知識」「歯周組織再生療法セミナー」「スケーリング・ルートプレーニングセミナー」「睡眠時無呼吸マウスピース治療実践セミナー」「口腔インプラント初級講習会」の5つのプログラムを実施し67名の方が参加されました。

令和6年度は、「口腔インプラント初級講習会」「画像診断をスキルアップしよう！撮影手順から診断まで」「摂食嚥下リハビリテーションに役立つ知識」「歯周組織再生療法セミナー」「睡眠時無呼吸マウスピース治療実践セミナー」等を実施・計画しております。

今後も、歯科医学・歯科医療の進展や社会環境の変化に対応し、社会のニーズに応えることの出来る歯科医師等の育成・支援を目指して、様々な生涯研修を開催しますので、是非ご参加ください。

◆医科歯科総合病院◆

○病院機能評価認定を更新

令和5年9月、医科歯科総合病院は公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査を受け、基準を満たす病院として認定されました。当院は5年ごとに更新審査を受け、今回で4回目の認定となります。今後も地域の皆様に信頼され続ける病院を目指して継続的な病院の質改善に努めていきます。

○こどもの食事サポート外来を開設

令和6年5月1日、医科歯科総合病院小児科では、新たに「こどもの食事サポート外来」を開設しました。

こどもの食事サポート外来では、偏食や少食など、食事に関するお困りごとを持つ就学前のお子さんに対して、成長に必要な量・内容の食事をとることができるよう評価・指導を行います。



◆福岡医療短期大学◆

○田口短大学長（常務理事）・短大教員らがミャンマーで医科歯科医療支援を実施

令和6年6月3日から8日まで、田口 智章福岡医療短期大学長（常務理事）、黒木 まどか准教授、井上 庸子講師、中村 美貴歯科衛生士らが、ヤングンの小児医療専門施設の病棟や養育施設にて医療支援を実施しました。

田口学長は、以前より発展途上国の医療支援をしている特定非営利活動法人を通じて、ミャンマーで小児外科手術などを行っています。滞在期間中、外

科チームは、胆道閉鎖症、仙尾部奇形腫、肝芽腫など11件の手術、現地医師への手術指導、研修医への講義等を行い、人材育成にも努めました。

また、田口学長は長年支援を行う中で術前後の患者への口腔ケアが課題であると感じており、現地の要望も受け、今回歯科チームの帯同が実現しました。

帯同した黒木准教授（歯科衛生士）、井上講師（歯科医師）、中村歯科衛生士は、現地の歯科医師とともに、病棟や養育施設にて口腔診査、歯磨き指導、フッ素塗布などを200名を超える子どもたちへ実施し、口腔ケアの重要性を広く伝えました。

福岡医療短期大学では、今後も教員や学生に国際医療の現場を経験できる機会を提供し、グローバルに活躍できる歯科衛生士の育成を目指していくこととしています。



○第33回歯科衛生士国家試験

令和6年3月26日、厚生労働省から第33回歯科衛生士国家試験の結果が発表されました。全国の受験者は7,950名で、合格者は7,346名でした。歯科衛生学科からは新卒者52名、既卒者5名、計57名が受験し、合格者は計51名でした。

今回も昨年同様、国家試験対策として国試問題集の出題範囲を限定した演習試験を実施し、各回の成績不振者に対して、放課後と土曜日に補習を行いました。また、演習ならびに模擬試験の成績不振者には冬期休暇中はもとより、国家試験直前まで特訓補習を実施しました。

◆人 事◆

(令和5年11月1日～令和6年10月31日)

■評議員紹介

●評議員

令和6年5月31日に開催された第603回理事会において、学校法人福岡学園の評議員を次の通り決定しました。



吉住 朋晴

〔九州大学大学院消化器・総合外科教授〕

■名誉教授紹介

●名誉教授

令和6年7月26日に執り行われた学校法人福岡学園 開学記念式典において、尾崎 正雄前教授（成育小児歯科学分野）ならびに小島 寛前教授（障害者歯科学分野）に福岡歯科大学名誉教授の称号が授与されました。



尾崎 正雄 名誉教授



小島 寛 名誉教授

■新役職教員等紹介

●福岡医療短期大学・歯科衛生学科長

令和6年2月20日に開催された第599回理事会において、福岡医療短期大学歯科衛生学科長が次の通り決定しました。



【歯科衛生学科長・教務主任】

力丸 哲也〔歯科衛生学科・教授〕

●介護老人保健施設サンシャインシティ 施設長

令和6年2月20日に開催された第599回理事会において、介護老人保健施設サンシャインシティ 施設長が次の通り決定しました。



岡田 賢司

●医科歯科総合病院・副病院長

令和6年2月20日に開催された第599回理事会において、医科歯科総合病院の副病院長を次の通り決定しました。



都築 尊 副病院長
〔有床義歯学分野・教授〕



古村 南夫 副病院長
〔皮膚科学分野・教授〕



樋口 勝規 副病院長
〔客員教授〕



中畑 高子 副病院長
〔客員教授〕

■採用

【令和6年4月1日付】

岡島 勇太〔言語情報学分野・准教授〕
福岡 慶祐〔薬局・薬局長〕

【令和6年7月1日付】

園田 英人〔外科学分野・准教授〕

【令和6年9月1日付】

和田 裕子〔病態構造学分野・講師〕

■昇任

【令和6年1月1日付】

鍛冶屋 浩〔細胞生理学分野・准教授〕

【令和6年3月1日付】

梶原弘一郎〔矯正歯科学分野・講師〕

【令和6年4月1日付】

黒木まどか〔歯科衛生学科・准教授〕
長岡 良礼〔分子機能制御学分野・講師〕
川尻 望〔歯科衛生学科・講師〕

【令和6年5月1日付】

大谷 崇仁〔機能構造学分野・准教授〕

【令和6年10月1日付】

田中 茂〔内科学分野・講師〕

■新任客員教員

【令和6年4月1日付】

壬生 正博〔客員教授〕

■新任臨床教員

【令和6年4月1日付】

木村敬次リチャード〔臨床教授〕

吉浦 一紀〔臨床教授〕

樋口 克彦〔臨床准教授〕

久保田智彦〔臨床准教授〕

■配置換等

【令和6年4月1日付】

松元幸一郎〔内科学分野・教授〕

■定年退職

【令和6年3月31日付】

壬生 正博〔言語情報学分野・教授〕
永井 淳〔地域連携センター・重点配置教員（教授）〕
岡田 賢司〔看護大・基礎・専門基礎分野・教授〕
米津 博文〔口腔外科学分野・講師〕
外尾 典子〔薬局・薬局長〕

■退職

【令和6年3月31日付】

安永まどか〔矯正歯科学分野・講師〕
西 憲祐〔耳鼻咽喉科学分野・重点配置教員（講師）〕
中川 美和〔客員教授〕

【令和6年5月31日付】

池田 哲夫〔内視鏡センター・教授〕

【令和6年6月30日付】

畠山 雄次〔機能構造学分野・教授〕
神代 竜一〔外科学分野・講師〕

◆受賞◆

○高嶺 明彦福岡歯科大学同窓会副会長 が令和6年秋の叙勲受章

令和6年秋の叙勲において、福岡歯科大学卒業生（6期生）で福岡歯科大学同窓会副会長（元沖縄県歯科医師会会長）高嶺 明彦氏が永年にわたる保健衛生功勞により「旭日双光章」を受章されました。

高嶺氏は、沖縄県歯科医師会で理事、専務理事、会長や顧問を務められました。この間、8020運動の推進や児童、生徒のむし歯をなくすためのフッ化物応用の普及啓発などによる県民の歯と全身の健康づ

くりを支援する活動を行いました。また、県民の生涯にわたる歯科疾患の予防に向けた取り組みを行うとともに、「全身の健康は歯の健康から」の理念のもと、歯科保健活動を推進されました。さらに、ラオス国の歯科保健、医療の向上、歯科医療の技術移転にも尽力されました。



高嶺 明彦氏

○令和6年度歯科保健事業功労者表彰

第45回全国歯科保健大会の令和6年度歯科保健事業功労者表彰において、学園評議員で本学卒業生（4期生）の神田 晋爾氏（福岡市歯科医師会長）が厚生労働大臣賞を、本学卒業生（4期生）の福田 真一郎氏が日本歯科医師会会長表彰を受賞されました。



神田 晋爾氏



福田 真一郎氏

◆追 悼◆

○岡崎 真砂男福岡歯科大学名誉教授 ご逝去

福岡歯科大学の岡崎 真砂男名誉教授が2024年10月30日逝去されました。同氏は1973年4月から同大学で英語科助教授、1980年7月から同大学教授として尽力され1992年に同大学名誉教授の称号を授与されました。享年96歳。謹んでご冥福をお祈りいたします。

○青野 一哉元常務理事ご逝去



学校法人福岡学園元常務理事の青野 一哉氏が2024年12月7日に逝去されました。同氏は、昭和53年に本学園教授に着任され、約30年間にわたり歯科大学長、評議員および常務理事などを歴任さ

れ学園の発展に尽力されました。享年91歳。謹んでご冥福をお祈りいたします。

健康まるごと福岡学園 「第47回田の歯科祭」を終えて



田の歯科祭
実行委員長
梁瀬 拓斗（5年）

まず初めに、今年度も「田の歯科祭」を開催するにあたり、教職員・関係者の皆様、地域の方々、そして学生のご支援により大変賑やかなものとなりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

私は1年生と4年生の時に実行委員を経験し、今年度は実行委員長として田の歯科祭を運営してきました。昨年の私は、先輩の後を追う実行委員のメンバーのひとりで、ただ楽しく活動していました。しかし、実行委員長として活動してきたこの半年間は“楽しい”だけの活動ではありませんでした。他の実行委員に指示を出したり、大学側や地域の方と打ち合わせをしたり、常に実行委員長としての仕事に追われる半年間でした。それでも昨年の反省を活かし、今年は実行委員の人数を増やし、運営準備を早めに取りかかることで昨年よりも余裕を持って学園祭の準備をする事が出来たと思います。

今回私が実行委員長として活動してきた中で、最も痛感した事は“人を動かす”事の難しさです。学園祭を成功させる為には実行委員の仲間をはじめ、多くの方のサポートが必要です。その為、私は自分で動く事よりも、周囲の人に指示・依頼をする事に尽力しました。大学側や地域の方と何度も連絡を取り合い、他の実行委員が円滑に準備できるように活動してきました。模擬店出店における各テントとの連絡や、地域の方々の出演・芸人さんの事務所との打ち合わせ等、今まで知らなかった学園祭運営の難しさを身をもって感じました。それに加え、私の指示に嫌事ひとつ言わずに着いてきてくれた実行委員のメンバーには感謝しかありません。

しかし、あれだけ念入りに準備をしていた学園祭ですが、初日は大雨の影響でスケジュールや出演団体に変更等があり、イレギュラーに対しての準備が足りていなかった事が今回の学園祭で浮き彫りになりました。その他の課題点も来年の実行委員の後輩達に、しっかりと引き継いでより良い学園祭になるようにしていこうと思います。

今まで実行委員・実行委員長を経験して感じたのは、物事を成功させるためには、それまでにどれ程の準備をしてきたかが大きな鍵になるということです。これはただその物事に時間を多く費やすという事ではなく、限られた時間の中でどれだけ質の高い準備を出来るかという事です。これは学園祭の準備に関わらず、日頃の定期試験、CBT、国家試験にも言える事だと思います。時間は全員平等に与えられています。この枠の中でどれだけその物事に集中出来たかが、成功に繋がる鍵になると私は思います。

この実行委員長としての経験は、これからの成長においてとても重要な時間だったと感じています。このような経験をさせていただけたこと感謝しております。実行委員のメンバー、学園教職員・関係者の方々、地域の皆様、ご来場の皆様、本当にありがとうございました。



ビンゴ大会で当たった昨年の実行委員長（森さん）との写真



各部活によるステージ出し物



第47回田の歯科祭の様子



実行委員集合写真 みんなありがとう！

昇格



令和6年3月1日

福岡歯科大学
成長発達歯学講座
矯正歯科学分野

講師 梶原 弘一郎 (33期)

令和6年3月1日付で成長発達歯学講座矯正歯科学分野の講師を拝命しました。

これまでの経験を活かし、臨床・教育・研究の各分野において邁進していく所存でございます。まだまだ若輩者ですが、母校の発展のために精一杯尽くしてまいります。今後とも、より一層のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



令和6年4月1日

福岡歯科大学
細胞分子生物学講座
分子機能制御学分野

講師 長岡 良礼 (32期)

令和6年4月1日付で細胞分子生物学講座分子機能制御学分野の講師を拝命いたしました。授業科目は薬理学を担当しております。

母校のさらなる発展に貢献できるよう教育・研究に尽力していく所存です。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

❖❖❖❖❖❖❖❖ 本学学位取得者（甲） ❖❖❖❖❖❖❖❖



福岡歯科大学
成長発達歯学講座
成育小児歯科学分野

三 輪 佳 愛（41期）

博士（歯学）（甲第346号）
令和6年3月9日
学位論文題名
（口唇閉鎖力および切歯被蓋関係が構音時の口唇閉鎖に与える影響）



福岡歯科大学
咬合修復学講座
冠橋義歯学分野

小 川 修 平（40期）

博士（歯学）（甲第349号）
令和6年3月9日
学位論文題名
JNK inhibition enhances cell-cell adhesion impaired by desmoglein 3 gene disruption in keratinocytes
（デスモグレイン3遺伝子破壊ケラチノサイトの細胞間接着はJNK阻害で回復する）



福岡歯科大学
成長発達歯学講座
矯正歯科学分野

西 村 麻友子（41期）

博士（歯学）（甲第351号）
令和6年3月29日
学位論文題名
Inhibition of compound action potentials in the frog sciatic nerve by inchinkoto, a traditional Japanese medicine used for oral mucositis
（口腔粘膜炎に用いられる茵陳蒿湯によるカエル坐骨神経の複合活動電位の抑制）

本部会務報告

令和5年度 定時評議員会・総会報告

令和6年5月18日電気ビル共創館にて、令和5年度福岡歯科大学同窓会 第60回定時評議員会、第46回定時総会が開催されました。

定時評議員会は、沖縄県同窓会の城間吉弘評議員が議長、広島県同窓会の西谷展評議員が副議長に選出され、第19期福岡歯科大学同窓会会長・監事選挙にて、会長に吉永修先生・監事に今本道也先生・城戸寛史先生が決定したことが報告され、その後高橋裕学長から第117回歯科医師国家試験報告などがされたのち7議案すべてが可決されました。

第1号議案 第19期福岡歯科大学同窓会会長・監事及び役員の承認を求める件について

第2号議案 福岡歯科大学同窓会選挙管理委員長の推薦について 粉 泰生 粉歯科医院

第3号議案 令和5年度福岡歯科大学同窓会事業報告・収支決算書（案）について

第4号議案 特別会計令和5年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業・収支決算書（案）について

第5号議案 令和6年度福岡歯科大学同窓会事業計画（案）について

第6号議案 令和6年度福岡歯科大学同窓会収支予算（案）について

第7号議案 特別会計令和6年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業・収支予算（案）について

その後、定時総会が開催され、終了後場所をホテルニューオータニ博多に移し、旭日小綬章を授章されました寺尾隆治先生の記念講演が行われた後、懇親会を開催して盛況の内に終了しました。

会員の先生方のご協力に感謝申し上げます。

専務理事 江藤ゆかり（12期）



第71回全国歯科大学同窓・校友会懇話会

日時：令和6年11月16日（土）14時より

場所：パシフィコ横浜

会議センター5階 501会議室

メインテーマ：～同窓会活動でのダイバーシティ
（多様性）への対応～

当番校：神奈川歯科大学同窓会

福岡歯科大学同窓会出席者：

会長 吉永 修、副会長 黒木康夫、松島一夫

専務理事 江藤ゆかり

来賓挨拶

日本歯科医師会 副会長 蓮池芳浩

日本歯科医師連盟 会 長 太田謙司

神奈川県歯科医師会 会 長 守屋義雄

学校法人 神奈川歯科大学 理事長 鹿島 勇

報告

1) 事前アンケート結果報告・意見交換

2) 各校よりのご意見

今後の当番校（予定）

令和7年 明海大学歯学部

令和8年 朝日大学歯学部

令和9年 東北大学歯学部

令和10年 福岡歯科大学同窓会

副会長 黒木康夫（6期）



第71回全歯懇（11月16日）

第71回 全国歯科大学同窓・校友会懇話会



12校会議報告

令和6年11月10日（日）ホテルメトロポリタンエドモントにて鶴見大学歯学部同窓会を事務局として開催された。鶴見大学同窓会会長竹内千恵先生を議長として2024年3月～10月までの会計報告などがあった。コロナ期間中はweb開催であった為会費徴収を中止していたが、今はリアル開催し会場の使用料も上がってきている為、会費納入する事となった。現在年に2回の開催となっているが、年に1度でもいいのでは？との意見がありアンケートし各校の意見を聞くこととなった。12校会議の意義目的に関して色々な意見が交わされた。その後時局講演会となり、「これからの日本歯科医師会が目指すもの～歯科医療が大きく変わった～」との演題で日本歯科医師会の高橋英登会長の講演があった。終了後に高橋英登会長、日本歯科医師連盟の大越壽和副会長をご来賓にお迎えし懇親会が盛会に開催された。81名の参加者で本学からは、吉永修会長、黒木康夫副会長、松島一夫副会長、専務理事江藤の4名で参加してきた。

専務理事 江藤ゆかり（12期）





写真 1 第36回学術講演会

学術事業報告

●第36回学術講演会報告

2024年2月25日に、「歯科医療のこれから THE PRESENT AND FUTURE OF DENTISTRY」をメインテーマに福岡歯科大学同窓会主催第36回学術講演会が福岡県歯科医師会館メインホールにて開催された。「～守らなければならない歯科治療の基本と求められる修復治療の実践～」を歯内療法、歯周治療と補綴治療について3人のエキスパートから講演していただいた。開会挨拶では、大会長の吉永修先生（福岡歯科大学同窓会会長）から歯科界の未来に対する意気込みを語っていただき、司会進行を実行委員長松永興昌先生（福岡歯科大学同窓会学術委員長）が務めた。

最初の歯内治療での講演では、「歯内療法の今とこれから」で松木良介先生（まつき歯科医院）、座長は青木隆宜氏（あおき歯科・矯正歯科クリニック）から、基本事項を踏まえた上で、新しい器材や技術を組み合わせた精密で効率的な歯内治療法を提示した。歯内治療における歯髄再生に関するトピック等もお話ししていただき、今後の歯内治療の方向性を示していただいた。続いて「これからの時代に求められる歯周外科治療」というテーマで、溝上宗久先生（溝上歯科学研都市クリニック）、座長は、坂田憲彦先生（坂田歯科医院）が登壇して、様々な歯周組織再生療法のケースを提示しながら、低侵襲外科アプローチのポイントを詳しく解説した。歯周外科手術の細かな適応とその効果について解説していただいた。最後に西耕作先生（西耕作歯科）が座

長を務められ、補綴治療の第一人者である土屋賢司先生（土屋歯科クリニック & works）に「Paradigm Shift Prosthetic Dentistry」という演題で講演していただきました。土屋先生は、そのカリスマ的講演で複雑な審美症例を提示して咬合再構成における Visible と Invisible な要素を考慮したアプローチの大切さを解説していただいた。非常に精度の高い補綴治療の現状と今後の治療アプローチの方向性を示していただいた。最後に、同窓会副会長の上田秀朗先生（うへだ歯科）から閉会の辞を述べていただき、歯科医療の未来につながる有意義な講演会となった（写真1）。 学術委員 荒川未来（43期）

●2024年度スキルアップセミナー

本年度3回のスキルアップセミナーは、平日の木曜夜に福岡県歯科医師会にて対面式講演と後に配信されるオンデマンド形式で行われた。第一回は、6月27日に「歯内療法における潮流を日常臨床にとりいれよう！①」が開催された。福岡歯科大学 口腔治療学講座 歯科保存学講座講師である松本典祥先生から根管充填の材料、手技について時代の変遷とともにわかりやすく解説していただき、那覇みなみ歯科クリニック 院長 小関亮介先生からは、パーフォレーション部位ごとのリカバリーを手技動画から詳しく解説していただいた。ディスカッションでは活発な意見交換が行われ、かなり聞き応えのある素晴らしいセミナーとなった（写真2）。

第二回は、8月22日に「歯内療法における潮流を日常臨床にとりいれよう！②」が行われ、最初に九州大学大学院 歯学研究院口腔機能修復学講座歯科



写真2 スキルアップセミナー報告①

6月27日 「歯内療法における潮流を日常臨床にとりいれよう!①」



写真3 スキルアップセミナー報告②

8月22日 「歯内療法における潮流を日常臨床にとりいれよう!②」

保存学 研究分野教授 前田英史教授が「新しい歯内治療用機器と根管治療のポイント」という演題で講演された。一連の根管治療のステップを見直すことで根管治療が難治症例に至らないようにするポイントを最新器具の紹介も含めて若い先生に分かりやすく解説していただいた。続いてあおき歯科・矯正歯科クリニック院長 青木隆宜先生に「外科的歯内療法法の適応を考える」という演題で、非外科的治療では治癒に導けない症例に対して、外科的なアプローチで対応した症例を中心にマイクロスコープ動画とともに処置のポイントを詳細に解説していただいた(写真3)。

学術委員 森川秀典 (31期)

最後の第三回は、10月5日土曜日の午後に「一本から歯の成長と保存を深く考える～小児から成人まで歯を守る日常臨床を振り返ろう～」をテーマに規模をすこし大きくして開催されました。座長は坂口

歯科・矯正歯科院長の坂口佳代子先生が務めました。この企画は、年々増えている女性歯科医師に対して歯科におけるさまざまなキャリアアップを考えてもらうために、3人の女性歯科医師の視点からお話ししていただきました。最初に岡咲子先生(福岡歯科大学 成長発達歯学講座成育小児歯科学分野教授)から「第一大臼歯の発生から萌出までを考える」というテーマで、エナメル質形成不全(MIH)や第一大臼歯の萌出障害の要因を解説して臨床におけるそれぞれへの対応法をわかりやすく説明していただきました。二人目は、松崎英津子先生(福岡歯科大学口腔治療学講座歯科保存学分野教授)に「根面う蝕のマネジメント」について高齢化によって増加する根面う蝕の最新の診療ガイドラインに沿った対処法、管理法を解説していただきました。最後に吉村理恵先生(よしむら歯科医院 副院長)に「臨床に矯正治療を取り入れてワンランクアップ!」というテーマでさまざまな臨床例の中でインプラント、補綴、そして矯正を用いた一口腔単位での治療をいかにLongevityさせるかにフォーカスして矯正治療の有用性を解説していただきました。現在の女性歯科医キャリアアップのモチベーション向上のみならず、今後の質の高い歯科臨床を学ぶ糧となる講演会となりました(写真4)。

学術委員 荒川未来 (43期)

今後とも同窓生と多くの歯科医師のために有益な学術事業を展開していきたいと思います。

学術委員長 松永興昌 (16期)



写真4 スキルアップセミナー報告③

10月5日 ～女性歯科医師からの提言～

「小児から成人まで歯を守る日常臨床を振り返ろう」

●第42回ハンズオンセミナー

令和6年6月30日に、福岡歯科大学4階実習室にて福岡歯科大学同窓会主催第42回福岡歯科大学ハンズオンセミナーが開催されました。テーマは「歯内療法に自信を持って取り組むために実践!! 歯内療法コース」と題し、福岡歯科大学5期生で現在総合歯科臨床教授の上田秀朗先生（北九州市御開業）から歯内療法の予知性を高めるための臨床的なアプローチをご紹介します。歯内療法は卒後間もない歯科医師が臨床において最初に突き当たる大きな壁となります。その上達は、臨床医のステップアップに避けて通れない関門であるとのことから、セミナーを受講をした次の日から使えるような基本的な考え方、安全なテクニックをご教授いただきました。コロナの感染症法上の位置付けも変わり、ハンズオン形式での開催を実施することができ、多くの先生方に参加していただきました。また今後も臨床スキルアップセミナー等の今年度の同窓会事業開催が予定されておりますので、ぜひ多くの皆様にご参加いただければと思います。

学術委員 田中 宏（35期）



●第43回ハンズオンセミナー

第43回福岡歯科大学臨床セミナーは「ペリオ・インプラント治療を優位にするブタを使用した歯周外科トレーニングコース」と題し、本学の臨床教授を務められている上田秀朗先生（北九州市ご開業）を講師にお迎えし、ハンズオン形式にて開催されました。本セミナーでは二つの豚顎を使用し、ベーシックな切開、剥離、縫合の手技、考え方から始まり、遊離歯肉移植術といったアドバンスな歯周外科まで網羅された充実した内容でした。また、今年度から導入しましたマイクロスコープを用いた手元の撮影により、上田先生の細かな手技を後席の参加者のかたでも目の前で見ているかのようなライブ感でお伝えすることができました。本セミナーは毎年満員御礼で、上田先生から直接、指導していただくことで歯周外科の経験のある先生は手技を見直し更なるステップアップを図り、経験の浅い先生は歯周外科のハードルを下げられる内容になっております。今後も臨床スキルアップセミナーの開催を予定しておりますので、是非多くの皆様にご参加頂ければと思います。

学術委員 谷口友一（43期）



●第44回ハンズオンセミナー

令和6年11月10日（日）に、福岡歯科大学4階実習室にて、福岡歯科大学同窓会主催第44回臨床セミナーが開催されました。テーマは「支台歯形成とデジタル印象採得の実践」と題し、福岡市ご開業の園田晋平先生、松永興昌先生を講師にお迎えし、顎模型と光学印象機を用いた実習を行いました。園田先生には前歯部CAD/CAM冠、松永先生には小臼歯部CAD/CAMインレーおよび大臼歯CAD/CAM冠の形成についてご指導いただきました。光学印象後は希望する歯種の評価によるフィードバックを行いました。参加された先生方からも積極的に質問していただき、活気に溢れたセミナーとなりました。保険改定等により、これからますます重要になってくる内容であったと思います。セミナーで学んだことを積極的に実践し、これからの臨床に生かして行きたいと思います。来年度以降の学術事業開催も多くの皆様にご参加いただければ幸いです。

学術委員 永井千晶（41期）



●第40回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会

令和6年8月24日（土）、12:00～20:00大阪大学歯学部同窓会・大阪歯科大学歯学部同窓会が主催し第40回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会が大阪大学中之島センターで開催され参加校は28校の70名で、本同窓会からは葛西常務理事、中村理事が参加した。

ワークショップ テーマ：「次の時代の学術活動をどう考えるか？」

若手学術委員の勧誘～モチベーション、内容、集客、予算までの議案を参加メンバーを8班に分け、KJ法と2次元展開法を用いて、課題と問題点を書き出し、データを図解化、整理することで解決策を見出していくことを行い各班発表した後、総括した。

基調講演講師は大阪大学歯学部-顎口腔機能治療学講座教授-阪井丘芳先生、座長を大阪大学歯学部同窓会の塚本雄一先生とし、演題は「除菌消臭成分MA-Tとの出会いと未来型口腔ケアへの展開」～内閣総理大臣賞から医療・介護・動物医療・大阪関西万博への貢献～を講演された。

口腔ケアは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックに直面し、重要な感染対策とし口腔ケアは感染防御の最前線であるといえる。同時期に「MA-T」（要時生成型亜塩素酸イオン水溶液）との運命的な出会いがあった。MA-Tとは必要な量の活性種（水性ラジカル）を生成させることで、流行性ウイルスをはじめとするウイルスの不活化、種々の菌（細菌）の除菌を可能にする革新的な酸化制御技術のことである。オールジャパンで発明された画期的なMA-Tを用いて、2025年の大阪関



西万博に積極的に協力しながら、医療・介護・動物医療現場において身近な生活に密着した未来型の口腔ケアとして提案していきたいと考えている。

最後に2025年度第41回学術連絡会の次期主管校松本歯科大学より挨拶があり閉会となった。

常務理事 葛西秀夫（6期）

福祉厚生（災害対策） 委員会報告

毎年各地で風水被害の災害が発生し大きな被害がおきています。九地連・九州各県災害特別委員会では、歯科関係5大学との協定が終結されており、今後災害時に動くため、マニュアルの作成についても見直し検討がなされていますので、同窓会として、今後起こりうる大規模災害に向けて何ができるか検討していかなければならないと考えております。

また、今回はじめて令和6年度診療報酬改定対応「社会保険研修会」（歯初診 口強管 外感染 外安全）を会員無料にて令和7年1月19日（日）福岡県歯科医師会館にて開催いたしました。施設基準取得に向けた研修会をまとめて対応することにより、会員にとって有意義な研修会になりました。研修会資料を監修していただいた、小嶺祐子前医療管理官にはこの場をお借りして感謝申し上げます。

最後に、セブンプラチナ・ビジネス・アメリカンエクスプレスカードのご提案です。年間獲得したポイントをJALマイルに15万マイル移行できます。

今年度の総会の議を経ることになりますが、このカードの入会における手数料収入は、大規模災害対策費として積立金会計設定を予定しています。皆様の協力をお願いします。

今後も会員のためになる情報発信を考えていきますので、福祉厚生活動にご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

福祉厚生 常務理事 東 義隆（21期）



社保研修会 講師：森田倫己先生（理事、41期）

ご逝去のお知らせ

【大学関係】

三好作一郎（享年90）令和4年12月28日

口腔解剖学第I講座 元教授

富岡 徳也（享年91）令和6年1月20日

口腔外科学第I講座 元教授

松本 光生（享年90）令和6年9月8日

歯科矯正学講座 元教授

岡崎真砂男（享年96）令和6年10月30日

英語科 元教授

青野 一哉（享年91）令和6年12月7日

歯科麻酔学講座元教授・福岡歯科大学第7代学
長・福岡医療短期大学第初代学長

【同窓生】

芦原 孝一（1期 熊本）

令和6年5月18日

土斐崎敬幸（12期 宮崎）

令和6年6月9日

安西 洋一（3期 福岡南）	令和6年6月11日	手嶋 文史（1期 福岡西）	令和6年10月21日
山中 慶三（5期 高知）	令和6年7月8日	岡本 康宏（5期 島根）	令和6年10月29日
築山 卓（12期 熊本）	令和6年7月16日	村上 俊輔（14期 熊本）	令和6年11月16日
坂井 敬弥（1期 佐賀）	令和6年8月1日	加野 一平（3期 福岡北）	令和6年12月22日
森 奈千子（3期 熊本）	令和6年8月29日	宮本 勝文（2期 奈良）	令和7年1月9日
神谷 祐行（4期 大阪）	令和6年9月11日	砂古 隆壺（7期 広島）	令和7年1月15日
内野 智（5期 福岡北）	令和6年10月9日		

「比嘉なつみ」後援会入会のご案内

同窓生のみなさん、こんにちは。度々「比嘉なつみ」先生の紹介をさせていただいていますが、今回は次期の参議院選挙に向けて我々同窓会の支援活動について紹介したいと思います。

はじめに「比嘉なつみ」先生をご存知ではない先生方に、比嘉奈津美先生を紹介いたします。先生は福岡歯科大学の8期生として卒業（1986年）、卒後沖縄県の離島、久米島にて勤務医を経て、地元沖縄市でなつみ歯科医院を開業。開業医として忙しい中、カンボジアへの歯科医療ボランティア活動をはじめ、沖縄県歯科医師会においては女性初の歯科医師会副会長としても活躍されました。これらの活動が評価され、2012年12月第46回衆議院選挙において沖縄第3選挙区から立候補し当選。衆議院議員を2期務めました。

その後2019年7月の第25回参議院議員通常選挙において、日本歯科医師連盟（日歯連）の推薦を受けて立候補し次点となりましたが、2021年10月繰り上げ当選となり参議院議員として現在に至っております。

衆議院議員の2期目には環境大臣政務官を務め、現在参議院においては厚生労働委員長（令和5年10月～）としての議員活動中です。また日歯連では顧問を務めております。

前回の選挙においては日歯連の組織内代表としての立候補ではなく、推薦候補者としての立候補で、準備期間も短く次点となりました。しかし、次期参議院選挙においては日歯連の選考委員会にて組織内代表に決定しており、まさに我々歯科医師の代表として立候補するわけですから、同窓会としても全力で応援したいと考えています。

現在、同窓会としての「比嘉なつみ」先生の支援活動としては、吉永会長を先頭に歯科大学同窓会を訪ね、後援会への入会をお願いする為に全国行脚中です。原稿を書いている直近では令和6年11月16日（土）にパシフィコ横浜で開催されました、第71回全国歯科大学同窓・校友会懇話会へ、吉永会長はじめ黒木副会長、江藤専務そして私の4人で出席し、各大学同窓会の役員へ挨拶を行うとともに、「比嘉なつみ」後援会への入会のお願いをしてきました。

選挙は今年7月です。「比嘉なつみ」先生は歯科医師として24年間の開業経験もあり、歯科医療の重要性はもとより、歯科医師の苦労や日本の保険診療の低評価についても身をもって体感しております。

我々歯科医師の代弁者として、同窓会でも一丸となって支援していきたいと考えておりますので「比嘉なつみ」後援会へのご入会を宜しくお願いいたします。

ひがなつみ【ひがなつみ後援会入会のお願い】後援会入会のお願い <https://higanatsumi.com/support/>
福岡歯科大学同窓会副会長 松島一夫（8期）

第19期福岡歯科大学同窓会本部役員

令和6年4月1日～8年3月31日

役 職	氏 名	期	都府県同窓会
名誉会長	宮 口 厳	1	長崎
名誉会長	高 橋 裕	3	学内/福岡北
会長	吉 永 修	4	熊本
副会長（総合対策）	高 嶺 明 彦	6	沖縄
副会長（総合対策）都府県会長	黒 木 康 夫	6	宮崎
副会長（学術）	上 田 秀 朗	5	福岡北
副会長（総合対策）	森 直 樹	6	奈良
副会長（総合対策）	石 田 哲 也	9	大阪
副会長（総合対策）	田 中 靖 彦	12	長崎
副会長（会員拡大対策）	中 四 良	5	福岡西
副会長（学内統括）都府県会長	都 築 尊	18	学内/愛媛
副会長（福祉厚生）	水 谷 匡 秀	6	福岡西
副会長（選挙対策）都府県会長	松 島 一 夫	8	沖縄
副会長（広報・企画情報）都府県会長	要 光	11	鹿児島
副会長（組織）都府県会長	小 柳 進 祐	12	佐賀
副会長（関東地区）	楨 原 政 博	7	関東
副会長（近畿地区）都府県会長	尾 川 善 信	5	大阪
副会長（選挙対策）都府県会長	持 山 達 郎	13	福岡西
副会長（中国地区）	児 玉 昭 彦	5	山口
副会長（医療短大）	馬 場 篤 子	12	学内/福岡西
専務理事	江 藤 ゆかり	12	宮崎
常務理事（総務）	芝 池 覚	4	大阪
常務理事（総務）	中 岡 俊 智	12	大阪
常務理事（総務/会計）	中 田 宏	13	福岡西
常務理事（会計）	浦 嘉 訓	12	佐賀
常務理事（学術）	松 永 興 昌	16	福岡西
常務理事（学術）	葛 西 秀 夫	6	福岡西
常務理事（福祉厚生）	東 義 隆	21	長崎
常務理事（広報・企画情報）	大 川 伊 織	23	福岡南
常務理事（組織）	眞 島 亮 太	28	佐賀
常務理事（学内統括）	内 田 竜 司	18	学内/熊本

[理事]

理事（総務）	友 添 秀 樹	2	福岡南
理事（総務）	原 田 裕 教	12	大分
理事（総務）	松 岡 正 道	14	福岡西
理事（総務）	平 川 俊 洋	14	鹿児島
理事（総務）	新 垣 斉	14	沖縄
理事（総務）	椿 誠	16	熊本
理事（総務）都府県会長	山 下 良 太	18	福岡南
理事（総務・選挙対策）	原 精一郎	21	長崎
理事（総務）	武 田 吉 裕	35	奈良
理事（会計）	加 倉 加 恵	24	学内/広島
理事（会計）	花 水 麻 美	30	福岡西

役 職	氏 名	期	都府県同窓会
理事（学術）	江 崎 和 久	8	福岡南
理事（学術）	西 耕 作	15	福岡西
理事（学術）	坂 口 佳代子	14	福岡北
理事（学術）	中 村 恵 子	18	学内/福岡北
理事（学術）	坂 田 憲 彦	20	福岡西
理事（福祉厚生）	北 村 勝 文	9	福岡西
理事（福祉厚生）	大 塚 秀 一	9	福岡西
理事（福祉厚生）	森 田 倫 己	33	長崎
理事（広報・企画情報）	山 本 直 美	12	福岡西
理事（広報・企画情報）	小 田 瑞 恵	12	宮崎
理事（広報・企画情報）	加 藤 秀 治	13	大阪
理事（広報・企画情報）	吉 元 剛 彦	23	鹿児島
理事（広報・企画情報）	田 代 剛	26	佐賀
理事（広報・企画情報）	川 口 智 弘	29	学内/福岡西
理事（組織）	福 岡 宏 士	28	鹿児島
理事（組織）	田 中 昭 彦	28	福岡東
理事（学内統括）	吉 田 兼 義	28	学内/福岡南
理事（学内統括）	大 城 希美子	29	学内/福岡西
理事（学内統括）	山 口 雄一郎	32	学内/福岡西
理事（学内統括）	谷 口 祐 介	33	学内/大阪

[顧問]

最高顧問	寺 尾 隆 治	1	佐賀
顧問	長 尾 博 通	1	大分
顧問	岩 本 憲 明	2	福岡西
顧問	神 田 晋 爾	4	福岡西
顧問	伊 藤 明 彦	5	熊本
顧問	比 嘉 奈津美	8	沖縄

[委員]

委員（学術）	鈴 木 宏 樹	23	福岡西
委員（学術）	青 木 隆 宜	26	福岡西
委員（学術）	園 田 晋 平	29	福岡東
委員（学術）	森 川 秀 典	31	福岡南
委員（学術）	田 中 宏	35	福岡北
委員（学術）	熊 谷 徹 弥	36	学内/福岡西
委員（学術）	松 本 和 磨	36	学内/宮崎
委員（学術）	永 井 千 晶	41	学内/福岡西
委員（学術）	森 田 祥	41	学内/広島
委員（学術）	谷 口 友 一	43	鹿児島
委員（学術）	荒 川 未 来	43	学内/福岡南
委員（会計）	松 本 彩 子	35	学内/福岡南

[監事]

監事	今 本 道 也	2	福岡南
監事	城 戸 寛 史	6	学内/福岡北

[選挙管理委員会]

選挙管理員委員長	枿 泰 生	11	福岡西
----------	-------	----	-----

学内・府県同窓会会長・評議員

地区会	府県	役 職	氏 名	期	勤 務 先
学 内		地区会会長・学内会長 (本部副会長)	都 築 尊	18	咬合修復学講座 有床義歯学分野
		評 議 員	橋 本 憲一郎	23	口腔・顎顔面外科学講座 口腔腫瘍学分野
福 岡	福岡東	府県会長・評議員	安河内 真 司	18	安河内歯科医院
		評 議 員	山 下 尚 志	2	医) 尚美会 山下歯科
	福岡西	地区会会長・都府県会長 (本部副会長)	持 山 達 郎	13	持山歯科医院
		評 議 員	西 原 浩 平	10	西原歯科医院
		評 議 員	赤 間 圭	14	たくみ歯科医院
		評 議 員	飯 田 聖 子	17	まえばる歯科医院
		評 議 員	池 田 正 博	18	いけだ歯科医院
		評 議 員	重 富 澄 保	24	重富歯科医院
		評 議 員	吉 兼 透	22	よしかね歯科クリニック
		評 議 員	杉 本 大 輔	24	杉本歯科医院
		評 議 員	牧 野 正 敬	25	牧野歯科医院
		評 議 員	小 川 忠 宏	31	おがわ歯科
	福岡南	都 府 県 会 長 (本部理事)	山 下 良 太	18	医) ペリオ会山下良太歯科クリニック
		評 議 員	中 村 清 人	7	中村歯科医院
		評 議 員	小 坪 隆 治	10	小坪歯科クリニック
		評 議 員	有 田 聡	22	有古歯科クリニック
		評 議 員	本 田 攻	25	みやのじん歯科
	福岡北	都 府 県 会 長 (本部理事)	静 岡 佳 克	14	しずおか歯科
		評 議 員	友 岡 和 紀	17	友岡歯科診療所
		評 議 員	有 松 靖 弘	13	有松歯科医院
		評 議 員	今 村 英 之	22	いまむら歯科クリニック
九 州	佐 賀	地区会会長・都府県会長 (本部副会長)	小 柳 進 祐	12	小柳歯科医院
		評 議 員	山 口 倫 仁	7	やまぐち歯科医院
		評 議 員	酒 井 正 男	14	酒井歯科医院
		評 議 員	泉 福 浩 志	22	泉福歯科医院
	長 崎	都府県会長・評議員	渡 邊 知 英	13	わたなべ TOMO 歯科医院
		評 議 員	伊 藤 かがり	15	かがり歯科クリニック
		評 議 員	橋 一 史	27	たちばな歯科
		評 議 員	松 谷 康 平	30	松谷歯科医院
	熊 本	都府県会長・評議員	宇 治 寿 隆	7	宇治歯科医院
		評 議 員	林 昭 宏	12	林歯科医院
		評 議 員	井 上 裕 邦	15	井上歯科クリニック
		評 議 員	太 田 文 隆	16	アイ歯科・矯正歯科クリニック

地区会	府県	役 職	氏 名	期	勤 務 先
九州	大 分	都府県会長・評議員	山 田 道 男	6	高城やまだ歯科
		評 議 員	難 波 亮 二	7	なんば歯科医院
		評 議 員	友 岡 浩 志	25	友岡歯科医院
	宮 崎	都 府 県 会 長 (本部副会長)	黒 木 康 夫	6	黒木康夫歯科医院
		評 議 員	陶 山 隆	6	陶山歯科医院
		評 議 員	崎 山 長 司	7	さきやま歯科
	鹿 児 島	都 府 県 会 長 (本部副会長)	要 光	11	かなめ歯科医院
		評 議 員	山之内 伸	1	山之内歯科医院
		評 議 員	中 原 康 文	15	中原歯科医院
	沖 縄	都府県会長 (本部副会長)	松 島 一 夫	8	まつしま歯科医院
		評 議 員	城 間 吉 弘	4	しろま歯科医院
		評 議 員	根 間 昌 輝	21	ねま歯科医院
中国	山 口	都府県会長・評議員	佐々木 猛	1	佐々木歯科医院
		評 議 員	宇都宮 和 寿	15	宇都宮歯科医院
	広 島	都府県会長・評議員	西 谷 展	9	にしや歯科医院
		評 議 員	二 神 正 文	5	二神歯科医院
		評 議 員	山 中 史 教	14	医) 社団安芸歯科クリニック
	島 根	都府県会長・評議員	青 笹 之 夫	2	青笹歯科医院
	岡 山	都府県会長・評議員	平 和 義	7	ひら歯科クリニック
四国	愛 媛	都 府 県 会 長	小 林 悟	4	小林歯科医院
	高 知	都府県会長・評議員	矢 野 宗 憲	9	矢野歯科医院
	香 川	都 府 県 会 長	濱 岡 宏 典	9	はまおか歯科医院
	徳 島	地区会長・都府県会長・ 評議員	野 口 圭 司	2	野口歯科医院
近畿	大 阪	地区会会長・都府県会長 (本部副会長)	尾 川 善 信	5	医療法人おがわ歯科
		評 議 員	藤 島 輝 幸	12	医療法人藤島歯科
		評 議 員	本 山 浩 司	13	本山歯科医院
	京・滋	都府県会長・評議員	桜 井 孝 徳	2	桜井歯科医院
	兵 庫	都 府 県 会 長	藤 田 忠 篤	2	フジタ歯科医院
		評 議 員	宮 脇 正 樹	10	宮脇歯科医院
	和歌山	都 府 県 会 長	藤 田 知 則	8	藤田歯科診療所
	奈 良	都 府 県 会 長	上 林 融	3	上林歯科医院
中部	地区会長・都府県会長・ 評議員	伊 藤 恒 一	2	中津第一歯科医院	
関東	地 区 会 会 長 (本部副会長)	榎 原 政 博	7	榎原歯科新橋インプラントセンター	
	都府県会長・評議員	中 野 裕 次	6	なかの歯科医院	

会 務 報 告

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

月日	曜日	詳 細	出 席 者	場 所
4/1	土	佐賀県同窓会学術講演会・総会	吉永会長、江藤専務	ホテルニューオータニ佐賀
4/2	日	障害者歯科教授小島寛先生退職記念祝賀会	吉永会長	ホテルニューオータニ博多
4/5	水	第1回学術委員会	学術委員会	Web
4/7	金	入学式		本学園50周年記念講堂
4/11	火	令和4年度監査	監事、江藤専務、会計委員会	Web
4/14	金	第1回常務理事会 WEB 会議		Web
4/24	月	第1回会長会議 WEB 会議		Web
5/10	水	第2回学術委員会	学術委員会	Web
5/13	土	長崎県同窓会「歯ってん会」総会・懇親会		梅ヶ枝荘
〃	〃	令和5年度理事会前日懇親会		ザ・ライブラリー博多福岡 B 1
5/14	日	令和5年度第1回理事会		福岡県歯科医師会館中ホール
5/22	月	第2回会長会議 WEB 会議		Web
5/28	日	大阪府同窓会総会	吉永会長	大成閣
5/30	火	学校法人理事会・評議員会	吉永会長、神田・中副会長、 宮口名誉会長	福岡学園
5/31	水	吉永会長、江藤専務、中岡常務総会打合せ 会務の為	吉永会長、江藤専務、中岡常務	同窓会室
6/7	水	第3回学術委員会	学術委員会	Web
6/11	日	福岡歯科大学同窓会主催第39回臨床セミナー	学術委員会	実習室4階
6/17	土	福岡歯科大学同窓会定時評議員会・総会・ 懇親会		電気ビル本館地下2階（8号会議 室）/ホテルニューオータニ博多
〃	〃	九州デンタルショー		マリンメッセ
6/18	日	〃		〃
6/18	日	福岡歯科大学同窓生ご子息・ご息女オープン キャンパス	吉永会長	本学園50周年記念講堂
〃	〃	12校会議		東海東京証券(株) オルクドール・ サロン TOKYO「アカデミア」
6/22	木	2023年度臨床スキルアップセミナー第1回	学術委員会	福岡県歯科医師会視聴覚室
6/24	土	沖縄県同窓会総会・学術講演会	吉永会長、江藤専務	ノポホテル沖縄那覇
6/29	木	奈良県同窓会総会・学術講演会	石田副会長	奈間蔵「栄」新大宮店
7/1	土	福岡県南同窓会総会・学術講演会	中岡常務理事	久留米歯科医師会館
〃	〃	福岡県北同窓会総会・学術講演会	吉永会長	ホテル克蘭パレス小倉
7/3	月	2023年度臨床スキルアップセミナー第1回 オンデマンド配信開始7/3～7/16	学術委員会	Web

7/5	水	第4回学術委員会	学術委員会	Web
7/10	月	第2回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web
7/15	土	大分県同窓会総会・学術講演会・懇親会	吉永会長	レンブラントホテル大分
〃	〃	広島県同窓会総会	森副会長、江藤専務	ホテルグランヴィア広島
7/19	水	学校法人理事会・評議員会	吉永会長、神田・中副会長、 宮口名誉会長	福岡学園
7/24	月	第3回会長会議・学術連携会議		Web
〃	〃	第3回会長会議 WEB 会議		Web
7/27	木	学校法人福岡学園開学記念式典	吉永会長、中・森副会長、 江藤専務	本学記念講堂
7/29	土	熊本県同窓会「大阿蘇会」総会・講演会・ 懇親会	黒木副会長、江藤専務	ANA クラウンプラザホテル熊本 ニュースカイ
8/2	水	第5回学術委員会	学術委員会	Web
8/12	土	福岡歯科大学学生後援会熊本県支部懇親会	吉永会長	ANA クラウンプラザホテル熊本 ニュースカイ
8/19	土	鹿児島県同窓会総会・懇親会	吉永会長、江藤専務	鹿児島県歯科医師会館
8/21	月	第3回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web
8/26	土	第39回全国歯科大学同窓会・校友会学術担 当者連絡会・懇親会	葛西常務	広島県歯科医師会館 2 階ハーモ ニーホール/料亭二葉
8/28	月	第4回会長会議		Web
9/4	月	2023年度臨床スキルアップセミナー第2回 オンデマンド配信開始9/4～9/17	学術委員会	Web
9/6	水	第6回学術委員会	学術委員会	Web
9/9	土	近畿ブロック役員連絡協議会・学術講演会	石田・馬場副会長	ホテル阪神 クリスタルルーム
〃	〃	宮崎県同窓会夏季総会・学術講演会	吉永会長	宮交エアラインホテル
9/10	日	12校会長専務会議・日歯会長講演会・懇親 会（12校会議）	神田・槇原副会長	九段会館
〃	〃	福岡歯科大学同窓会主催第40回臨床セ ミナー	学術委員会	福岡デンタル販売(株)
9/11	月	第4回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web
9/19	火	学校法人理事会	宮口名誉会長	福岡学園
9/22	金	学内同窓会総会		本学園
9/23	土	九州大学歯学部同窓会創立40周年記念講演 会・祝賀会	吉永会長、江藤専務、中岡常務	ホテルオークラ博多
9/25	月	第5回会長会議		Web
10/4	水	第7回学術委員会	学術委員会	Web
10/12	木	福岡歯科大学献体者慰霊祭	吉永会長	万行寺
10/14	土	福岡歯科大学学園祭		本学園
10/15	日	〃		〃
10/16	月	第5回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web
10/21	土	第75回九州歯科医学大会福岡歯科大学同窓 会懇親会	吉永会長、高嶺・馬場副会長、 俣野・中岡常務理事	宮崎観光ホテル

10/23	月	第6回会長会議		Web
10/26	木	2023年度臨床スキルアップセミナー第3回	学術委員会	福岡県歯科医師会視聴覚室
10/28	土	愛媛県同窓会総会・学術講演会	吉永会長、中岡常務	愛媛県歯科医師会館
11/1	水	第8回学術委員会	学術委員会	Web
11/6	月	2023年度臨床スキルアップセミナー第3回 オンデマンド配信開始11/6～11/19	学術委員会	Web
11/10	金	令和5年度 熊本県各歯科大学（歯学部） 同窓会支部連絡協議会懇親会		熊本県ホテルキャッスル
11/11	土	岩手医科大学歯学部同窓会創立50周年記念 式典・祝賀会	吉永会長、高嶺副会長、 江藤専務、中岡常務	盛岡グランドホテル
11/18	土	第70回全国歯科大学同窓・校友会懇話会	吉永会長、江藤専務、中岡常務	ホテル東京オークラ
11/19	日	福岡歯科大学同窓会主催第41回臨床セミ ナー	学術委員会	本学4階実習室
11/20	月	第6回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web
11/21	火	学校法人評議員会・理事会	宮口名誉会長、吉永会長、 神田副会長	福岡学園
11/27	月	第7回会長会議		Web
12/2	土	JUC 10周年記念・懇親会	吉永会長	共創館/ホテルニューオータニ博 多
12/4	月	地域連携センター教授 永井 淳先生 最終講義4時限目	都築副会長	本館7階 701号
12/6	水	第9回学術委員会	学術委員会	Web
12/10	日	福岡歯科大学学会総会・学術大会		福岡歯科大学50周年記念講堂
12/18	月	第7回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web
12/19	火	医療人間学講座言語情報学分野教授 壬生正博先生 最終講義5時限目	都築副会長	本館7階 601号
〃	〃	学校法人理事会・忘年会	宮口名誉会長	福岡学園
12/25	月	第8回会長会議		
12/28	木	仕事納め		
1/5	金	仕事初め		
1/10	水	第10回学術委員会	学術委員会	Web
1/13	土	長崎県同窓会学術講演会	吉永会長、江藤専務、中岡常務 理事	長崎県歯科医師会館
1/15	月	第8回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web
1/20	土	学生後援会理事会・懇親会	吉永会長、中副会長	オリエンタルホテル福岡 博多ステーション4F
1/22	月	第9回会長会議		Web
〃	〃	学校法人理事会	宮口名誉会長	福岡学園
1/25	木	2023年度臨床スキルアップセミナー第4回	学術委員会	福岡県歯科医師会視聴覚室
2/3	土	学校法人福岡学園新キャンパス本館起工式	吉永会長	本学園
〃	〃	寺尾隆治先生旭日章授章祝賀会	宮口名誉会長、吉永会長、 高嶺副会長、江藤専務	ホテルニューオータニ佐賀

2/5	月	2023年度臨床スキルアップセミナー第4回 オンデマンド配信開始	学術委員会	Web
2/7	水	第11回学術委員会	学術委員会	Web
2/10	土	大阿蘇会新年会（熊本県同窓会）	吉永会長、江藤専務、 中岡常務理事	熊本県ホテルキャッスル
2/15	木	日本歯科医師連盟参与会議		歯科医師会館1階大会議室
2/17	土	九州5大学歯学部連絡協議会	宮口名誉会長、吉永会長、 江藤専務、中岡常務、 渡邊長崎県同窓会長	楽ギャラリー
2/19	月	第9回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web
2/24	土	選挙対策委員会	吉永会長、黒木・松島副会長、 江藤専務、中岡常務理事、 持山福岡県西同窓会長	西鉄ソラリアホテル
〃	〃	福岡歯科大学同窓会第36回学術講演会前日 懇親会		西鉄ソラリアホテル
2/25	日	福岡歯科大学同窓会第36回学術講演会	学術委員会	
2/26	月	第10回会長会議		Web
3/9	土	卒業式/謝恩会	吉永会長/中副会長、江藤専務	本学園/ホテルニューオータニ博 多
3/18	月	第10回常務理事会 WEB 会議	常務理事以上	Web
3/19	火	学校法人評議員会・理事会	宮口名誉会長、吉永会長、 神田副会長	福岡学園
3/20	水	中国地区代表者会議		料亭双葉
3/24	日	12校会議	吉永会長、江藤専務	東京ミットタウン八重洲 八重洲セントラルタワー 8F
3/25	月	第11回会長会議 WEB 会議		Web

一般会計

令和5年度 福岡歯科大学同窓会会計収支決算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

収入の部

単位：円

款	項	科 目	予 算 額	決 算 額	決算額との差額	備 考
1		会費・入会金	26,000,000	22,086,000	-3,914,000	
	1	会員	24,000,000	21,360,000	-2,640,000	会費及び入会金
	2	準会員	2,000,000	690,000	-1,310,000	入会金（学生）入会
	3	寄付金		36,000	36,000	寄付金
2		学術	5,600,000	7,653,500	2,053,500	
	1	講演会	1,300,000	1,261,000	-39,000	35回講演会
	2	臨床セミナー	2,300,000	3,187,500	887,500	
		①39回臨床セミナー	900,000	984,500	84,500	
		②40回臨床セミナー	700,000	1,413,000	713,000	
		③41回臨床セミナー	700,000	790,000	90,000	
	3	スキルアップセミナー	1,200,000	1,110,000	-90,000	2023年度臨床スキルアップセミナー（ハイブリッド）
	4	抄録広告・CM料	800,000	2,095,000	1,295,000	講演会・スキルアップセミナー企業展示・CM・広告料
	5	助成金	0	0	0	
3		雑収入	1,001,000	1,571,093	570,093	
	1	預金利息	1,000	93	-907	普通預金利息
	2	広告料	800,000	541,000	-259,000	同窓会誌広告
	3	求人広告	100,000	190,000	90,000	
	4	その他	100,000	720,000	620,000	総会学園祝儀/総会会費65名
	5	同封手数料	0	120,000	120,000	同封手数料
		小 計	32,601,000	31,310,593	-1,290,407	
4		前年度繰越金	24,753,453	24,753,453	0	前年度から繰越
	1	前年度繰越金	24,753,453	24,753,453	0	
		合 計	57,354,453	56,064,046	-1,290,407	

支出の部

款	項	科 目	予 算 額	決 算 額	決算額との差額	備 考
1		人件費	6,910,000	5,212,480	1,697,520	
	1	人件費	6,910,000	5,212,480	1,697,520	外部委託、事務員給与
2		通信費	1,100,000	1,481,073	-381,073	
	1	通信費	1,100,000	1,481,073	-381,073	通信費・郵送料他
3		事務費	710,000	388,247	321,753	
	1	事務費	710,000	388,247	321,753	コピー代、消耗品他
4		連絡会議費	2,700,000	5,211,291	-2,511,291	
	1	連絡会議費	2,700,000	5,211,291	-2,511,291	評議員会・総会・WEB会議・常務理事会会議費
5		広報印刷費	2,380,000	1,707,230	672,770	
	1	広報印刷費	2,380,000	1,707,230	672,770	同窓会誌制作・HP製作費・LINEグループ
6		慶弔費	430,000	267,093	162,907	
	1	慶弔費	430,000	267,093	162,907	会員死亡・災害見舞金等
7		学術費	5,600,000	5,520,846	79,154	
	1	学術費	5,600,000	5,520,846	79,154	学術事業関係
8		渉内費	3,200,000	3,710,943	-510,943	
	1	渉内費	3,200,000	3,710,943	-510,943	各県同窓会総会・学術講演会助成金・出張費
9		渉外費	3,930,000	3,101,991	828,009	
	1	渉外費	3,930,000	3,101,991	828,009	渉外活動費・学会助成金
10		雑費	100,000	19,331	80,669	
	1	雑費	100,000	19,331	80,669	消耗品等
11		予備費	1,000,000		1,000,000	
	1	予備費	1,000,000		1,000,000	
12		積立金	4,500,000	4,500,000	0	
	1	名簿積立金	600,000	600,000	0	
	2	退職金積立金	200,000	200,000	0	
	3	備品積立金	200,000	200,000	0	
	4	周年記念準備基金	2,500,000	2,500,000	0	同窓会周年記念事業の積立金
	5	学園協力積立金	1,000,000	1,000,000	0	学園施設改修等事業協力基金
		小 計	32,560,000	31,120,525	-1,439,475	
13		次年度繰越金	24,794,453	24,943,521	149,068	
	1	次年度繰越金	24,794,453	24,943,521		
		合 計	57,354,453	56,064,046	-1,290,407	

令和5年度積立金会計収支決算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

単位：円

基 本 財 産 積 立 金	
過年度積立金	52,130,565
計上利息（普通・定期預金利息）	834
合 計（次年度繰越金）	52,131,399

備 品 積 立 金			
収 入		支 出	
過年度積立金	1,474,549	加湿空気清浄機 SHARP（KI-RX100）	76,780
本年度積立金	200,000		
利息（西日本シティ/野芥）	11		
		合 計	76,780
合 計	1,674,560	合 計（次年度繰越金）	1,597,780

周年記念準備基金			
収 入		支 出	
過年度積立金	14,106,542	残高証明書	330
本年度積立金	2,500,000		
利息（西日本シティ/野芥）	115	合 計	330
合 計	16,606,657	合 計（次年度繰越金）	16,606,327

学 園 等 協 力 金			
過年度積立金	33,233,708	残高証明書発行手数料	550
本年度積立金	1,000,000		
利息（ゆうちょ銀行/通常貯金4月10月）	12		
利息（ゆうちょ銀行/定額貯金）			
利息（ゆうちょ銀行/定額貯金）		小 計	550
合 計	34,233,720	合 計（次年度繰越金）	34,233,170

名 簿 積 立 金	
過年度積立金	2,225,381
本年度積立金	600,000
利息（西日本シティ/原）	19
合 計	2,825,400

退 職 金 積 立 金	
過年度積立金	5,949,974
本年度積立金	200,000
利息（西日本シティ/野芥）	50
合 計（次年度繰越金）	6,150,024

特別会計

令和5年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業収支決算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

単位：円

収入の部

款	項	科 目	予 算 案	決 算 額	予算との差額	備 考
1		参加費	7,000,000	10,100,000	3,100,000	
	1	参加費	7,000,000	10,100,000		16名
2		雑収入	0	51	51	
	1	雑収入	0	51		預金利息
収 入 合 計			7,000,000	10,100,051	3,100,051	
3		前受金	-5,350,000	-5,350,000		
	1	前受金	-5,350,000	-5,350,000		2023年度 ICOI 受講料
小 計			-5,350,000	-5,350,000	0	
4		繰入金	5,358,389	5,358,389		前期繰越金
	1	繰入金	5,358,389	5,358,389		
小 計			5,358,389	5,358,389	0	
合 計			7,008,389	10,108,440	3,100,051	

支出の部

款	項	科 目	予 算 案	決 算 額	予算との差額	備 考
1		人件費	90,000	70,000	20,000	
	1	人件費	90,000	70,000		翻訳礼金
2		通信費	50,000	0	50,000	
	1	通信費	50,000	0		
3		会場費	0	288,500	-288,500	
	1	会場費		288,500		
4		講演費	3,400,000	3,422,921	-22,921	
	1	講師料	2,500,000	2,330,312	169,688	講師・インストラクター・交通費・宿泊費
	2	材料費	500,000	312,068	187,932	
	3	昼食費	300,000	394,372	-94,372	受講者・スタッフ昼食代
	4	印刷費	100,000	0	100,000	
	5	その他	0	386,169	-386,169	懇親会費他
5		事務費	0	500,880	-500,880	
	1	事務費		500,880		iACD 日本事務局 2023年度 ICOI 開催手数料
6		会議費	100,000	0	100,000	
	1	会議費	100,000	0		
7		雑費	100,000	8,040	91,960	
	1	雑費	100,000	8,040		
8		予備費	200,000	0	200,000	
	1	予備費	200,000	0		
9		学会関連費	1,600,000	1,274,707	325,293	
	1	学会関連費	1,600,000	1,274,707		学会出張費等
10		大学関連費	0	35,444	-35,444	
	1	大学関連費		35,444		
支 出 合 計			5,540,000	5,600,492	-60,492	
11		未払費用		815,690	-815,690	
	1	未払費用		815,690		
12		繰越金	1,468,389	3,692,258	-2,223,869	次年度繰越
	1	繰越金	1,468,389	3,692,258	-2,223,869	
合 計			7,008,389	10,108,440	-3,100,051	

令和6年度福岡歯科大学同窓会会計収支予算書

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

収入の部

単位：円

款 項	科 目	前年度決算額	本年度予算額	決算額との差額	備 考
1	会費・入会金	22,086,000	26,000,000	3,914,000	
1	会員	21,360,000	24,000,000	2,640,000	会費及び入会金
2	準会員	690,000	2,000,000	1,310,000	入会金（学生）入会
3	寄付金	36,000	0	-36,000	寄付金
2	学術	7,653,500	5,700,000	-1,953,500	
1	講演会	1,261,000	1,200,000	-61,000	35回講演会
2	臨床セミナー	3,187,500	2,600,000	-587,500	
	①39回臨床セミナー	984,500	900,000	-84,500	第42回ハンズオンセミナー
	②40回臨床セミナー	1,413,000	1,000,000	-413,000	第43回ハンズオンセミナー
	③41回臨床セミナー	790,000	700,000	-90,000	第44回ハンズオンセミナー
3	スキルアップセミナー	1,110,000	1,100,000	-10,000	2024年度臨床スキルアップセミナー（ハイブリッド）
4	抄録広告・CM料	2,095,000	800,000	-1,295,000	講演会・スキルアップセミナー企業展示・CM・広告料
5	助成金	0	0	0	
3	雑収入	1,576,093	1,101,000	-470,093	
1	預金利息	93	1,000	907	普通預金利息
2	広告料	541,000	800,000	259,000	同窓会誌広告
3	求人広告	190,000	100,000	-90,000	
4	その他	720,000	100,000	-620,000	総会学園祝儀／総会会費
5	同封手数料	120,000	100,000	-20,000	同封手数料
	小 計	31,310,593	32,801,000	1,490,407	
7	前年度繰越金	24,753,453	24,944,355	190,902	前年度から繰越
1	前年度繰越金	24,753,453	24,944,355	190,902	
	合 計	56,064,046	57,745,355	1,681,309	

支出の部

款 項	科 目	前年度決算額	本年度予算額	決算額との差額	備 考
1	人件費	5,212,480	7,000,000	1,787,520	
1	人件費	5,212,480	7,000,000	1,787,520	外部委託、事務員給与、パート
2	通信費	1,481,073	1,500,000	18,927	
1	通信費	1,481,073	1,500,000	18,927	通信費・郵送料他
3	事務費	388,247	700,000	311,753	
1	事務費	388,247	700,000	311,753	コピー代、消耗品他
4	連絡会議費	5,211,291	4,500,000	-711,291	
1	連絡会議費	5,211,291	4,500,000	-711,291	評議員会・総会・WEB会議・常務理事会会議費
5	広報印刷費	1,707,230	2,380,000	672,770	
1	広報印刷費	1,707,230	2,380,000	672,770	同窓会誌制作・HP製作費・LINEグループ
6	慶弔費	267,093	430,000	162,907	
1	慶弔費	267,093	430,000	162,907	会員死亡・災害見舞金等
7	学術費	5,520,846	5,700,000	179,154	
1	学術費	5,520,846	5,700,000	179,154	学術事業関係
8	渉内費	3,710,943	3,600,000	-110,943	
1	渉内費	3,710,943	3,600,000	-110,943	各県同窓会総会・学術講演会助成金・出張費
9	渉外費	3,101,991	4,000,000	898,009	
1	渉外費	3,101,991	4,000,000	898,009	渉外活動費・学会助成金
10	雑費	19,331	100,000	80,669	
1	雑費	19,331	100,000	80,669	消耗品等
11	予備費	1,000,000	300,000	-700,000	
1	予備費	1,000,000	300,000	-700,000	
12	積立金	4,500,000	4,500,000	0	
1	名簿積立金	600,000	600,000	0	
2	退職金積立金	200,000	200,000	0	
3	備品積立金	200,000	200,000	0	
4	周年記念準備基金	2,500,000	2,500,000	0	同窓会周年記念事業の積立金
5	学園協力積立金	1,000,000	1,000,000	0	学園施設改修等事業協力基金
	小 計	31,120,525	34,710,000	3,589,475	
15	次年度繰越金	24,944,355	23,035,355	-1,909,000	次年度経費分
1	次年度繰越金	24,944,355	23,035,355	-1,909,000	
	合 計	56,064,046	57,745,355	1,681,309	

特別会計

令和6年度福岡歯科大学同窓会特別支援事業収支予算書

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

収入の部

単位：円

款	項	科 目	前年度決算額	予 算 案	予算との差額	備 考
1		参加費	10,100,000	7,000,000	-3,100,000	
	1	参加費	10,100,000	7,000,000		10名
2		雑収入	51	0	-51	
	1	雑収入	51	0		利息
小 計			10,100,051	7,000,000	-3,100,051	
3		前受金	-5,350,000	0		前期繰越金
	1	前受金	-5,350,000	0		
小 計			-5,350,000	0	5,350,000	
4		繰入金	5,358,389	5,358,389	0	前期繰越金
	1	繰入金	5,358,389	5,358,389	0	
小 計			5,358,389	5,358,389	0	
収 入 合 計			10,108,440	12,358,389	2,249,949	

支出の部

款	項	科 目	前年度決算額	予 算 案	予算との差額	備 考
1		人件費	70,000	90,000	20,000	
	1	人件費	70,000	90,000		通訳礼金
2		通信費	0	50,000	50,000	
	1	通信費	0	50,000		
3		会場費	288,500	300,000	11,500	
	1	会場費	288,500	300,000		
4		講演費	3,422,921	3,800,000	377,079	
	1	講師料	2,330,312	2,500,000	169,688	講師・インストラクター・交通費・宿泊費
	2	材料費	312,068	500,000	187,932	
	3	昼食費	394,372	300,000	-94,372	受講者・スタッフ昼食代
	4	印刷費	0	100,000	100,000	
	5	その他	386,169	400,000	13,831	懇親会費他
5		事務費	500,880	500,880	0	
	1	事務費	500,880	500,880		開催手数料
6		会議費	0	100,000	100,000	
	1	会議費	0	100,000		会議出張費
7		雑費	8,040	100,000	91,960	
	1	雑費	8,040	100,000		
8		予備費	0	200,000	200,000	
	1	予備費	0	200,000		
9		学会関連費	1,274,707	1,500,000	225,293	
	1	学会関連費	1,274,707	1,500,000		学会出張費
10		大学関連費	35,444	100,000	64,556	
	1	大学関連費	35,444	100,000		
小 計			5,600,492	6,740,880	1,140,388	
11		未払費用	815,690	0	815,690	
	1	未払費用	815,690	0		
12		繰越金	3,692,258	5,617,509	1,925,251	次年度繰越
	1	繰越金	3,692,258	5,617,509		
支 出 合 計			10,108,440	12,358,389	2,249,949	

〈会則〉

福岡歯科大学同窓会会則

第1章 総 則

第1条 名 称

本会は、福岡歯科大学同窓会と称する。

第2条 組 織

1. 本会は、福岡歯科大学（大学院を含む）を卒業（修了）した者及び福岡歯科大学在校生で組織する。
2. 本会は、各地区、学校法人福岡学園勤務の同窓との連携を計り、会務運営の円滑を期待するために地区会、学内同窓会を置くことができる。
3. 地区会の区割り及び学内同窓会、その他必要な事項については別に規則を定める。

第3条 目 的

本会は歯科界、並びに母校の発展に寄与し、併せて会員の福祉及び会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第4条 事 業

本会は、第1章第3条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 母校の発展に関すること。
2. 会員の福祉増進及び親睦に関すること。
3. 歯科医学の向上に関すること。
4. その他本会の目的に関すること。

第5条 事務局

本会は事務局を福岡市早良区田村2丁目15-1、福岡歯科大学内に置き所在地とする。

第2章 会 員

第6条 会 員

本会は次の会員を以って組織する。

1. 正会員 福岡歯科大学（大学院を含む）卒業（修了）者で、第2章第7条第1項を満足するものとする。
2. 準会員 福岡歯科大学在校生。

第7条 会員の権利と義務

1. 会員は居住、又は就業する地域の地区会都道府県同窓会に所属することを原則とする（但

し、学内同窓会に所属する会員は、この限りではない）。

2. 会員は本会の主催する事業に参加し、本会の発行する機関誌及び印刷物の頒布を受け、若しくは購入することができる。
3. 会員は総会に出席し、意見を述べることができる。
4. 会員は、総会並びに評議員会の決定事項を遵守する義務を有する。
5. 会員は、住所を異動した場合、所属の都道府県同窓会を経由して本会に届け出なければならない。
6. 会員が死亡又は除名されたときは、本会会員の身分を失ったものとする。
7. 会員が本会を退会するときは、その旨を記載した書面を本会に提出しなければならない。
8. 正会員は、総会において議事を審議し、議決権を有する。また役員になることができる。
9. 準会員は、本校在学者とし、正会員としての権能は有しない。

第3章 名誉会長・名誉会員・

特別会員・臨床研修会員

第8条 名誉会長・名誉会員・特別会員・臨床研修会員

本会に名誉会長、名誉会員、特別会員、臨床研修会員を置くことができる。また、前項の会員は、本会の研修会等に出席し学術研究を発表し、あるいは本会の会誌及び刊行物の配布を受けまたは購入することができる。本条の会員は前項のほか、正会員の権利を有しない。但し、本会員の正会員で名誉会員に推薦された者はこの限りではない。

1. 名誉会長は、理事会の議決を経て会長が推薦する。任期は、会長の在任期間とする。
2. 名誉会員は、母校並びに本会に対して特に功労があった者を評議員会の議決を経て会長が推薦する。
3. 特別会員は、退職した母校の教授、または母

〈会則〉

校並びに本会に対して特に功労があった者を理事会の議決を経て会長が推薦する。

4. 臨床研修会員は、他大学卒業の歯科医師法に定める臨床研修歯科医師で、本学で臨床研修を行っている者を会長が推薦する。また、会員の資格は臨床研修の期間とする。

第4章 会費及び負担金

第9条 会費及び負担金

1. 会員は本会所定の入会金、会費、及び負担金を本会へ納入しなければならない。
2. 入会金、会費及び負担金の額ならびに支払いの方法は、総会で決める。

第10条 会費の減免

本会の会員にして長期疾病及び災害等により本会所定の会費の支払いが極めて困難な者は、都道府県同窓会会長の申請に基づき理事会の議を経て、復帰するまでの期間を前提として会費を減免、またはその納入を猶予することができる。但し、都道府県同窓会を経由することが困難な場合には、本部へ直接減免願いを提出することができる。

第11条 会費の返還

本会に納入された入会金、年会費及び負担金はいかなる理由があっても返還しない。

第12条 負担金その他

本会は、評議員会、総会の承認を経て負担金を徴収することができる。

第5章 役員

第13条 役員の種別と定数

本会に次の役員を置く。

1. 会 長 1名
2. 副会長 若干名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3名以内

第14条 役員の選出

1. 会長、監事は選挙規則に従い、評議員会において正会員の中から選出する。但し、監事は他役員を兼任できない。
2. 副会長、理事、委員は会長が指名する。

3. 理事の内、1名を専務理事、若干名を常務理事とする。

第15条 役員の職務

1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 会長は総会、評議員会、理事会、委員会、地区会長会議を招集する。
3. 会長は、理事会の決議を要する事柄でありながら、緊急必要事項については専決することができる。但し、後日理事会へ報告しなければならない。
4. 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時または欠けた時は会長の職務を代行する。
5. 専務理事は、会長の旨を受け会務を掌理し、会長及び副会長共に事故ある時または欠けた時はその職務を代行する。
6. 常務理事は、会長の旨を受けその担当業務を掌理して専務理事を補佐する。
7. 各前号に定める以外の理事は、会長の旨を受けて会務を分掌して会長を補佐する。
8. 監事は本会の業務と会計を監査し、評議員会、総会に報告しなければならない。

第16条 役員の任期

1. 会長、監事及び役員、委員の任期を2年とする。但し、再任を妨げない。
2. 役員は任期満了後も、後任が選出されるまでは、その職務を行う。

第17条 役員の補充

副会長、理事の欠員が生じた時は、本会会則5章第14条に従い補充することができる。その任期は前任者の残留任期とする。

第18条 顧問・最高顧問・特別顧問

本会は、顧問・最高顧問・特別顧問を置くことができる。顧問・最高顧問・特別顧問は会長が推薦し委嘱する。顧問・最高顧問・特別顧問は原則として本学同窓生とする。顧問・最高顧問・特別顧問の任期は、委嘱した会長の在任期間とする。顧問・最高顧問・特別顧問は会長の諮問にこたえ本会の各種会議に出席して意見を述べることができる。ただし表決に加わることはできない。

〈会則〉

第6章 評 議 員

第19条 評議員

1. 本会に評議員を置く。
2. 評議員は第13条で規定する役員と兼ねることができない。

第20条 選任等

1. 評議員は正会員で地区会、学内同窓会より選出される。
2. 評議員の選任数は、地区会、学内同窓会における1月末日現在の本会会員50名までに対して1名、50名を超える場合は、50名までごとに1名の割合で加えた数の評議員を上限として選出するものとする。
3. 地区会、学内同窓会は評議員に変更がある場合は、速やかに本会に報告しなければならない。
4. 評議員の任期は2年とし、選任された年の4月1日に始まる。

第21条 職務及び権能

1. 評議員は評議員会に出席し、地区会、学内同窓会の同窓会会員の意見を反映させると共に、その決定事項を地区会、学内同窓会の同窓会会員に報告しなければならない。
2. 評議員は、評議員会で会則その他の規定で定められていることを審議し、又は、本会の目的、事業について意見を述べることができる。

第22条 職務代理及び代行

評議員に事故ある時または欠けた時は、当該地区より評議員会の議長宛に委任状を提出するか、または当該地区より代理人は書面をもって指定し届ける事とする。代理人は、評議員と同等の権利と義務を有する。

第7章 会 議

第23条 会議の種類

1. 本会の会議は、総会・評議員会・常務理事会・理事会・委員会・地区会会長会議とする。但し、会長は必要に応じ会議を開催することができる。
2. 評議員会を本会の最高議決会議とする。

〈会則〉

第8章 総 会

第24条 構成・種別及び開催等

1. 総会は正会員を以って構成し、議決、報告及び承認する。
2. 総会は定時総会と臨時総会とする。
3. 定時総会は毎年1回原則として5月に開催する。
4. 臨時総会は、会長が必要と認めた場合に開催する。

第25条 招 集

1. 評議員の3分の2以上又は監事から、臨時総会の招集の要求があった場合は、会長はできるだけ早く臨時総会を招集しなければならない。
2. 会長は総会を招集しようとする時は、事前に日時、場所及び会議の目的を示した書面を以って会員に知らせなければならない。

第26条 総会の権能

総会では、次の事項を承認又は議決し会員へ報告しなければならない。

1. 評議員会の決議承認事項
2. 会務全般にわたる事項
3. その他、総会において必要と認めた事項

第27条 議長及び副議長

総会の議長及び副議長は出席正会員の中から選出する。

第28条 委任規定

議事規則は、別に定める。

第9章 評 議 員 会

第29条 構成・種別及び召集

評議員会は評議員を以って構成する決議機関である。

1. 評議員会は定時評議員会と臨時評議員会とする。
2. 定時評議員会は総会開催前に会長が招集する。
3. 臨時評議員会は会長が必要と認めた時、あるいは全評議員の4分の1以上の要求があった時に招集する。
4. 評議員会は、委任状を含む全評議員の3分の

〈会則〉

2以上の出席で成立する。

第30条 意見陳述

役員は評議員会に出席して意見を述べることができるが、表決に加わることはできない。

第31条 評議員会の権能と総会への上程

評議員会では次の事項を行い承認又は議決を経てこれを総会へ上程する。

1. 会則及び諸規則改正の審議
2. 会長選出
3. 前年度会計報告の審議並びに承認
4. 前年度会務及び事業報告の審議並びに承認
5. 新年度予算案の審議並びに承認
6. 役員の承認
7. 入会金、会費及び負担金の金額並びに徴収方法の決定
8. 本会の目標達成に必要な事業で経費を要するものの承認
9. その他の必要と認める事項

第32条 議長及び副議長

評議員会の議長及び副議長は評議員で互選する。

第33条 委任規定

議事規則は別に定める。

第10章 常務理事会

第34条 常務理事会の構成

常務理事会は、会長、副会長、専務理事、常務理事を以って構成し会長が随時必要な場合にこれを招集する。

第35条 権 能

常務理事会は、常務会務並びに緊急を要する会務に関することを執行する機関であり、会長がこれを招集する。

1. 常務理事会で処理した事項は、理事会に報告しなければならない。

第11章 理 事 会

第36条 理事会の構成及び招集

1. 理事会は、本会の会務全般を執行する機関であり、会長がこれを招集する。
2. 理事会は、会長、副会長、専務理事、常務理

事、理事、委員を以って構成し、会長が随時必要な場合にこれを招集する。

第37条 理事会の権能

理事会は本会の業務に必要な事項の審議を行う。

1. 総会及び評議員会の招集に関する事項とこれに付議する事項
2. 会費の減免に関する事項
3. その他本会の運営業務執行に関する事項

第38条 監事の権能

監事は随時出席して意見を述べるができるが表決に加わることはできない。

第12章 委 員 会

第39条 委員会

1. 会長は、必要に応じて理事会の同意を得て、委員会を置くことができる。
2. 委員会は、理事会の議を経て会長が委嘱した委員で構成する。
3. 委員会の種類、構成、活動は必要に応じ理事会で決定する。
4. 会長は随時必要な場合にこれを招集することができる。

第40条 委員会の事業

委員会は、会務処理の円滑を図るため次の事業部を置き、常務理事会が各委員会を統括をする。

1. 総務
2. 福祉厚生
3. 組織
4. 広報・企画情報
5. 学術
6. 学内統括
7. 会計

第41条 臨時委員会

1. 会長は、特別な行事及び重要な問題が生じた時に理事会の承認を経て臨時委員会を設置することができる。
2. 会長が委員長を指名し、会長及び委員長が必要に応じ委員を選任する。

第42条 特別委員会

1. 会長は、特別な行事及び重要な問題が生じた

〈会則〉

〈会則〉

ときに評議員会の承認を経て特別委員会を設置することができる。

2. 会長が委員長を指名し、会長及び委員長が必要に応じ委員を選任する。

第13章 地区会会長会議

第43条 地区会会長会議

本会議は、会長が必要と認めたとき随時開催することができる。

第14章 選挙管理委員会

第44条 選挙管理委員会

1. 本会に選挙管理委員会を置く。
2. 選挙管理委員会は、選挙管理委員をもって組織する。
3. 選挙管理委員会の構成及び任務その他必要なことは、選挙規則で定める。

第15章 会計及び財産

第45条 会計年度

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第46条 財産の構成

本会の財産は、次にあげるものをもって構成する。

1. 入会金
2. 年会費
3. 寄付金
4. 前年度の繰越金
5. その他の収入

第47条 財産の管理

本会の財産は、会長が代表としてこれを管理し、毎年その状況を評議員会、総会で報告しなければならない。

第48条 経費の支弁

本会の経費は、財産をもって支弁する。

第49条 委任規定

本規則に定める以外の財産の管理及び会計に関する規則は別に定める。

第16章 賞 罰

第50条 表 彰

会員で本会に功労のあった者、及び医療界に貢献した者は、評議員会の議決によって表彰することができる。

第51条 処 罰

会員で本会の目的趣旨に反し、またはその体面を汚したものは総会の議決によって適当な処置を講ずる。

第17章 会則の改正

第52条 会則の改正

本会則の改正には、評議員会及び総会において出席者の3分の2の賛成を以って議決されることを要する。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成20年5月24日から施行する。
3. この規則は平成23年5月28日から施行する。
4. この規則は平成26年4月1日から施行する。
5. この規則は平成29年5月27日から施行する。
6. この規則は令和元年5月25日から施行する。
7. この規則は令和4年6月11日から施行する。

〈会則〉

福岡歯科大学同窓会地区会設置規則

第1条 本規則は本会会則第1章第2条第3項により定める。

1. 地区会は、地区会会長を選出できる。
2. 地区会に都道府県同窓会を置くことができる。

第2条 地区会の目的

1. 会務運営の円滑を期するため地区会を置く。
2. 地区会は当該地域内の都道府県同窓会、本部同窓会及び母校の発展に関する協議を行う機関とする。

第3条 地区会、都道府県同窓会の設置

各地区においては下記のように7地区（ブロック）に分割し地区の中に都道府県同窓会を置く。但し、福岡県に限っては4分割設置し、関東地区においてはこの限りでない。

福岡県地区会

（福岡県東、福岡県西、福岡県南、福岡県北）
同窓会

九州地区会

（長崎県、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、
鹿児島県、沖縄県）同窓会

中国地区会

（山口県、広島県、島根県、鳥取県、岡山県）
同窓会

四国地区会

（愛媛県、高知県、香川県、徳島県）同窓会

近畿地区会

（兵庫県、大阪府、京・滋、奈良県、和歌山県）
同窓会

中部地区会

（福井県、岐阜県、愛知県、三重県、石川県、
富山県、長野県、静岡県）同窓会

関東地区会

（関東以北の都道府県を含む）

第4条 地区会の任務

1. 地区会は評議員を選出する。
2. 地区会は次の事項を本会に届けなければならない。

（1）役員の名簿

（2）会員の異動

（3）会員の死亡、若しくは不慮の災害が生じた場合

第5条 地区会会長

地区会会長は、地区会から選出し、本部長が指名する。地区会会長は地区会を代表して次の任務を行う。

1. 地区会会長は地区の同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。
2. 地区会会長は本部との連絡を密にし、地区会の決定事項、実施した事項及び本会本部に対する要望事項、その他必要な事項を本部長に報告しなければならない

第6条 都道府県同窓会会長

都道府県同窓会会長は、都道府県同窓会会員から選出し、本部長が指名する。都道府県同窓会会長は都道府県同窓会を代表して次の任務を行う。

1. 都道府県同窓会会長は都道府県同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。
2. 都道府県同窓会会長は地区会、本部との連絡を密にし、都道府県同窓会の決定事項、実施した事項及び地区会、本部に対する要望事項、その他必要な事項を地区会会長に報告しなければならない。

第7条 会議

1. 地区会会長は、必要に応じて会議を開催することができる。
2. 地区会会長は、会議に本部役員の出席が必要な場合、必要な役員を招聘することができる。
3. 近隣の地区会との協議が必要な場合は、合同で開催することができる。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成20年5月24日から施行する。
3. この規則は平成26年4月1日から施行する。
4. この規則は平成28年6月11日から施行する。
5. この規則は平成30年6月2日から施行する。

福岡歯科大学同窓会学内同窓会規則

第1条 本規則は本会会則第1章第2条第3項により定める。

1. 学内同窓会は、学内同窓会会長を選出することができる。

第2条 組 織

1. 学内同窓会は、福岡歯科大学（大学院を含む）を卒業（修了）したもの、準会員及び学内勤務会員で組織する。

第3条 学内同窓会の目的

1. 会務運営の円滑を期するため学内同窓会を置く。
2. 学内同窓会は、本部同窓会及び母校の発展に関する協議を行う。

第4条 学内同窓会の任務

1. 学内同窓会は評議員を選出する
2. 学内同窓会は次の事項を本会に届けなければならない。
 - (1) 会員の名簿
 - (2) 会員の異動
 - (3) 会員の死亡、若しくは不慮の災害が生じた場合

第5条 会 員

学内同窓会正会員

本会正会員で学校法人福岡学園勤務の者。

準会員

本会の準会員

第6条 学内勤務会員

学校法人福岡学園に5年以上勤務で、学内同窓会会長が推薦し本部理事会の議決を得て、会長が指名した者で、会費は正会員に準ずる。但し、正会員としての権能を有しない。

第7条 学内同窓会会長

学内同窓会会長は、学内同窓会会員から選出し本部の会長が指名する。学内同窓会会長は学内同窓会を代表して次の任務を行う。

1. 学内同窓会会長は学内同窓会会員を掌握し、その融和と親睦を図る。
2. 学内同窓会会長は本部との連絡を密にし、学内同窓会の決定事項、実施した事項及び本会に対する要望事項、その他必要な事項を本部長に報告しなければならない。

〔附 則〕

1. この規則は平成26年4月1日から施行する。

福岡歯科大学同窓会総会議事規則

第1章 会議の開閉

- 第1条 この規則は、本会会則第8章第28条に基づいて定めるものとする。
- 第2条 議事日程に記載した事項の議事が終わったときは、議長は散会を宣告する。会議を終わらない場合でも、議長は、過半数の賛成を得て延会又は散会をすることができる。
- 第3条 議長が会議を宣告する前、又は散会若しくは延会を宣告した後は、何人も議事について発言することはできない。
- 第4条 議事日程には、会議の日時及び会議に付する事項並びにその順序を記載しなければならない。

第2章 議 事

第1節 審 議

- 第5条
1. 審議中発言せんとする会員は、手を挙げ議長の許しを得て発言しなければならない。
 2. 二人以上発言を求めたときは、議長はその発言の順序を決めることを要する。
- 第6条 すべての問答は、議長に向かってしなければならない。
- 第7条 一議案の審議中は、他の議案について発言することはできない。
- 第8条 発言は、個人の事柄にわたってはならない。
- 第9条
1. 会員が発議しようとするときは、その理由を付し、建議を添え、5人以上の賛成者とともに連署して会議の2週間前までに会長に提出しなければならない。
 2. 動議は、5人以上の賛成者を得て提出することができる。
 3. 議長は、第1項・第2項に規定する発議及び動議について議場に諮り、出席者の過半数の賛成を得た場合、これを議題とすることができる。

第2節 決 議

- 第10条 出席者は特別の理由がない限り、可否いずれかの数に加わらなければならない。

- 第11条 議長表決をとるときは、表決に附する事項を明らかにしなければならない。議長表決に附する事項を宣言した後は、何人も議案について発言することはできない。
- 第12条 賛否は出席者の過半数で決める。賛否を決める方法は、議長が適宜決める。賛否が同数のときは議長が決める。
- 第13条 修正案は、原案より先に賛否を決めなければならない。同一の議案について数個の修正案が提出された場合は議長が採決の順序を決める。その順序は、原案に最も遠いものから先に採決する。
- 第14条 修正案が全部否決されたときは、原案について賛否を決める。
- 第15条 修正案及び原案が共に過半数の賛成を得なかった場合は、委員会を設置して更に修正案を提出させることができる。
- 第16条 議決の条項中、字句の整理を議長に委任することができる。
- 第17条 討論終結及び散会、休憩の合議は、討論を用いないで議長が決める。
- 第18条 議長は、議事を妨げると認めるものがあるときは、退場を命ずることができる。
- 第19条 議長は、議事整理のためやむを得ないときは出席者の発言を止め又は中止することができる。

第3章 議 事 録

- 第20条 議事録には次の事項を記載する。
1. 総会の名称と開会の年月日時
 2. 出席者の氏名
 3. 会議に附した議案の題目
 4. 議題となった動議及び発議者の氏名
 5. 議決事項
 6. 賛否の数を計算したときはその数
 7. 議長において必要と認めた事項
- 第21条 議事録は、議長の指名した会員2人がこれに署名捺印しこれを本会に保管する。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成26年4月1日から施行する。

〈評議員会議事規則〉

福岡歯科大学同窓会評議員会議事規則

第1章 総 則

第1条 趣 旨

この規則は、本会会則第9章第33条に基づいて定めるものとする。

第2条 氏名点呼

開議の時刻に至るときは、執行部はその席に着き、出席評議員の氏名を点呼する。

第3条 会議の開閉

1. 議長は、前条による氏名点呼の結果、定足数に達していることを確認したときは、開会を宣言する。
2. 会議の閉会は議長が宣言する。

第4条 欠席の届出

1. 評議員が欠席しようとするときは、予め議長に委任状と共に届けなければならない。
2. 評議員は、出席できないときは、その職務を代理する代理人を議長に届け出なければならない。

第2章 議 事

第5条 議題の宣言

議長は、会議に付する案件を議題とするときは、その旨を宣言する。

第6条 一括議題

議長は、必要があると認められるときは、2件以上の案件を一括して議題とすることができる。

第7条 案件の説明と質問

会議に付する案件は会議において提出者の説明を聞き、質問がある時は質問を行わせ、質問が終わった時は討論に付しその終結の後、表決に付する。

第8条 議決案件の条項、字句及び数字等の整理

評議員会は、議決の結果生じた条項、字句、数字、その他の整理については議長に委任することができる。

第3章 発 言

第9条 発言の許可等

1. 評議員が発言しようとするときは、挙手により議長を呼び自己の地区名と姓名を告げ、議長の許可を得なければならない。
2. 2人以上の挙手により発言を求めたときは、議長は先に挙手をした者と認めた者を指名して発言させる。
3. 評議員の発言は、すべて議長に向かってこれをなさなければならない。

第10条 発言内容

1. 発言はすべて簡明を旨とし、重複を避け、議題外にわたり又はその範囲を超えてはならない。
2. 議長は、その発言が前項の規定に反すると認めるときは注意をし、なお従わないときは発言を禁止することができる。
3. 評議員は、議題になっている案件に限り、質問をすることができる。

第11条 発言時間

1. 議長は、必要があると認めるときは予め発言時間を定めることができる。
2. 前項により、発言時間の定めをした場合に、評議員の発言がその予定時間を超えたときは、議長は注意し、又は発言の中止を命ずることができる。

第12条 議事進行に関する発言

1. 議事進行に関する発言は、議題に直接関係あるものについて、又は議事進行上の問題について、質問し、注意し、又は希望を述べるものでなければならない。
2. 議事進行の発言が、その趣旨に反すると認めるときは、議長は直ちに制止しなければならない。

第13条 議長の発言及び討論

1. 議長が討論しようとするときは、案件朗読後評議員席に着き代理者を議長席に着かせなければならない。

〈評議員会議事規則〉

2. 議長が討論したときは、その議題の表決が終わるまで議長席に復することができない。

第14条 質疑又は討論の終結

質問又は討論が終わったときは、議長はその終結を宣告する。

1. 発言が尽きないときは、評議員から質疑又は討論終結の動議を提出することができる。
2. 前項の動議が提出されたときは、議長は直ちに表決しなければならない。

第4章 議 決

第15条 表決事項の宣告

議長は、議決しようとするときは、議決に付する議案又は動議の内容を宣告しなければならない。

第16条 挙手による表決

表決は、挙手により議長はその多少を認定して可否を宣告する。

第17条 修正案の採決の順序

1. 修正案は、原案より先に採決しなければならない。
2. 同一の議案について数個の修正案が出された場合は、議長が採決の順序を定める。その順序は原案に最も遠いものから採決する。
3. 修正案がすべて否定されたときは、原案について採決しなければならない。

第5章 発議と動議

第18条 発 議

評議員会において評議員が議案を提出しようとするときは、提案理由を付し、5人以上の賛成者とともに連署して、開催日の2週間前までに会長に提出することができる。

第19条 動 議

動議は、5人以上の賛成者を得て提出することができる。

第6章 議 事 録

第20条 議事録の作成

議長は、評議員会の会期ごとに議事録を作成しなければならない。

第21条 議事録署名人

議事録は、議長及び当日議長の指名した出席評議員2名がこれに署名捺印し、これを本会に保管する。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成26年4月1日から施行する。

福岡歯科大学同窓会監査規則

第1章 総 則

第1条 本会会則第5章第15条第8項の規定に基づいて監事が行う監査は、この規則に定めるところによる。

第2条 監査は会務運営と財産管理の全般について、その実態を正確に把握し運営の合理化と業務の改善に資すると共に過誤を防止し、財産の保全を図ることを目的とする。

第3条 監事は、前条の目的を達成するため経理の適正と財産の保全の監査を行う。

第4条 監査は、公平不偏なる態度をもって事実に基づいて行い、想像推察によって事象を判断してはならない。

第2章 監査の方法・種別及び時期

第5条 監査の方法は、書類監査と実地監査とする。

第6条 監査の種別は、定時監査と臨時監査に分かれ、次の各号によることとする。

(1) 定時監査は年1回、4月に行う

(2) 臨時監査は必要と認めた場合

第7条 実地監査は年1回以上行うものとする。

第8条 監事は監査を実施するために役員又は事務局に対し、帳簿、諸報告書及び諸統計その他必要な資料の提出を命じ、又は事実の説明その他監査に必要な事項を要求することができる。

第9条 監査は、書類、帳簿、証拠書類等の記録に基づき、突合わせ、分析、実査、質問、立会い等必要と認める監査手段を選択適応して実施する。又、監査手段の選択適応については、その重要性、範囲、日数、効果等を勘案して決定する。

第3章 監 査 報 告

第10条 監事は、監査の都度、監査報告書を次により作成し、会長に提出するとともに、評議員会及び総会に監査の実地状況及び結果などを総括し、文書により報告するものとする。

第11条 会長は監査の結果に基づき対策及び措置を必要とするときは、速やかに理事会にはかり措置するものとする。

第12条 監事の監査報告書は、本会の運営管理全般に関し、有効な改善を計るための重要な資料とするものである。

第4章 補 則

第13条 役員の任期満了の年の年度会計決算書の監査は、新任監事で行い、旧監事が立会いするものとする。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成26年4月1日より施行する。

福岡歯科大学同窓会財産管理及び会計規則

第1章 総 則

第1条 趣 旨

この規則は本会会則第47条に基づいて定めるものとする。

第2条 財産管理及び会計の責任者

1. 財産管理及び会計の最終責任者は、会長とする。
2. 会長は、財産管理及び会計について直接的責任を会員に対して負うものとし、会計担当役員がこれを補佐する。

第3条 予算統制

本会のすべての収入及び支出は、予算に基づいて統制を行う。

第4条 予算期間

予算は単年度予算とする。

第5条 予備費の設置

1. 不時の支出に充てるため予備費を設けることができる。

第6条 決算剰余金の次年度繰越

各会計年度において決算上剰余金を生じたときは、次年度に繰り越すものとする。

第2章 財産の管理

第7条 会計の資金区分

本会の会計は、次の資金区分による。

- (1) 一般会計資金
本会の経常的な事業活動に使用される資金
- (2) 積立会計資金
引当資金としての積立資金
- (3) 別途会計資金
別途の事業資金

第8条 会計相互間の貸借の禁止

各会計相互間の貸借を禁ずる。ただし、評議員会の承認を得た場合はこの限りではない。

第9条 運用収益金

各会計の運用収益金は、各会計に繰り入れるものとする。

第10条 寄付金品の使途

使途を決めて寄付された金品はその使途に用い、決められていないものは評議員会に諮って使途を決める。

第11条 取引銀行・有価証券・固定資産

1. 次の事項は、会長が理事会の議を経て行う
(1) 取引銀行の新設及び変更
(2) 有価証券（電話債券を除く）の取得、売却、貸付、入質
(3) 固定資産の購入、改良、売却、除去、賃借、入質
2. 前項の規定にかかわらず、次の事項は評議員会の承認を要する。
(1) 多額の積立金の取引銀行の新設及び変更
(2) 不動産の購入、改良、売却、除去、賃借、入質

第12条 金銭の定義

1. この規則で金銭とは、現金、預金および合同運用信託をいい、現金とは通貨のほか、小切手、郵便為替証書、振替貯金証書などをいう。
2. 公社債、債権などの有価証券及び手形は金銭に準ずるものとして扱う。

第13条 資金の範囲

本会において資金の範囲とは、次に掲げるものとする。

- (1) 第12条に規定する金銭
- (2) 短期間において入金或いは支払うべきことが確実な、未収、未払金等の債権債務

第14条 固定資産の定義

1. この規則で固定資産とは次に掲げるものをいう。ただし、時の経過によりその価値を減少する償却資産については、耐用年数が1年以上で1単位当たり取得価格が償却資産課税額のものを用いる。

- (1) 有形固定資産
土地、建物（建物付属設備含む）・構築物・備品（機械装置、車両運搬具、器具含む）

- (2) 無形固定資産
借地権・施設利用権・電話加入権など

2. 第1項の規定にかかわらず、次に掲げる資産は、会計書類上固定資産として仕訳する。

- (1) 長期預託を目的とした預金・合同運用信託、長期保有を目的とした有価証券など。

第15条 固定資産の取得価格

固定資産の取得価格は次の各号による。

- (1) 購入によるものは、購入価格に付帯費用を

〈財産管理及び会計規則〉

加算した金額

(2) 交換によるものは、交換に際し提供した物件の帳簿金額

(3) 贈与によるものは、評価額

第16条 物品の定義

この規則で物品とは、事務用品等で耐用年数1ヶ月以上で、1単位当たり取得価格が5千円以上、償却資産課税額未満のものをいう。

第3章 会 費

第17条 入会金及び年会費

正会員、準会員、勤務会員の入会金及び年会費は次のとおりとする。

1. 入会金 30,000円
2. 年会費 10,000円

第18条 支払方法

1. 本会所定の入会金、会費並びに負担金は所属の都府県同窓会を経由して本会に支払わなければならない。但し、所属の都道府県同窓会を経由することが困難な場合には、直接本部に会費を支払うことを妨げない。
2. 会員は終身会員の資格を得るまでの本部同窓会会費を一括して納入することを認めることとする。但し、一括納入後はいかなる場合によっても会費の返金・追加徴収は行わないものとする。

第4章 会費の減額及び免除

第19条 会費の免除

1. 本会の会員にして、通算40年を経過し、本会則4章第9条第1項の義務を果たしているものについては、評議員会の承認を得て、その会費を全額免除する。
2. 本学卒業以外の本病院所属臨床研修医は、年会費は正会員の2分の1とし、入会金は免除とする。
3. その他の特別会員・名誉会長・名誉会員は、会費、入会金は徴収しない。
4. 前項のほか会員のうち特別な事情ある者に対しては、理事会の決定により、会費を減免することができる。

〈財産管理及び会計規則〉

第5章 予算の編成と執行

第20条 予算編成

予算編成は、会長が理事会の議を経てこれを行う。

第21条 予算科目

1. 予算は、収支の性質、目的に従い、款、項の科目に区別する。
2. 予算科目は、事業計画との関連を明瞭に表示する名称を用いる。

第22条 予算の補正

規程予算の変更を必要とするときは、会長は理事会の議を経て予算の補正を行い、評議員会の承認を求める。

第23条 款相互間の流用の禁止

予算の執行にあたって、各款の予算金額は、相互に流用してはならない。

第24条 予算執行上の理事会付議事項

次の事項は、会長が理事会の議を経て行い、次の評議員会で報告する。

- (1) 同一款内における各項の予算の流用
- (2) 緊急の必要にもとづく軽微なる予算の変更

第6章 決 算

第25条 決算の作成時期

会長は、毎会計年度終了後2ヶ月以内に会計担当役員に決算書類の作成を求め、会長に提出する。

会長は理事会でこの決算書類を審議、監事の認証を得て、評議員会及び総会の承認を求める。

第7章 補 則

第26条 委 任

この規則の施行についての必要な事項は、会長が理事会の議を経て定める。

〔附 則〕

1. この規則は平成16年5月29日から施行する。
2. この規則は平成24年5月26日から施行する。
3. この規則は平成26年4月1日から施行する。
4. この規則は平成30年6月2日から施行する。
5. この規則は令和元年5月25日から施行する。
6. この規則は令和4年6月11日から施行する。

福岡歯科大学同窓会福祉共済規則

第1章 総 則

第1条 この規則は、本会会則第1章第4条第2項に基づいて規定する。

第2条 本共済は、福岡歯科大学同窓会会員を以って組織し、会員相互扶助の精神に基づき、福祉厚生をはかることを目的とする。

第3条 前述の目的達成の為、次のことを行う。
弔慰金、慰労金、会員の療養、火災、天災その他、福祉厚生に関して必要な給付を行う。

第2章 給 付

〈給付〉

第4条 給付の有無並びに支給額は理事会において決定する。

〈弔慰金〉

第5条 会員死亡に対しては弔慰金、弔花、弔電を贈る。但し5万円を上限とする。

第6条 名誉会員および特別会員の死亡に対しては弔慰金、弔花、弔電を贈る。

〈会員の療養〉

第7条 会員が入院加療の場合は次の通りとする。
(入院後2ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して診断書を本部に提出)

イ. 1ヶ月以上 3万円

〈火災〉

第8条 火災見舞金は、次の通りとする。(火災発

生後6ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して本部に通知)

イ. 全焼又は総面積の50%以上 3万円

ロ. 総面積の50%未満 2万円

〈天災、その他〉

第9条 水害等の天災に対する見舞金は、次の通りとする。(災害発生後6ヶ月以内に都道府県同窓会会長を通して本部に通知)

イ. 全壊又は総面積の50%以上の破壊 3万円

ロ. 床上浸水又は総面積の50%未満の破壊 2万円

〈会長先決〉

第10条 会長は、緊急必要事項については応急の処分をすることができる。但し、後日理事会への報告が必要である。

〈会則改正〉

第11条 本共済の規則改正は理事会の承認を経て改正される。

〔附 則〕

1. この改正規則は、昭和59年5月より施行する。
2. この改正規則は、昭和61年5月より施行する。
3. この改正規則は、昭和63年5月より施行する。
4. この改正規則は、平成2年5月より施行する。
5. この改正規則は、平成10年5月より施行する。
6. この改正規則は、平成19年5月より施行する。
7. この規則は、平成22年5月29日より施行する。
8. この規則は、平成26年4月1日より施行する。

〈選挙規則〉

福岡歯科大学同窓会選挙規則

第1条 趣 旨

この規則は、本会会則第5章第14条第1項に基づいて定めるものとする。

第2条 選挙方法

選挙管理委員会が評議員会に委嘱する。

第3条 選挙管理組織

1. 選挙管理委員長を同窓会会長が指名し、評議員会の承認を得る。
2. 選挙管理委員長は選挙管理委員を若干指名することができる。

第4条 選挙管理委員長の任期

任期は2年とする。

第5条 選挙権

福岡歯科大学同窓会の評議員とする。

第6条 被選挙権

1. 福岡歯科大学同窓会正会員とする。
2. 重複立候補の禁止
候補者は会長と監事の重複立候補はできない。
3. 選挙事務関係者の立候補制限
選挙管理委員長、選挙管理委員は、その在職中に候補者となることはできない。立候補する場合は、その職を辞することとする。

第7条 選挙期日

選挙管理委員会が指定する日

第8条 選挙の告示

選挙は選挙期日の2ヶ月前に選挙管理委員会が告示する。

第9条 立候補の届出

選挙の告示から1ヶ月以内に郵送かあるいは文書で選挙管理委員会に届ける。

第10条 立候補の辞退

文書を選挙管理委員会の定める期日迄に選挙管理委員会に届ける。

第11条 当選人

1. 有効投票の最多数を得た者。

2. 得点が同数ならば（最多数同志）決選投票とする。

3. 候補者が定員数以内の場合には、投票を行わず、当該候補者をもって当選人と定める。なお、定員に足りないときには、別段の方法をとることができる。

第12条 当選人決定の告知及び告示

当選人が決定したら、選挙管理委員会は直ちに当選人の住所、氏名及び得票数、各候補者の得票数を会員に報告しなければならない。

第13条 当選の効力発生

当選人の住所、氏名の告示のあった日から生ずる。

第14条 選挙に際しては次の細則をもうける。

1. 選挙運動の期間
立候補の届出より選挙の前日まで。
2. 選挙運動
選挙管理委員会の指示に従う。
3. 選挙立会人
候補者は選挙立会人を1人指名して、前日迄に選挙管理委員会に届け出る。
4. 開票の指定及び告示
選挙管理委員会が指名及び告示する。

第15条 選挙規則の改正

選挙規則の改正は、選挙管理委員会が審議し、評議員会の承認を得るものとする。

〔附 則〕

1. この規約は、昭和54年3月より施行する。
2. この改正規約は、昭和58年5月より施行する。
3. この改正規約は、昭和62年5月より施行する。
4. この改正規約は、平成19年5月29日より施行する。
5. この規則は、平成22年5月29日より施行する。
6. この規則は、平成26年4月1日より施行する。

〈選挙規則〉

編集後記

今年度より「背振」の編集を担当することとなりました。これまで長きにわたり編集を手掛けてくださった小柳先生の後を引き継ぐ形となり、その重責を日々実感しています。令和7年からは、私たち会員が慣れ親しんできた本館が取り壊され、新しい建物へと生まれ変わる予定です。それに伴い、本館の写真を誌面に掲載いたしました。また、同窓会会員サイトにも写真を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。さらに、本館を懐かしむ企画も検討中です。詳細は後日改めてご案内があるかと思います。

現在、少子化の進行による影響は歯科界にも大きくのしかかっており、私たちの業界が抱える課題も少なくありません。しかし、そんな中でも未来に希望を持つ歯科業界を築いていくためには、私たち一人ひとりの努力に加え、政治的な力も欠かせないと考えています。そのような観点から、私たち同窓の仲間である比嘉なつみ先生を応援することは非常に重要です。歯科界全体の発展を目指し、同窓会の一員としても力を合わせていきたいと思っています。

また、時代の変化に合わせ、情報伝達の方法も紙媒体からデジタルへと移行が進んでいます。これまで発行してきた会員名簿についても、デジタル化への移行を検討しているところです。しかし、デジタル機器をお持ちでない会員の先生におかれましては、情報格差が生じる可能性があり、その対応も課題です。また、紙媒体に慣れ親しんだ方々にとって、デジタル移行が心理的な負担となることも予想されます。「手元に形あるものが欲しい」という

ニーズが根強いことや、紙媒体が持つ視認性の高さ、手軽さといった利点も見逃せません。一方で、デジタル化に際しては、最新のセキュリティ技術を導入し、個人情報保護を徹底することが重要です。このような変化に対応することは簡単ではありませんが、多角的な視点を持ちながら、柔軟に取り組んでいきたいと考えています。

最後になりますが、同窓生の皆さまの温かいご支援に心より感謝申し上げます。より良い「背振」を作り上げるべく努力してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

要 光 (拝)



『背振』 第43号

福岡歯科大学同窓会誌 2025年2月17日発行

発行責任者 吉永 修

編集責任者 要 光、大川 伊織

福岡歯科大学同窓会

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15-1

TEL (092) 863-2966 FAX (092) 863-2967

E-mail dousoukai@fdcn.ac.jp

印刷所 大同印刷株式会社

〒849-0902 佐賀市久保町大字上和泉1848-20

TEL (0952) 71-8520(代) FAX (0952) 71-8528

広報・企画情報委員会

副会長	要 光 (11期)
常務理事	大川 伊織 (23期)
理事 (広報・企画情報)	山本 直美 (12期)
理事 (広報・企画情報)	小田 瑞恵 (12期)
理事 (広報・企画情報)	加藤 秀治 (13期)
理事 (広報・企画情報)	吉元 剛彦 (23期)
理事 (広報・企画情報)	田代 剛 (26期)
理事 (広報・企画情報)	川口 智弘 (29期)

歯科から始める 医科歯科連携



歯科パノラマX線 画像解析AI

PanoSCOPE

パノスコープ

医療機器製造販売承認番号 30600BZX00098000

！簡単な操作で歯科パノラマX線画像を自動解析



▲自動解析に必要な操作は、たったこれだけ！

AI(人工知能)解析により
顎骨脆弱度評価を支援

文書作成も
簡単に



▲スクリーニング画面



▲解析結果

・本広告に掲載している画像は、イメージです。

・PanoSCOPEは、歯科医師による顎骨脆弱度の評価を行うための参考情報を提示することを目的としており、本プログラムによる検出結果のみで確定診断を行うことを目的としておりません。



株式会社 愛歯 本社

〒869-1102 熊本県菊池郡菊陽町原水 2849-1

TEL 096-340-5839 FAX 096-340-5180



ホームページ

チェアタイム短縮に活かせる

動画配信サービスはこちら



愛歯 WEB セミナー

Precio Plus

~ Dental Clinic System

シンプルで直感的なシステム

カルテ
入力

予約管理

歯周検査

柔軟な連携システムで徹底した時短を実現

・どこよりも使いやすく、どこよりも速く

独自のマウス自動誘導機能を搭載。歯科未経験者にも正確な入力をサポート。マニュアル不要の直感的な操作感で、最短・最速の入力をご提供いたします。

・自社開発だからできる柔軟な連携

自社製の歯周検査システムと予約管理システムとの連携が可能。スムーズな連携で業務効率を向上。さらなる時短を実現。



株式会社 システム開発

本 社：〒880-0022 宮崎市大橋3丁目101番地1号
鹿児島支社：〒890-0066 鹿児島市真砂町84-1 MIKI BLD202
大 分 支 社：〒870-0025 大分市顕徳町1丁目14-1 河邊ビル103

TEL0985-22-1168 FAX0985-23-0831
TEL099-285-1030 FAX099-285-1031
TEL097-538-6163 FAX097-538-6164

弔慰金
制度

医師
賠償責任
補償制度

休業
補償制度

70歳までの
収入あんしん
補償制度

ファミリー
お見舞金
制度

個人
賠償責任
補償制度

学術
講演会

傷害
補償制度

しっかりとした
安心を。



医療共済会

〒454-0011

名古屋市中川区山王1丁目7番24号 山王ビル

フリー
ダイヤル

0120-351153

ホームページで
簡単!資料請求!!

<http://www.ikyousai.jp>

医療共済会 |

検索





一般社団法人九州インプラント研究会(KIRG)

(公益社団法人日本口腔インプラント学会指定研修施設)



第31期生(2025年度)受講生募集

国宝指定を受けた熊本県山都町にある通潤橋

九州インプラント研究会(KIRG)のおすすめポイント

- ①充実したカリキュラムと実習、Q&A
- ②研修会修了後の生涯研修が継続しやすいシステム(入会金1万円+年会費1万円)
- ③短期間で専門医取得実績(最短研修修了後4年・高い合格率・現在までに専修医102名、専門医93名合格)
- ④KIRG主催学術講演会への無料参加と模擬ケースプレでの細やかな指導
- ⑤定期的なKIRG会誌の発行、無料配布

九州インプラント研究会 会長 伊東隆利

研修日程

- ① 2025年 4/19(土)・4/20(日)
- ② 2025年 5/17(土)・5/18(日)
- ③ 2025年 6/14(土)・6/15(日)
- ④ 2025年 7/19(土)・7/20(日)
- ⑤ 2025年 8/16(土)・8/17(日)
- ⑥ 2025年 9/20(土)・9/21(日)
- ⑦ 2025年 10/18(土)・10/19(日)
- ⑧ 2025年 11/15(土)・11/16(日)

■ 定 員 24名

■ 受講費用 77万円

(受講料70万円・消費税7万円)

※月毎の分割払い可能(お支払方法についてはご相談ください)

■ 研修会場

※開催場所については事務局まで
お問い合わせください。

申し込み先 お問い合わせ

(一社)九州インプラント研究会事務局

〒860-0851 熊本県熊本市中央区子飼本町4-14
伊東歯科口腔病院内(事務局担当:相良、兼子)
TEL 096-343-0377 FAX 096-341-1130
E-mail: kirg@itoh-dh.or.jp URL: <http://www.kirg-implant.jp>

受講料振込先

肥後銀行子飼橋支店 普通預金
店番号 154 口座番号 2135869
一般社団法人九州インプラント研究会





子どもたちに 誇れるしごとを。

目を輝かせて何かに没頭していた
あの頃から、私たちの
ものづくりへの気持ちは変わりません。
ずっと思い描いてきた夢や情熱を、
建造物に込めて未来へ伝えていきます。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

Thinking ahead. Focused on life.



Adverl SH

進化した「やさしい治療」

Er:YAGレーザーは、水を含んだ生体組織に対する蒸散能力が高く、表層にのみ反応が起こり、熱の発生が微小なため、痛みが少ないという特徴を持つ、人にやさしいレーザーです。

アドベールSHは治療に必要な機能をコンパクトなボディに集約したEr:YAGレーザー装置です。高パルス、高出力に加え、治療をナビゲートするプリセットモードで、さまざまな治療シーンに対応できます。

販売所 MORITA 大阪本社：大阪府吹田市東山町3-23-18 F 564-8650 TEL 06-6380-2525
東京支店：東京都中央区上野区17-15 F 110-8513 TEL 03-3824-6161
支店販売 MORITA 札幌支店：札幌市中央区南一条西5-10-10 F 011-8503 TEL 011-247-6112
販売名 アドベールSH Er:YAGレーザー 高出力分岐 高度管理医療機器（クラスⅡ）
特許番号 3050827000000000
お客様相談センター 歯科医療従事者様専用 T 0800-222-8020（フリーコール）



製品紹介ページ

新しいCAD/CAM冠



SHOFU BLOCK
PEEK

大白歯

強く、しなやかに



内面処理 CAD/CAMレジン用
アドヒーシブ (内面処理加算45点)

管理医療機器 認証番号 304AKBZX00039000

※保険適用必須要件



セメントビューティリンク
SA

管理医療機器 認証番号 304AKBZX00032000

推奨レジンセメント

※接着性レジンセメント使用が保険適用必須要件



支台歯処理 ビューティボンド
Xtreme

管理医療機器 認証番号 302AKBZX00026000

1液型のボンディング材

※より高い接着性能を発揮させるためご使用ください。

松風ブロック PEEK (CAD/CAM冠用材料(V))

【サイズ】1種・サイズ14 【色調】1色・アイボリー 5個入……¥28,000

販売名	一般的名称	承認・認証・届出番号
松風ブロック PEEK	歯科切削加工用レジン材料	管理医療機器 医療機器認証番号 303AGBZX00083A01

価格とは2024年11月現在の標準医院価格（消費税抜き）です。

保険適用
について
説明動画▶



世界の歯科医に貢献する

株式会社 松風

●本社：〒605-0983京都市東山区福福上高松町11 お客様サポート窓口(075)778-5482 受付時間8:30~12:00 12:45~17:00(土日祝除く) www.shofu.co.jp
●支社：東京(03)3832-4366 ●営業所：札幌(011)232-1114/仙台(022)713-9301/名古屋(052)709-7688/京都(075)757-6968/大阪(06)6330-4182/福岡(092)472-7595

実績と信頼 折り紙付き。



アサヒメタルアカウントシステム

SDGs 取組実施

アサヒプリテックは、金属資源のリサイクル事業の分野で、独自技術により
皆様から絶大な信頼をいただいております。業界No.1のシェアを実現しています。
また、お預かりした金属の分析から売却までをWeb上で安全に運用できる
「アサヒメタルアカウントシステム」の提供など、貴金属リサイクルをトータルでサポート。
歯科業界における資源循環サイクルを実現しています。



ASAHIPRETEC

アサヒプリテック株式会社

貴金属事業部 / 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12サピアタワー 11F
TEL: 03-6270-1820 FAX: 03-6270-1825 URL: <https://www.asahipretec.com/>

【営業所】札幌・青森・仙台・新潟・北関東・関東・横浜・甲府・静岡・名古屋・北陸・神戸・岡山・広島・四国・福岡・鹿児島・沖縄



デジタル×職人

ミリングチタン床

素材：チタン合金

物性が安定

ミリングチタンはチタンディスクから削りだすので鑄巣を
はじめとする鑄造欠陥の問題がありません。また偏析も
ないため、チタン本来の素材のまま仕上げるができます。

高い加工精度と適合性

従来の鑄造チタン床においても匠の技術によって
適合性を高めています。ミリングチタンはデジタル設計のため
数値化でき高精度で品質のバラつきがありません。

X-RAY
画像比較

鑄造チタン床



鑄造体表面からは
確認できないが
X線では○部分に
鑄巣が確認できる

クラスB部に鑄巣があると破折リスクが高まる
当社では鑄造チタン床はX線検査をおこない
合格した製品を納品しています

ミリングチタン床



博多営業所

〒812-0885

福岡県福岡市博多区相生町 3-3-40

TEL 092-574-4477 FAX 092-574-4480

歯も心も美しく
和田精密歯研株式会社

ソリオ エックスシリーズ

SOLIO Xz II
CBCT+Pan+Ceph **MAXIM**



■セファロ 1.0秒(側面) - センサ横使用



■パノラマ



■CT D-mode
ø51mm×55mm(H)

■CT I-mode
ø98mm×100mm(H)

「矯正診断をかえる」 待望のセファロモデル登場

- ピクセルサイズ76 μ mで実現した、朝日レントゲン史上最高画質のセファロ画像。
- ブレを防ぐ、撮影時間わずか1.0秒以下のワンショットセファロ撮影。
- CT撮影後に、かんたんな操作で行える、様々なCT画像再構成機能が診断の幅を広げます。
- セファロ センサ 回転機構 搭載 新モデル。

販売名: ソリオエックスシリーズ 認証番号: 228AABZX00061000

製造販売元 **朝日レントゲン工業株式会社** <http://www.asahi-xray.co.jp>

〒601-8203 京都府京都市南区久世桑山町376番地の3 TEL: 075-921-4330 FAX: 075-921-6675

※ 日本国内の各拠点の詳細につきましては、WEBサイトに掲載しております。 ※ 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

朝日レントゲンメールマガジン

最新の製品情報・展示会情報・セミナー情報等をお送りします。
登録方法: asahi@f.bmb.jp に空メールを送信してください。



私たちは新たな付加価値を創造し、
モノにもう一度「命」を吹き込む会社です。

Make things regenerate.

We create and add extra values, in order to breathe "life" into matters once again.

- **Recycle** 貴金属分析・精錬
- **Clean** 産業廃棄物適正処理
- **Support** 歯科研修会場 DHA

AS 相田化学工業株式会社

鹿児島営業所

〒890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田2-26-5

TEL: 099-812-6850 FAX: 099-812-6851

札幌・仙台・新潟・郡山・埼玉・千葉・神奈川・東京
甲府・長野・静岡・名古屋・大阪・広島・香川・福岡・鹿児島



歯科電子カルテシステム デンタルクィーン V4

Version.4

New
Version

スピーディーな入力と安心のチェック機能！ Best Solution for Dental Clinic.

DENTALQueen V4

歯科医院業務を一元管理し、快適な医院環境作りをサポート致します。

OPTION

P-Pad

(衛生士向け)
タブレット商品

DENTALQueen との
データ連携にも対応

歯周検査



実地指導記録



衛生士業務記録簿



株式会社 ソフトテックス

<https://softteks.com>

本 社 〒880-0911 宮崎市大字田吉 6307 番地 2

福 岡 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 4 丁目 4 番 23 号 第 3 岡部ビル 10F

鹿児島 〒890-0052 鹿児島市上之園町 25 番地 1 ソフトマックスビル 3F

TEL : 0985-63-1456

TEL : 092-436-7215

TEL : 099-263-8860



九州で歯科開業や歯科器械、歯科器材のことなら株式会社ユーケイデンタルにお任せください。

UK DENTAL

- | | | |
|----------|-----------|------------------|
| □ 熊本店 | 〒862-0967 | 熊本市南区流通団地1丁目63番地 |
| □ 福岡店 | 〒814-0164 | 福岡市早良区賀茂3丁目2番32号 |
| □ 久留米店 | 〒839-0809 | 久留米市東合川7丁目13番2号 |
| □ 長崎店 | 〒852-8016 | 長崎市宝栄町9丁目7番地 |
| □ 大分店 | 〒870-0044 | 大分市舞鶴町1丁目2番19号 |
| □ 宮崎店 | 〒880-0835 | 宮崎市阿波岐原町猿野3210番地 |
| □ 鹿児島店 | 〒890-0046 | 鹿児島市西田1丁目13番7号 |
| □ 商品センター | 〒862-0967 | 熊本市南区流通団地1丁目68番地 |



ユーケイデンタル公式LINE
最新情報をお届け中

ユーケイデンタル

検 索

<http://www.ukdental.co.jp/>

RACE[®] EVO

レイス エボ

ニッケル チタン ファイル

超柔軟性を実現！
周期疲労破折を軽減！
切削効率をアップ！
滅菌済み！

2022年4月
健保適用品
Ni-Tiロータリーファイル

ヒートトリートメントによって実現した超柔軟性

レイス エボを使用した臨床ケース



90度を超えるような湾曲では柔軟性の高い
ファイルを使用しないと形成は難しい。



コールドハイドロリック
コンデンセーションにて根管充填

臨床写真提供：ユーズデンタルクリニック院長 牛窪敏博 先生

医療機器認証番号 302AKBZX000B4000 管理医療機器

白水貿易株式会社 福岡営業所

〒812-0013 福岡市博多区博多駅2-18-30 八重洲博多ビル5F
TEL (092) 432-4618 FAX (092) 432-4617

福岡デンタル販売株式会社

〒813-0034 福岡市東区多の津4-7-5 KNセンタービル
TEL (092) 629-1491 FAX (092) 629-1494

Kawaryo Group



歯科用スクラップを どうしていますか？

現在、環境問題は、地球規模となり、人々の生活に大きく関わっています。
一人一人ができること、市や国ができること、スケールは様々ですが、
企業ができることのひとつとして、限りある資源を大切に
そして有効に利用していくことがあります。
このリサイクルについて、独自のシステムを開発、構築し、
環境保全や人々に喜ばれる事業を目指しています。

貴金属及び歯科用撤去冠のリサイクル

(株)ICAWARYO九州

0120-920-942

HP <http://www.kawaryo-q.co.jp>

九州本社 〒860-0052 熊本県熊本市西区田崎本町10-4
TEL 096-356-2578 / FAX 096-274-1221
福岡支社 〒812-0053 福岡県福岡市東区箱崎1-11-1F
TEL 092-409-2418 / FAX 092-409-2427
鹿児島営業所 〒891-0112 鹿児島県鹿児島市魚見町112-12
TEL 099-297-6938 / FAX 099-297-6935
沖縄営業所 〒901-2214 沖縄県宜野湾市我如古2-7-12
TEL 098-897-4002 / FAX 098-988-0248

Kawaryo Group Organization

(株)ICAWARYO PGM 〒431-1105 浜松市中央区湖東町5849

ユタカ(株) 〒616-8165 京都市右京区太秦桂ヶ原町 20-3

(株)ピージーエムプラス 〒770-0045 徳島市南庄町 2-24-1

歯科医院の あれ まとめて **コレ** **お任せ** ください

JMT ONE STOP SERVICE



貴金属リサイクル



清掃 & 原料回収・リサイクル



歯科材料販売



産業廃棄物回収



レントゲンフィルム回収



石膏トラップ清掃

日本メディカルテクノロジー株式会社

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル6F



<http://www.jmt-eco.co.jp>

- 仙 台 宮城県仙台市宮城野区福田町南 1-9-45 TEL.022-706-7180
- 東 京 東京都練馬区豊玉上 2-2-5-2F TEL.03-3993-2211
- 神奈川 神奈川県横浜市都筑区仲町台 1-32-10-201 TEL.045-941-6693
- 静 岡 静岡県静岡市駿河区曲金 7-2-50 TEL.054-663-9378
- 名古屋 愛知県豊明市新田町大割 32-1 TEL.0562-95-2186
- 大 阪 大阪府大阪市西淀川区大野 3-1-28 TEL.06-6473-3811
- 福 岡 福岡県福岡市東区箱崎ふ頭 6-1-7 TEL.092-631-1421

歯科医院の予約・診察券アプリ

どこでもアポアプリ

連絡業務軽減と患者離脱防止をご支援

受付プロセス変革

Point

1

予約台帳をデジタル化することで
予約に関する電話対応時間の削減を支援。
リアルタイムに予約情報を共有、チェアサイド予約も可能。

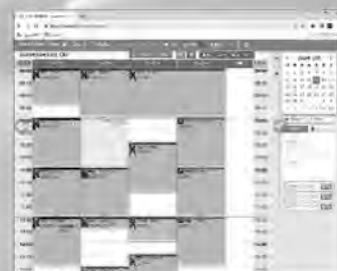


患者様との接点強化

Point

2

予約前日に診察券アプリから自動でリマインダーを送信
定期健診のご案内も配信し、無断キャンセルを防止、
継続的な通院をサポート。



お問合せはこちらまで

株式会社デンサン

宮崎県宮崎市大字赤江字飛江田224

医療営業部 TEL : 0985-56-4156

Mail : dental-ml@densan-soft.co.jp

Web : <https://www.densan-soft.co.jp>



くらしを支える、良質な地域医療をすぐそばで。

ael クオール薬局

Quality Of Life

全国すべての病院・医院の処方箋をお受けいたします。

クオール薬局福岡店 福岡県福岡市早良区田村2-15-35
TEL:092-836-6389 FAX:0120-088-901



お薬ができたらLINEでお知らせ

処方箋
LINEで簡単予約!

ご利用は
こちらから

友だち追加



エネルギーがつくりだす
未来の環境を
あなたに。
未来を明るく
照らします。

世の中には、いろいろな電気の道が走っています。
その道をいろいろなカタチにしながら、
きちんと整備し、未来へとつなぐ。
それが私たちの仕事です。

HOT LINE OF HUMAN RELATIONS

設計・施工／電気設備工事（屋内・屋外）、空調・給排水衛生設備工事

株式 佐 電 工
会社

本 社／佐賀市天神1丁目4番3号 0952-23-4144
福岡支店／福岡市早良区祖原21番2号 092-821-3033

西鉄ホテルグループは 55 周年を迎えました



55

NISHITETSU
HOTEL GROUP

ともに進む

～伝統のその先へ～



since1969



since1989



since1999



since2016



宴会・会議・宿泊のご予約は公式 HP から



西鉄グランドホテル

〒810-8587 福岡市中央区大名 2-6-60

TEL.092-781-0711



宴会・会議・宿泊のご予約は公式 HP から

ソラリア西鉄ホテル福岡

〒810-0001 福岡市中央区天神 2-2-43

TEL.092-761-6500



博多と天神の間に位置する、ビジネス・観光の拠点。

細やかなおもてなしで皆さまをお迎えいたします。



The New Otani

ホテルニューオータニ博多

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-2

TEL.(092)714-1111(代)

www.newotani-hakata.com



クリニックの警備も！
防災対策も！

にしけい
OK!

※九州に本社を置く警備会社の中で2021年度売上高第一位(出典:警備保障タイムズ)



防災用品も

にしけい **OK!**



0120-296-241

フリーダイヤルお問い合わせ窓口



THE NEW
X3



駆けぬける歓び

あなたの毎日を歓びで満たしてゆく一台を。

BMW正規ディーラー

I dex BMW

宮崎中央店

〒880-0036 宮崎市花ヶ島町柳ノ丸510

TEL : 0985-34-9366

鹿児島中央店

〒890-0072 鹿児島市新栄町8-7

TEL : 099-203-0480

BMW Premium Selection 鹿児島中央店

〒890-0068 鹿児島市東郡元町12-46

TEL : 099-203-0286



福岡歯科大学同窓会主催 令和6年度 第37回学術講演会

歯科医療の 今とこれから

THE PRESENT AND FUTURE OF DENTISTRY

—歯列不正をアライナーと
ブラケットの矯正治療から考える—

2025
3/9 日

講師紹介



エムアンドアソシエイツ
矯正歯科 院長

増岡 尚哉

NAOYA MASUOKA

アライナー矯正の
進化と未来

講演時間 9:15 - 10:35

本講演では、様々な不正咬合に対してのアライナー矯正によるアプローチについて、当院における治療コンセプトをご紹介させていただくと共に、アライナー矯正の導入に伴うもう一つの側面として、クリニック内のデジタル化に関する当院の取り組みについてもご紹介させていただきたいと思っております。この講演を通じて、皆様の日々の臨床にアライナー矯正を組み込んでいただくきっかけとなれば幸いです。



クリスタル歯科 院長

金成 雅彦

MASAHIKO KANENARI

総合歯科臨床に
おける矯正治療
TADの臨床応用とその有効性

講演時間 10:55 - 12:15

矯正治療の長い歴史の中で様々な治療方法が導入され、変革を遂げてきた。近年、矯正治療のオプションとして TAD が導入され、矯正治療の簡便化や治療期間の短縮に大きく寄与してきたと感じる。矯正治療の概念に大きな変化はないが、治療方法が変化しその有用性が現在、認知させている。今回、当院における治療例を提示させていただき、TAD の意義や臨床応用方法に関して論じてみたい。



きたその歯科矯正 院長

北園 俊司

SHUNJI KITAZONO

ブラケット矯正の
難しさ・楽しさ・すばらしさ
(GP症例を通じて・・・)

講演時間 13:35 - 14:55

矯正は補綴と同じで ICP=CR で仕上げる事が重要である。アライナー矯正でもその目標が達せればどちらの治療法でも構わないと考えている。他院での矯正後、下顎位が安定せず顎関節部の疼痛、咀嚼障害また審美障害を主訴に来院する患者もあり、治療ゴールを間違えるとトラブルに直結する治療法だと考えている。今回ブラケット矯正の特徴を紹介し、アライナーでも同等の治療は可能なのか、矯正治療をどのように介入すべきかを検討したい。



座長紹介

福岡歯科大学
同窓会学術委員長

松永 興昌

TATSUAKI MATSUNAGA

(現地開催と後日オンデマンド配信)

日時 3月9日(日) 9:10 ~ 16:00

会場 福岡県歯科医師会館
〒810-0041 福岡市中央区大名1丁目12番43号

オンデマンド配信 3月17日(月) ~ 3月30日(日)



▼ お申し込みは、QR コード / FAX(裏面に記載) / ホームページのいずれかよりお願い致します。 ▼

同窓会入会のご案内

- **同窓会の入会金と年会費**：入会金 3 万円、年会費 1 万円
同窓会誌・名簿等の刊行物の発送は同窓会会費の支払いが、3年以上未納が続いた場合は停止されます。また、学術講演会・セミナーの参加も会員外の参加費となりますので、同窓会費の納入（年会費 1 万円）をお願いし
- **終身会費制度**：通算 40 年を経過して会費納入がなされた会員に対しては、以後の会費は免除される制度です。できるだけ、滞納なくお支払いされる事をお勧めします。
- **住所・氏名等の変更届け**：用紙にご記入の上ファックス等でお送り下さい。
- **地区同窓会（支部）へ参加しましょう。**
地元の地区同窓会の活動は身近で、同窓生同士で共に理解することができ、同窓会という横の繋がりが地域活動の中では時には、非常に有り難いものがあります。出来るだけ地元の地区同窓会に参加し親交を深めて頂きたいと思います。現在、地区同窓会（支部）において、本部会費を一括して納入する制度を導入する地区同窓会（支部）も増加し、会員把握を含め同窓会の活性化に繋がっております。本部会費の地区同窓会による一括納入に関しましては、所属地区同窓会の担当の先生へお問い合わせ下さい。

ご不明な点は、同窓会事務局までお問い合わせ下さい。(Tel092-863-2966 Fax092-863-2967)

「福岡歯科大学同窓会における個人情報の取扱」

- 同窓会事務局に登録される皆様の情報は、氏名／卒業年(期)／自宅住所／自宅電話番号／勤務先／勤務先電話番号です。また、勤務先などが定まっていない若い卒業生においては、帰省先の登録が行われています。その他にメールアドレス、元所属クラブ等といったことが登録されています。
- 収集した個人情報は、同窓生名簿の作成や同窓会会誌発送時の宛名出力など同窓会活動の付帯業務に使用する事を目的としており、それ以外には利用については、各種委員会並びに同窓会役員会との協議の上、やむを得ない事由に限定して利用いたします。
- 提供先は、同窓会会員（在校生を含む）、福岡歯科大学現・旧職員や広告主とし、原則としてそれ以外に頒布いたしません。尚、広告主様につきましても個人情報保護の観点から、慎重な取り扱いを協定いたします。
- 収集した個人情報を第三者へ委託並びに再委託する場合は、各種委員会にて委託業者等に守秘義務履行を基本に選定し、理事会において決定致します。
- 収集した個人情報について、委託先も含め、機密保護には万全をつくします。
- ご自分の情報は、任意です。ただし提供されない場合は、同窓会から各種案内（会誌、大学広報誌、学術案内、同期会等）が出来なくなる場合があります。また、同窓会名簿にも氏名のみの掲載となります。
- ご自分の情報を照会したい場合は、同窓会事務局までご連絡ください。ご本人であることが確認できた場合に限り開示いたします。その際、ご自分の情報の訂正または削除を希望される場合はそれに応じます。

「福岡歯科大学同窓生名簿」登録(変更)届け

フリガナ

氏 名

(男・女)

フリガナ

旧 姓

卒業期

期卒

所属地区名

名簿冊子上に掲載しない箇所には✓を入れてください

① 自 宅	住 所	〒	県	
	Tel 番号			
	Fax 番号			
② 勤 務 先	住 所	〒	県	
	勤務先名	開業・勤務医・教職・大学院・研修医・その他		
	Tel 番号			
	Fax 番号			
フリガナ E-Mail		※フリガナ：例えば) i「アイ」・数字の1「イチ」 英字 o「オー」・数字の0「ゼロ」		
メールマガジン		1.新規希望 2.希望しない 3.登録済み 4.解除したい		
郵送物送り先		①自宅 ・ ②勤務先 ・ ③帰省先		

以下は名簿に記載されません。住所等が不明になった際に郵便物を送ることがあります。

③ 帰 省 先	住 所	〒	県	
	Tel 番号			
	Fax 番号			
所属クラブ				

Fax 092-863-2967 / dousoukai@co | | ege.fdcnet.ac.jp

★同窓会事務局(本館7F)までに返送ください！

福岡歯科大学同窓会誌用原稿用紙

FAX 092-863-2967

[illegible]

とくじかい 私たちは徳治会歯科医院となり 新たな未来の創造を始めます

今から40年前吉永歯科医院を開業しました。

その後法人化し仲間も増えて熊本県内で3医院展開できるまでになりました。

法人名は医療法人社団徳治会といいます。

徳治会は孔子の教えである「徳治主義」より命名しています。

企業とは社会貢献できる人間の育成の場であり、

その在り方を私は「徳治主義」のなかに見出しました。

孔子の教えの中にある五常の「徳」を身に着け、五輪関係を維持することにより、

よりよい社会を創造するために貢献できることを目指しています。

この考えを熊本の地域、そして歯科業界にも広め歯科といえば徳治会。

徳治会に入りたいと思ってもらえるような歯科グループを目指していきます。

(旧)

医療法人社団徳治会
吉永歯科医院

医療法人社団徳治会

松山歯科医院 MATSUSHITA
DENTAL OFFICE

医療法人社団徳治会

長野歯科医院

(新)

医療法人社団徳治会
徳治会歯科医院 宇城

医療法人社団徳治会
徳治会歯科医院 八代

医療法人社団徳治会
徳治会歯科医院 合志

